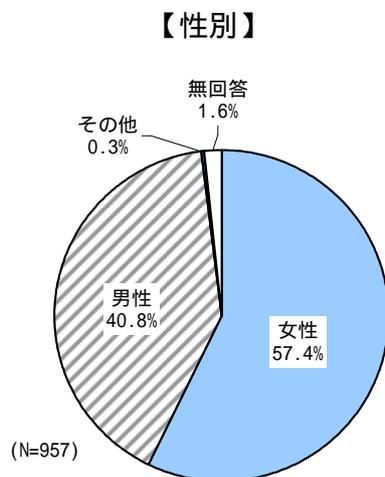


## 調査結果

## 回答者の属性

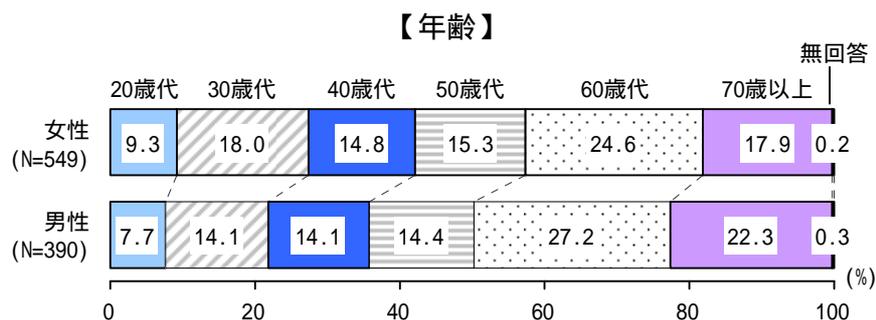
## ・性別



回答者の性別は、「女性」が 57.4%、「男性」が 40.8%となっており、女性が多くなっている。

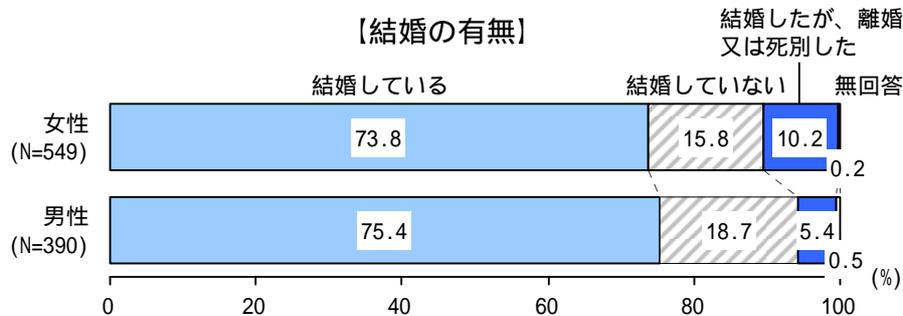
「その他」は分析に必要なサンプル数が得られなかったため、以降の分析には反映できませんでした。

## ・年齢



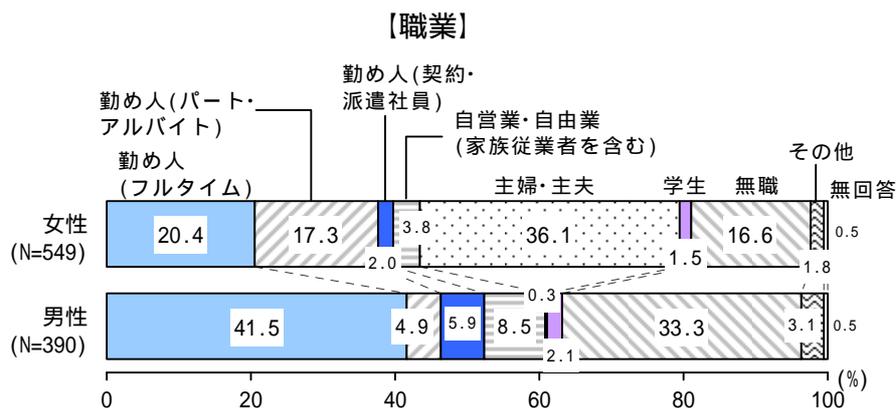
回答者の年齢は、男女ともに「60歳代」が最も高く、女性で24.6%、男性で27.2%となっており、60歳代以上の割合は、女性が42.5%、男性が49.5%となっている。

## ・結婚の有無



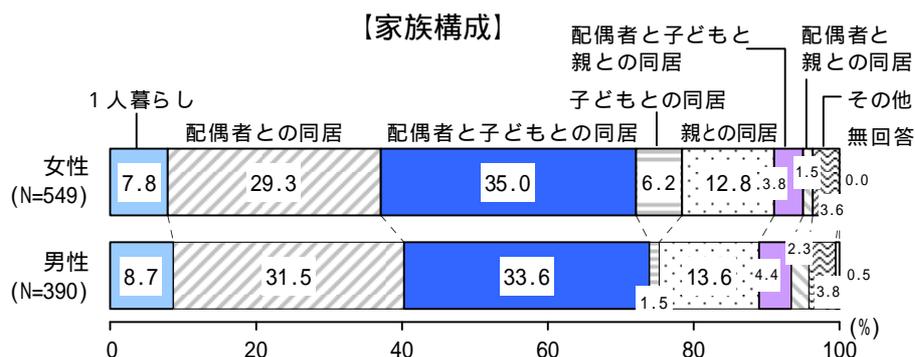
回答者の結婚の有無は、「結婚している」が女性で73.8%、男性で75.4%と男女ともに7割台となっている。「結婚していない」は男女ともに1割台となっている。

・職業



回答者の職業は、女性は「主婦・主夫」が 36.1%と最も高く、次いで「勤め人（フルタイム）」が 20.4%、「勤め人（パート・アルバイト）」が 17.3%となっている。男性では「勤め人（フルタイム）」が 41.5%と最も高く、次いで、「無職」が 33.3%となっている。

・家族構成

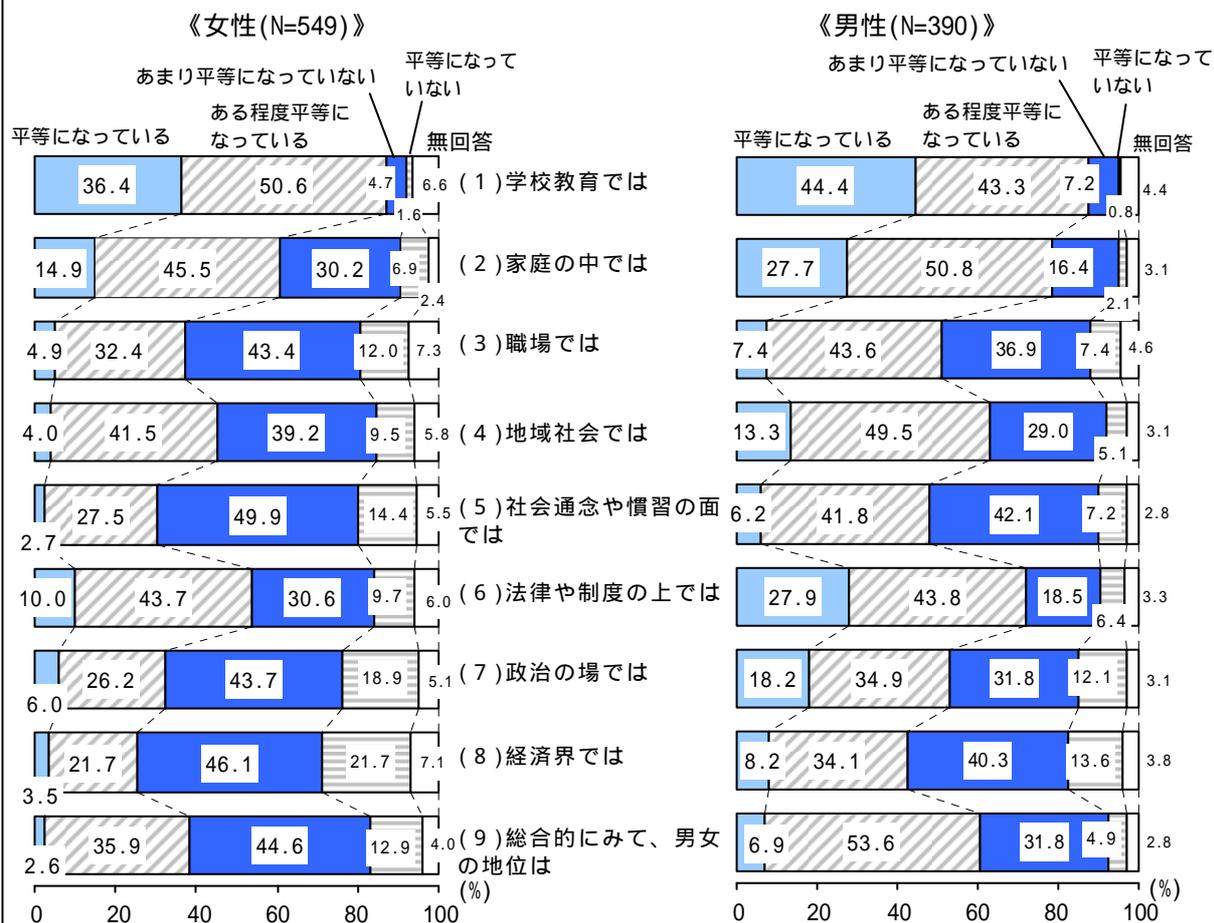


回答者の家族構成は、「配偶者と子どもとの同居」が女性で 35.0%、男性で 33.6%とともに 3割台、「配偶者との同居」が女性で 29.3%、男性で 31.5%となっている。「1人暮らし」は男女ともに 1割未満となっている。

## 1. 男女平等について

問1 あなたは、男女の地位がどの程度平等になっていると思われますか。次の(1)～(9)の分野で、あてはまる番号に をつけてください。(各項目に は1つ)

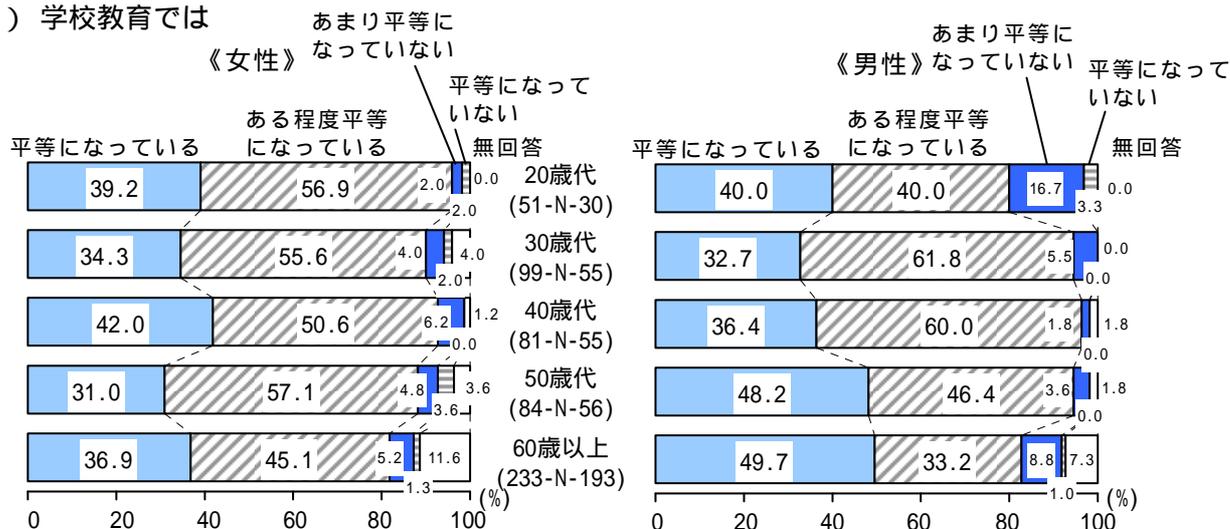
【図1-1 男女の地位の平等観】



男女の地位の平等観は、「(1)学校教育では」を除いて『不平等』(「平等になっていない」「あまり平等になっていない」を合わせたもの)と感じている人の割合は女性の方が高くなっている。特に、「(8)経済界では」で67.8%、「(5)社会通念や慣習の面では」で64.3%、「(7)政治の場では」で62.6%といずれも女性は6割以上となっている。一方、「(1)学校教育では」は男女とも8割以上が『平等』(「平等になっている」「ある程度平等になっている」を合わせたもの)と感じている。「(9)総合的にみて、男女の地位は」では女性で『不平等』と感じている人が57.5%、男性では36.7%と男女差が20.8ポイントと大きく、認識に差がみられる。全体を通して積極的な『平等』と評価する「平等になっている」の割合は女性で低く、「(1)学校教育では」のみで3割以上となっている。男女差をみると、「(6)法律や制度の上では」で17.9ポイント、「(2)家庭の中では」で12.8ポイント、「(7)政治の場では」で12.2ポイント、いずれも男性の方が高くなっている。(図1-1)

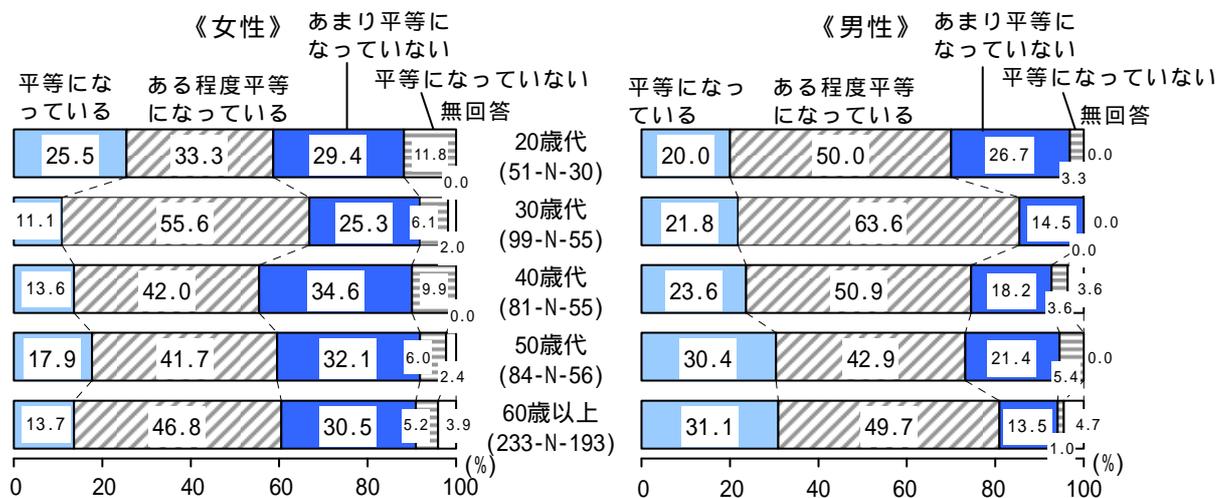
【年代別 男女の地位の平等観】

(1) 学校教育では



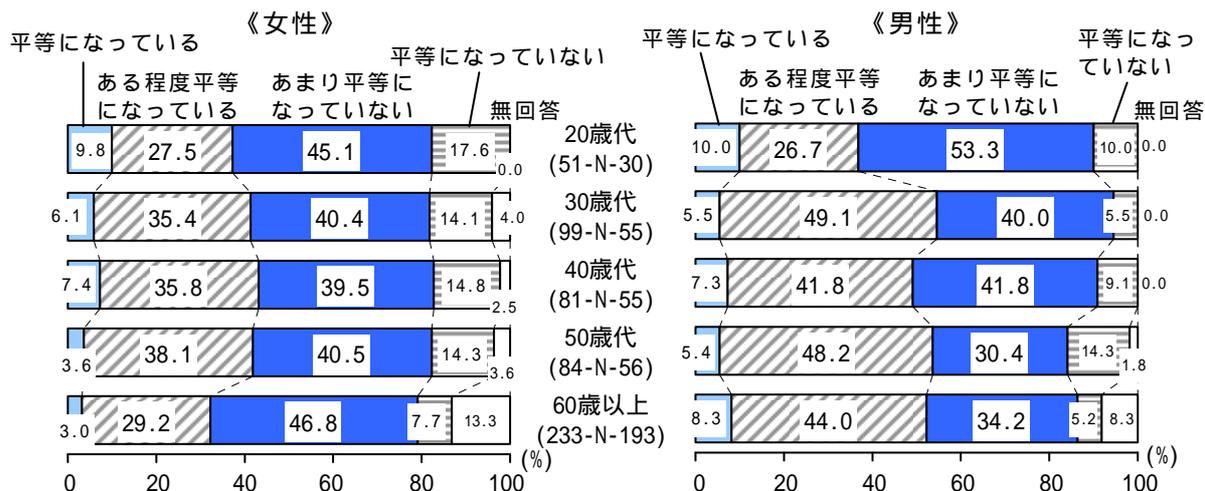
年代別に見ると、『平等』は女性の20歳代、40歳代で9割台と高く、60歳以上で若干低くなっている。男性で『平等』は30~50歳代で9割台と高くなっている。20歳代を見ると、『平等』は女性の方が16.1ポイント高くなっており、男女差がみられる。

(2) 家庭の中では



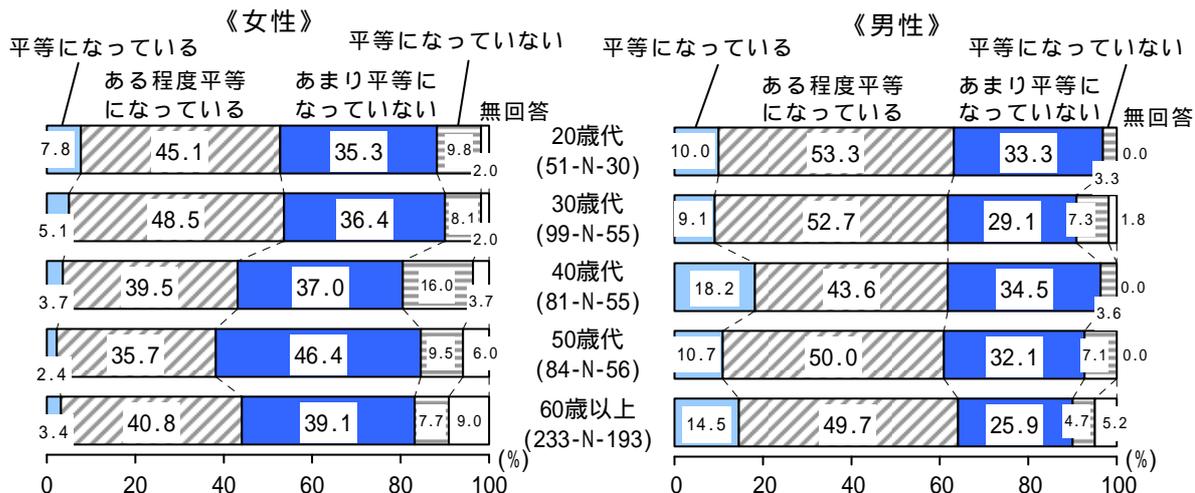
年代別に見ると、「平等になっている」は、女性では20歳代で25.5%と高くなっている。

(3) 職場では



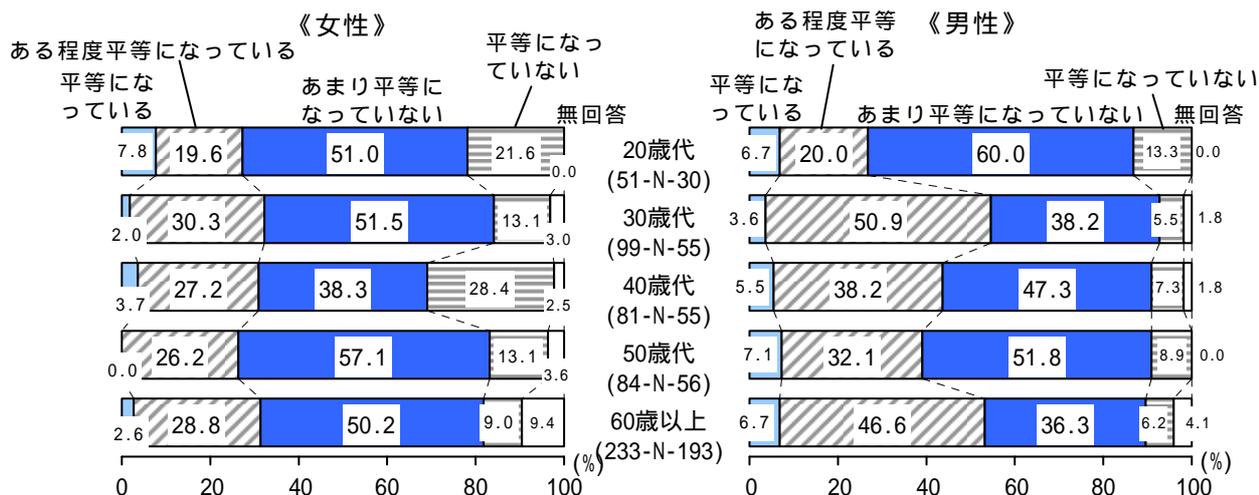
年代別にみると、60歳代では『平等』は女性で32.2%、男性で52.3%と男女差が大きくなっている。

(4) 地域社会では



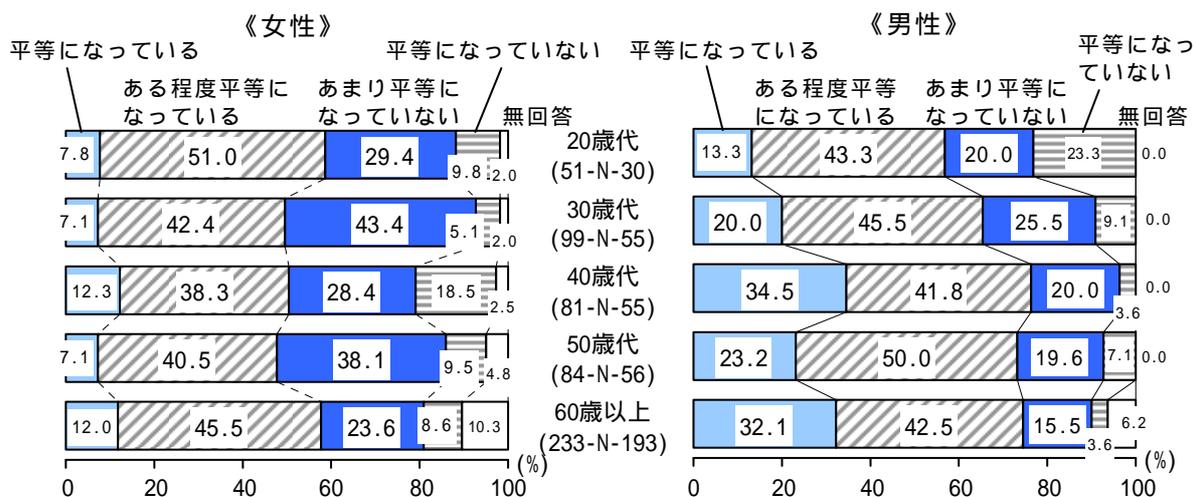
年代別にみると、男性では全年代で6割台と年代での差は見られない。

(5) 社会通念や慣習の面では



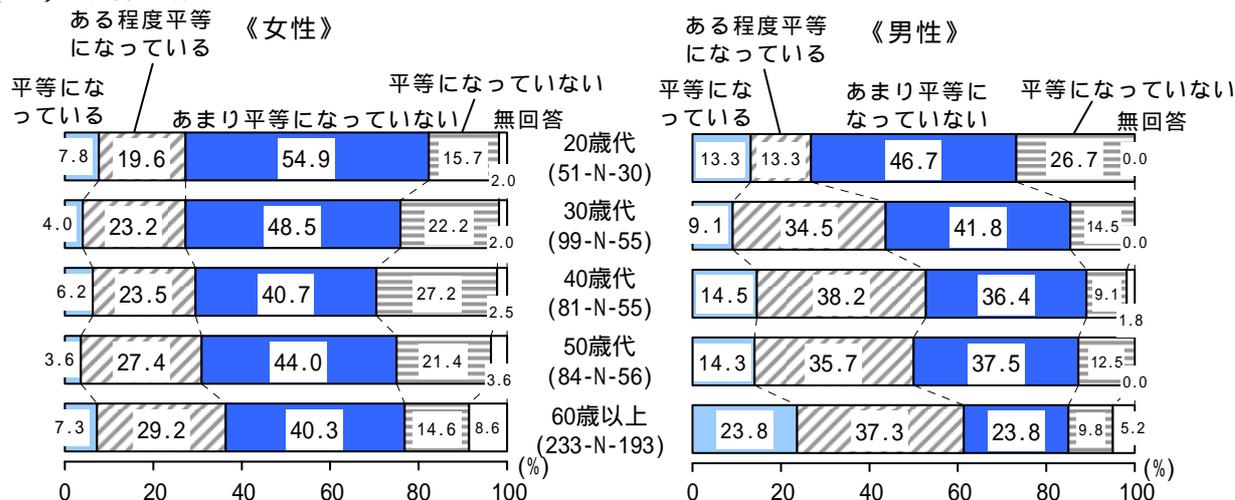
年代別にみると、20歳代の男性では『不平等』は7割台と高くなっている。30歳代では男女差が大きく、女性の方が20.9ポイント高くなっている。「平等になっていない」は女性の40歳代で28.4%と高くなっている。

(6) 法律や制度の上では



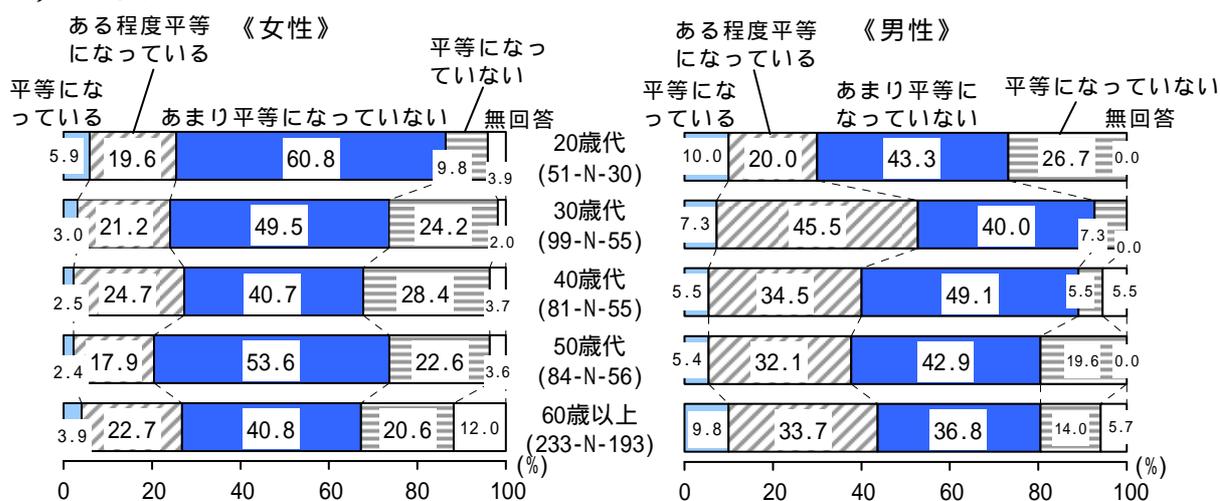
年代別による大きな違いはみられない。

(7) 政治の場では



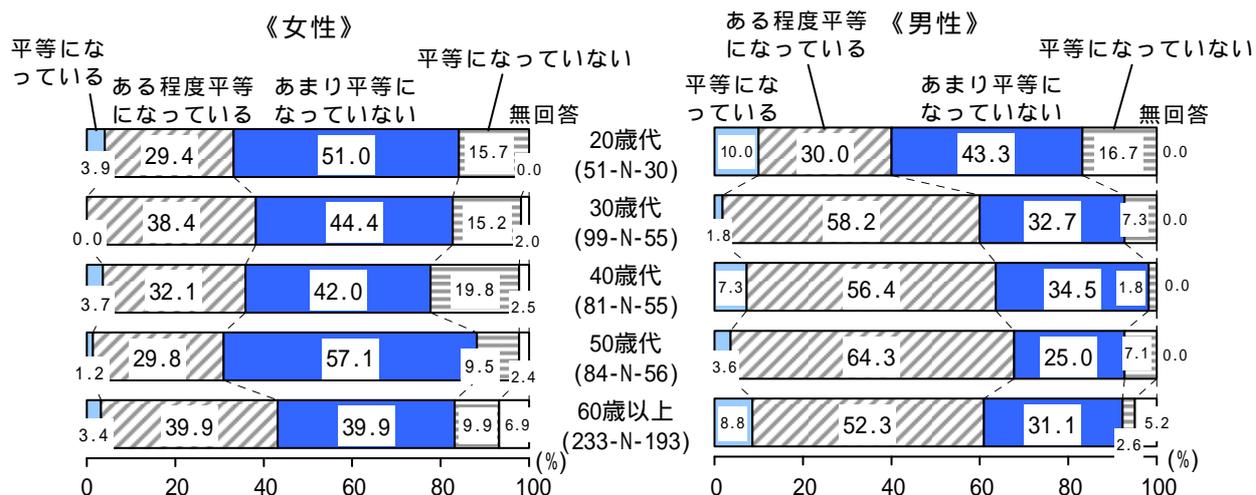
年代別にみると、男女ともに『不平等』は年代が下がるほど割合は高くなる傾向にあり、20歳代で『不平等』は女性で70.6%、男性で73.4%となっている。「平等になっていない」は女性では40歳代で27.2%と高くなっている。

(8) 経済界では



年代別にみると、男性では30歳代で『不平等』が47.3%と低く、同年代の女性(73.7%)と差がある。

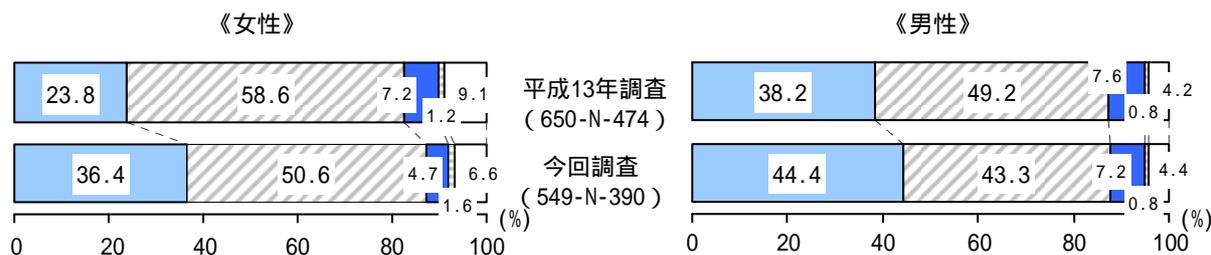
(9) 総合的にみて、男女の地位は



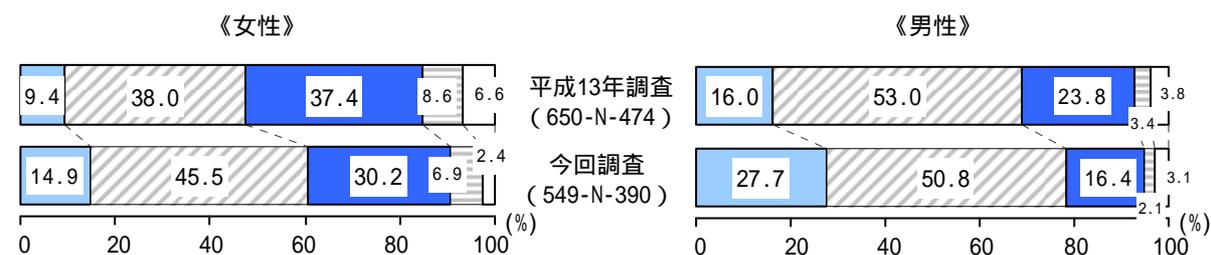
年代別にみると、女性では60歳以上を除く年代で『不平等』は6割台となっている。男性では20歳代で『不平等』は60.0%と高くなっている。「平等になっていない」は女性の40歳代で19.8%、男性では20歳代で16.7%となっている。

【経年比較 男女の地位の平等観】

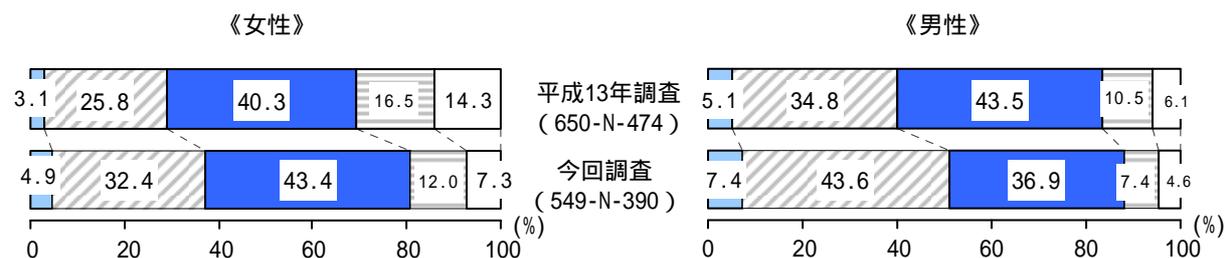
(1) 学校教育では



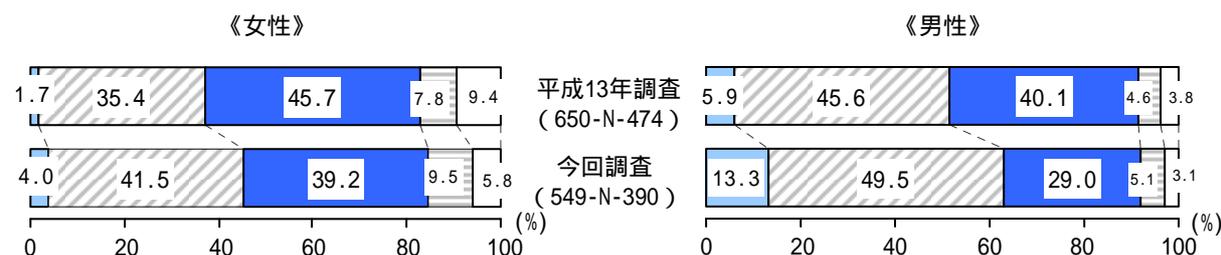
(2) 家庭の中では



(3) 職場では

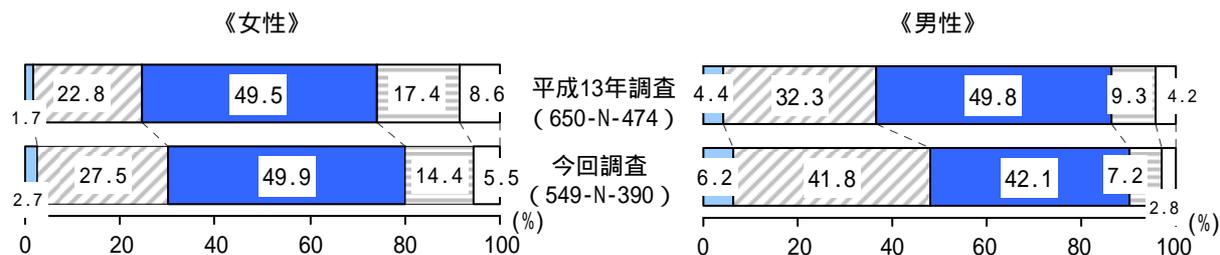


(4) 地域社会では

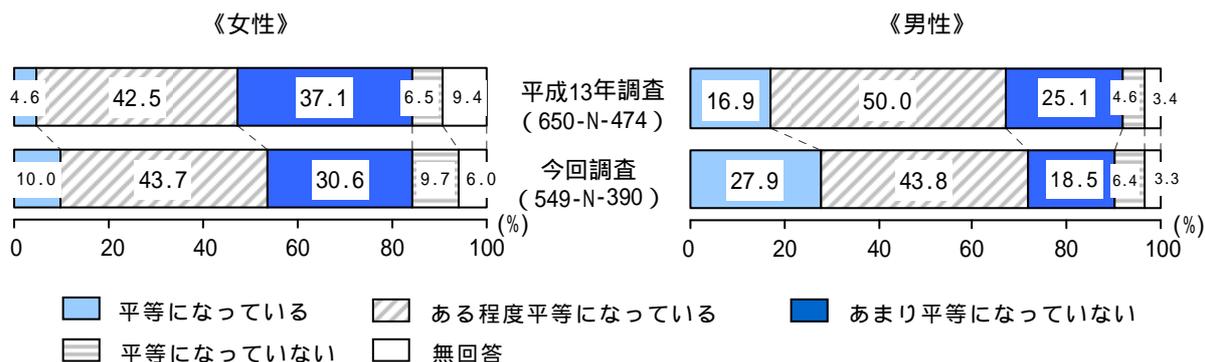


平等になっている
  ある程度平等になっている
  あまり平等になっていない
  平等になっていない
  無回答

(5) 社会通念や慣習の面では



(6) 法律や制度の上では

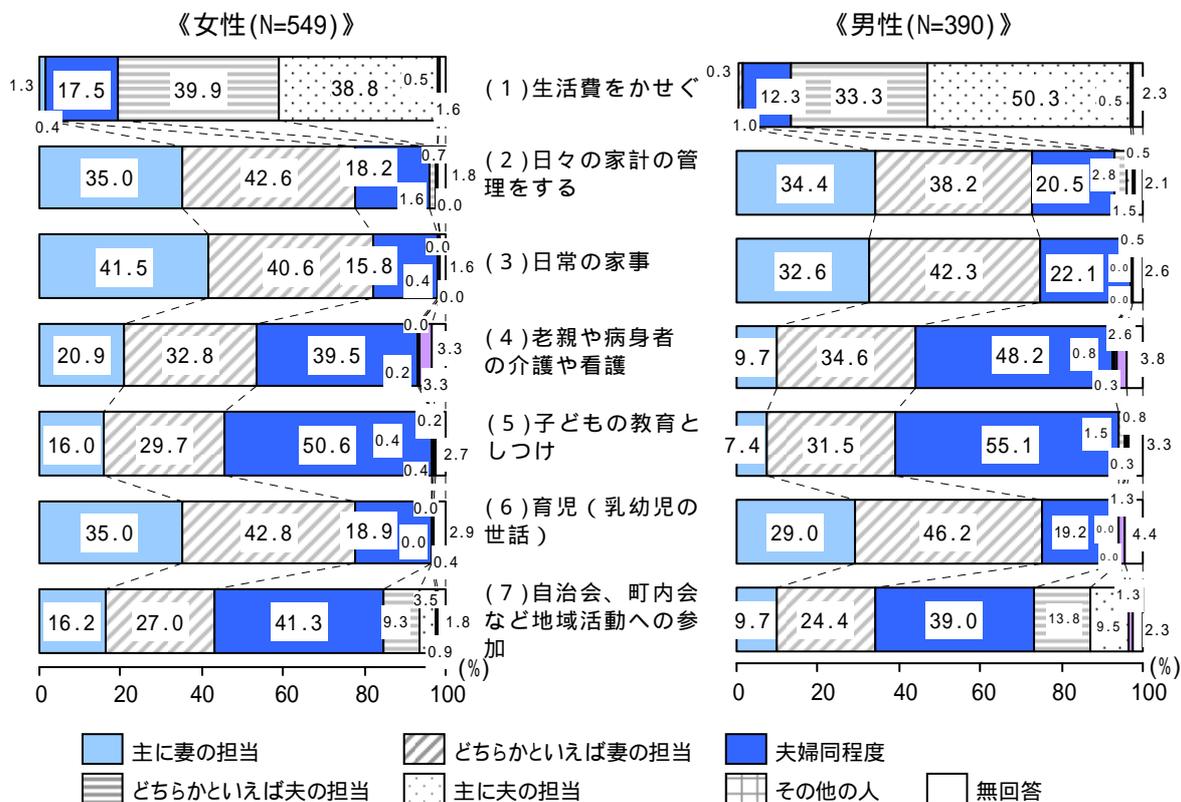


「(7) 政治の場では」、「(8) 経済界では」は前回の調査では「政治・経済活動への参加では」と設定されている

経年比較をみると、『平等』は女性では全項目で増加している。男性では「(1) 学校教育では」と「(6) 法律や制度の上では」を除いた項目で増加している。

問2 家庭における役割について、あなたはどのようにお考えですか。配偶者がいない方も、仮にいたと想定してお答えください。(各項目に は1つ)

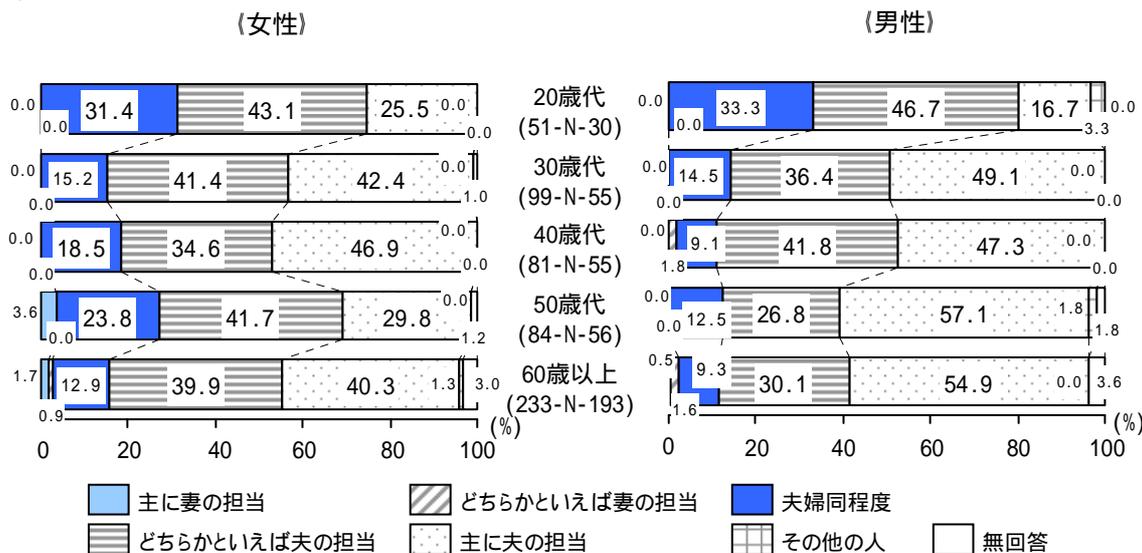
【図1-2 家庭における役割分担】



家庭における役割は、「主に妻の担当」は「(1)生活費をかせぐ」、「(2)日々の家計の管理をする」を除いた項目で女性の方が高く、ほとんどの項目で「夫婦同程度」は男性の方が高くなっている。「(5)子どもの教育としつけ」では男女ともに「夫婦同程度」が5割台、「(4)老親や病身者の介護や看護」では「夫婦同程度」は女性が39.5%、男性が48.2%と、男性の方が8.7ポイント高くなっている。『妻の担当』(「主に妻の担当」と「どちらかといえば妻の担当」を合わせたもの)は「(3)日常の家事」で女性が82.1%、男性が74.9%と高くなっている。(図1-2)

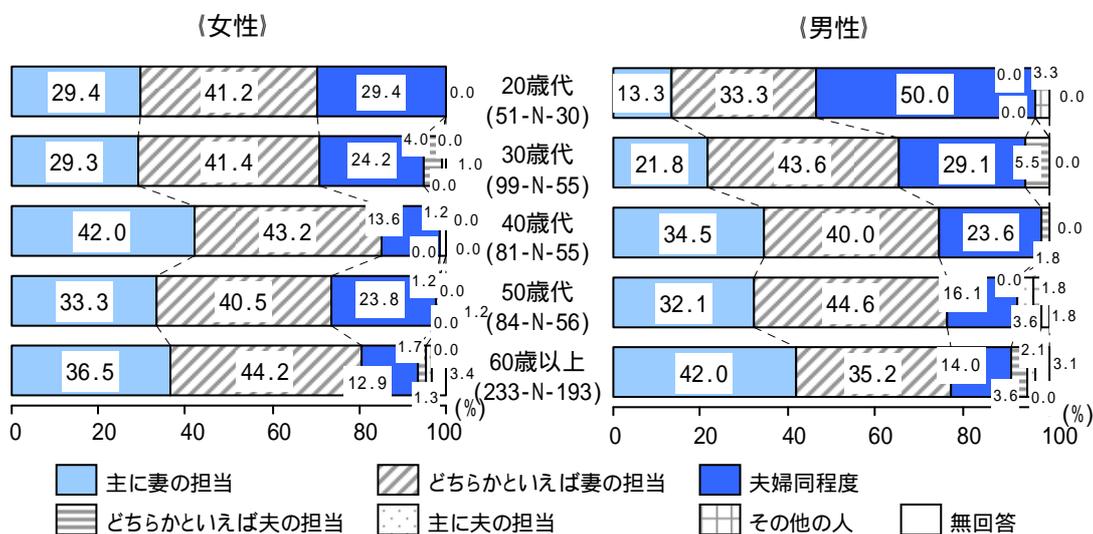
【年代別 家庭における役割分担】

(1) 生活費をかせぐ



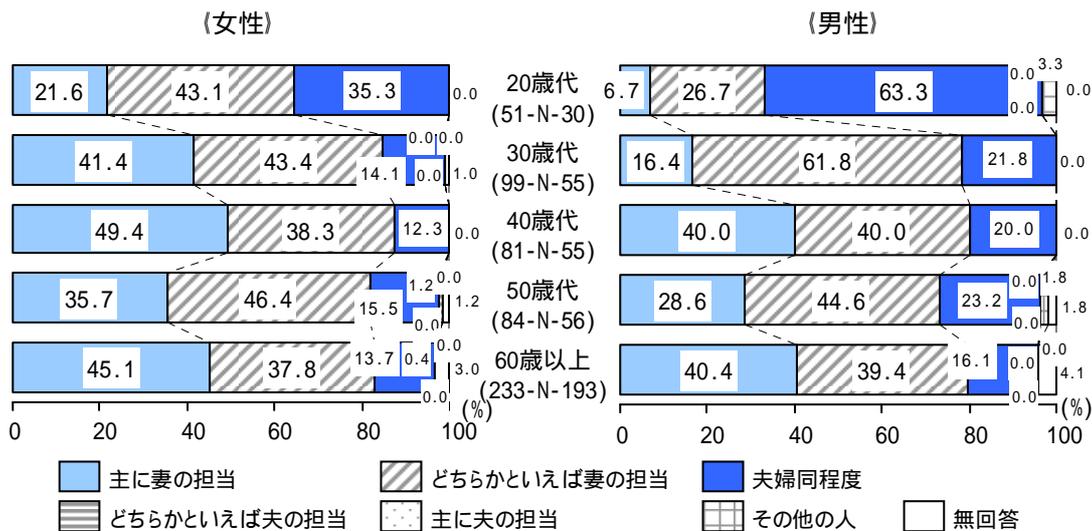
年代別にみると、男女ともに全年代で『夫の担当』が6割以上となっている。20歳代では「夫婦同程度」の割合が男女ともに3割台となっている。「夫婦同程度」は40歳代、50歳代で女性の方が高くなっている。

(2) 日々の家計の管理をする



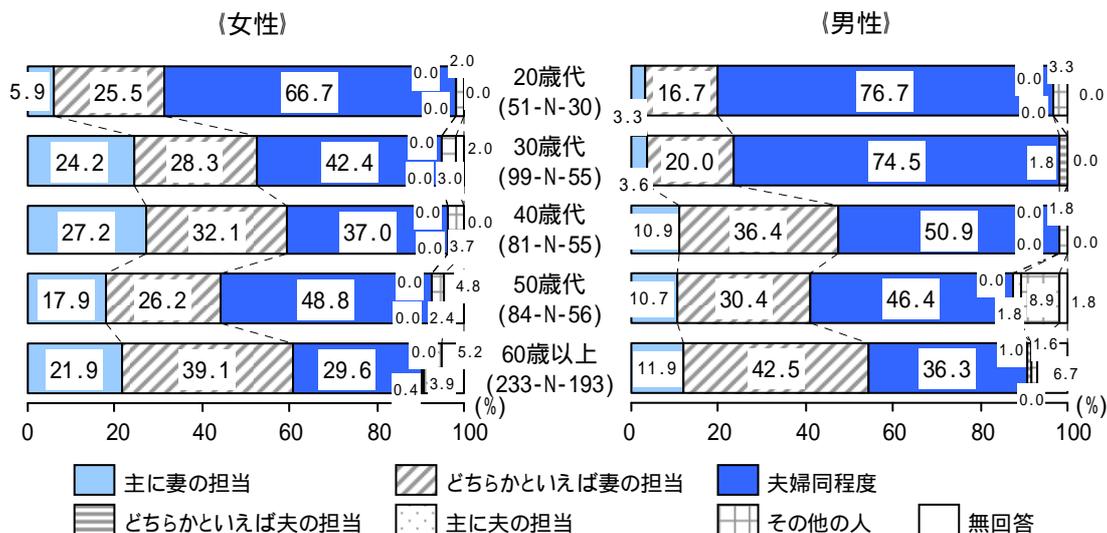
年代別にみると、『妻の担当』は男女ともに40歳以上の年代で7～8割を占めている。「夫婦同程度」は男女ともに20歳代で女性が29.4%、男性が50.0%と高くなっている。

(3) 日常の家事



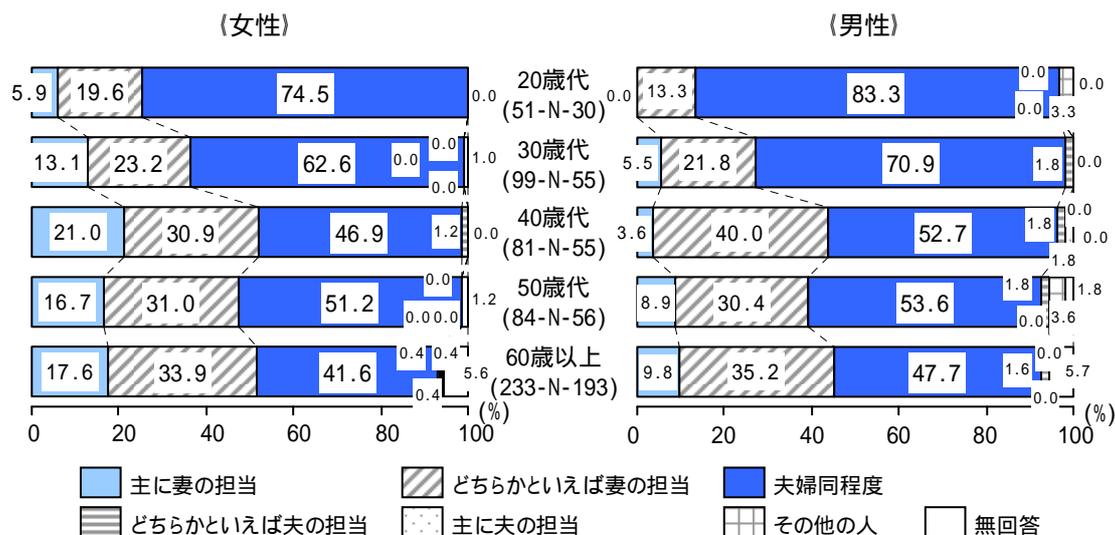
年代別にみると、『妻の担当』は女性の 30 歳代以上の年代で 8 割以上を占めている。20 歳代をみると、「夫婦同程度」が女性で 35.3%、男性で 63.3%と他の年代と比べ、高くなっている。

(4) 老親や病身者の介護や看護



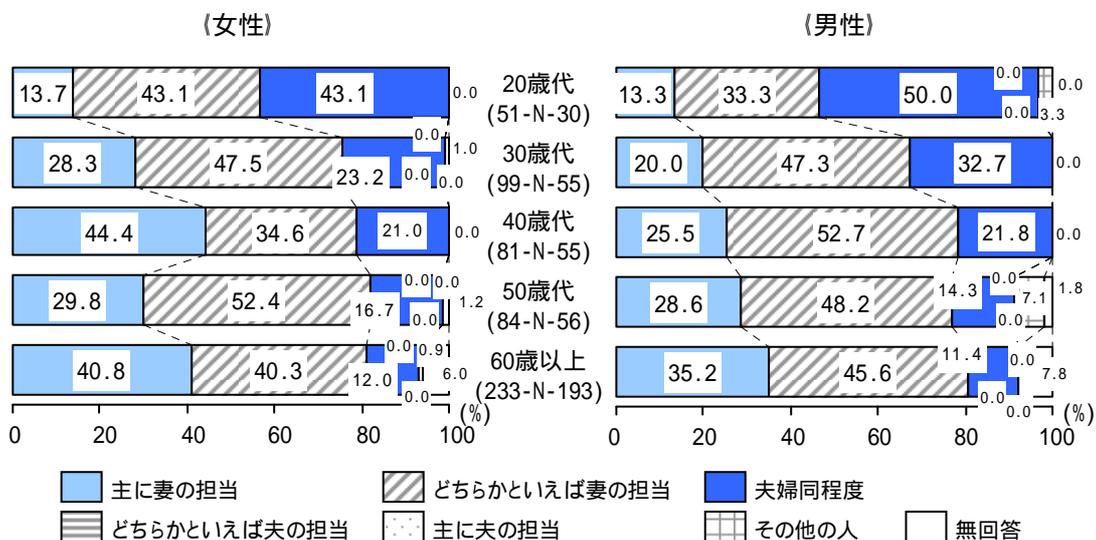
年代別にみると、『妻の担当』は男女ともに 60 歳以上で高くなっている。「夫婦同程度」は 30 歳代で男女差が大きく、男性の方が 32.1 ポイント高くなっている。

(5) 子どもの教育としつけ



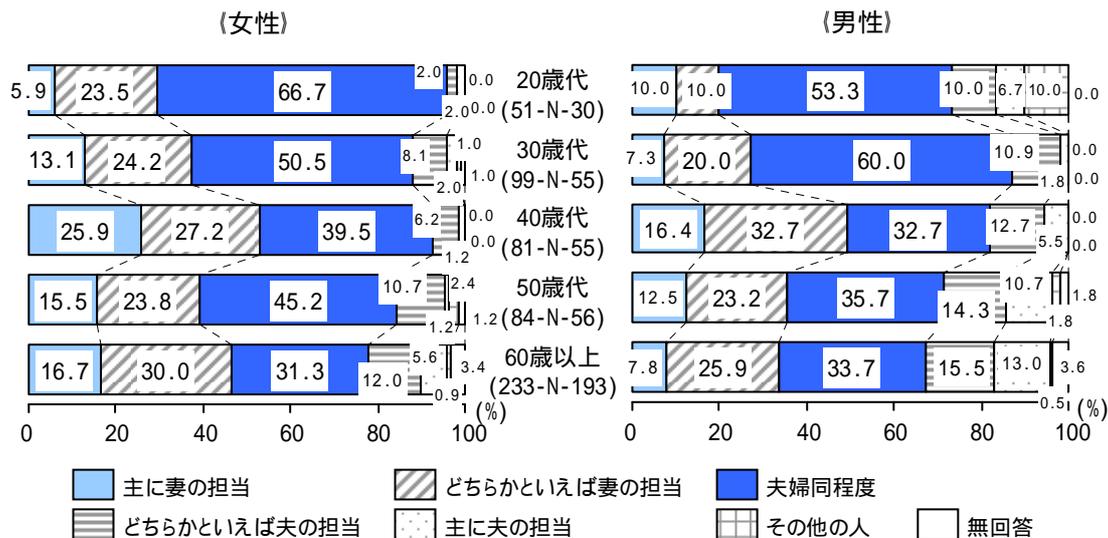
年代別にみると、「夫婦同程度」は男女ともに若年層で高く、20歳代では女性が74.5%、男性が83.3%となっている。40歳代、60歳以上では男女ともに『妻の担当』が4～5割台となっている。

(6) 育児（乳幼児の世話）



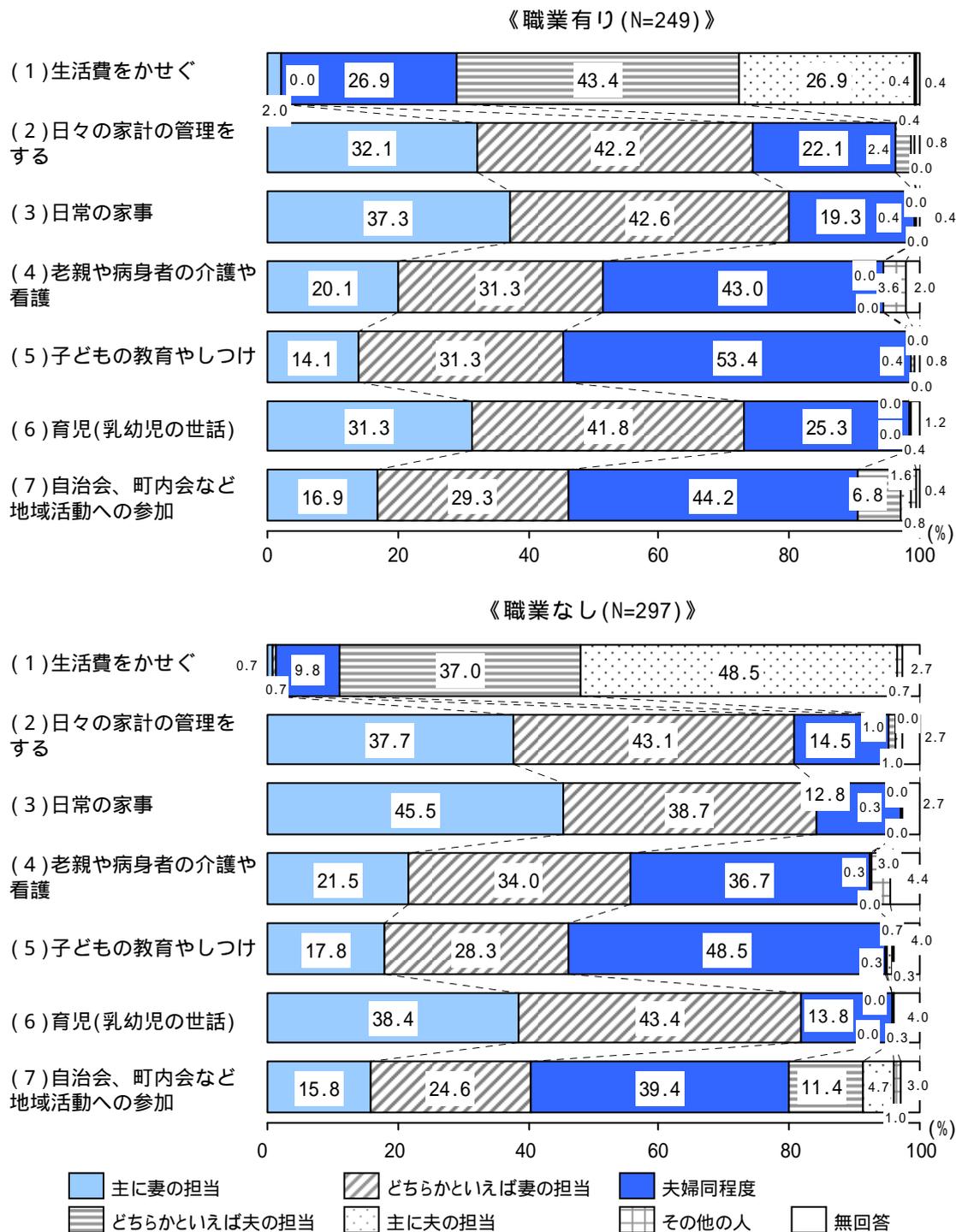
年代別にみると、「夫婦同程度」は男女ともに若年層ほど高く、20歳代では女性が43.1%、男性が50.0%となっている。40歳代では「主に妻の担当」の男女差が大きく、女性の方が18.9ポイント高くなっている。

(7) 自治会、町内会など地域活動への参加



年代別にみると、『妻の担当』は男女ともに 40 歳代で高く、約半数となっている。「夫婦同程度」は男女ともに若年層で高く、女性では 20 歳代で 66.7%、30 歳代で 50.5%、男性では 30 歳代で 60.0%となっている。

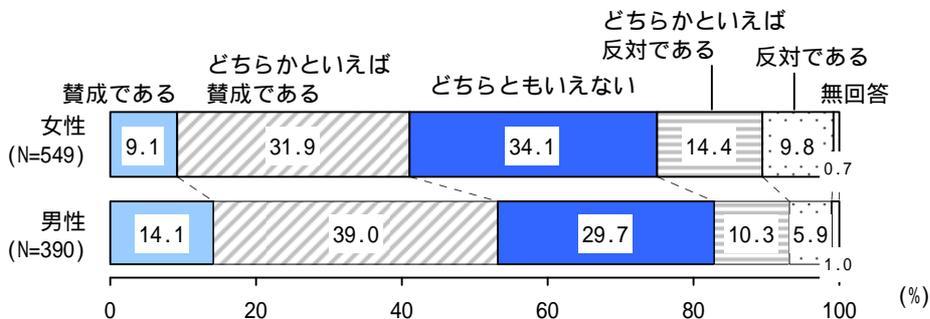
【女性・職業有無別 家庭における役割分担】



女性の職業有無別に見ると、「(1)生活費をかせぐ」について「夫婦同程度」は職業有りの人が職業なしの人に比べ 17.1 ポイント高く、「夫の担当」は職業なしの人の方が 15.2 ポイント高くなっている。

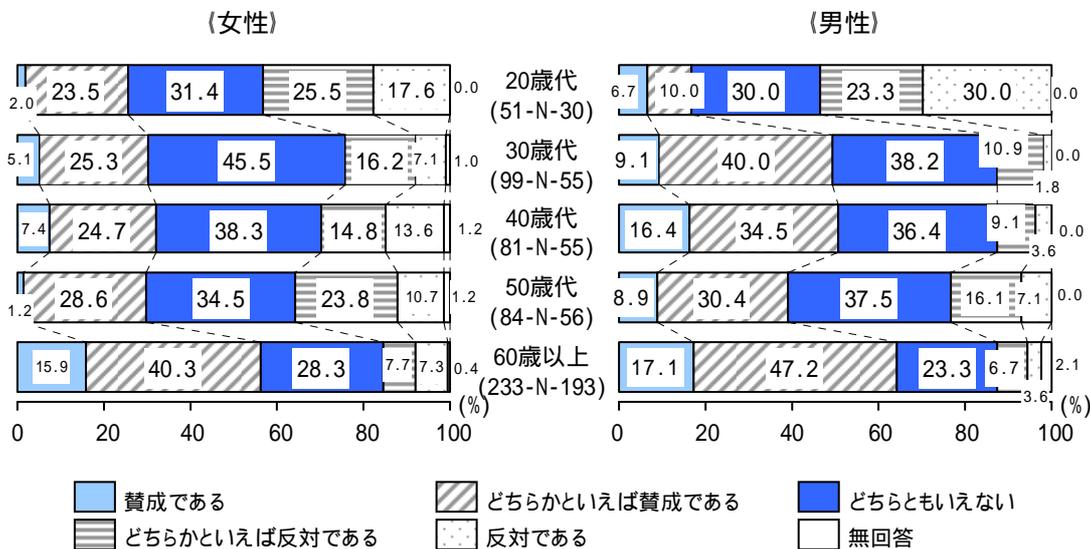
問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、この考え方についてあなたはどのようにお考えですか。( は1つ)

【図1-3 「男は仕事、女は家庭」についての考え】



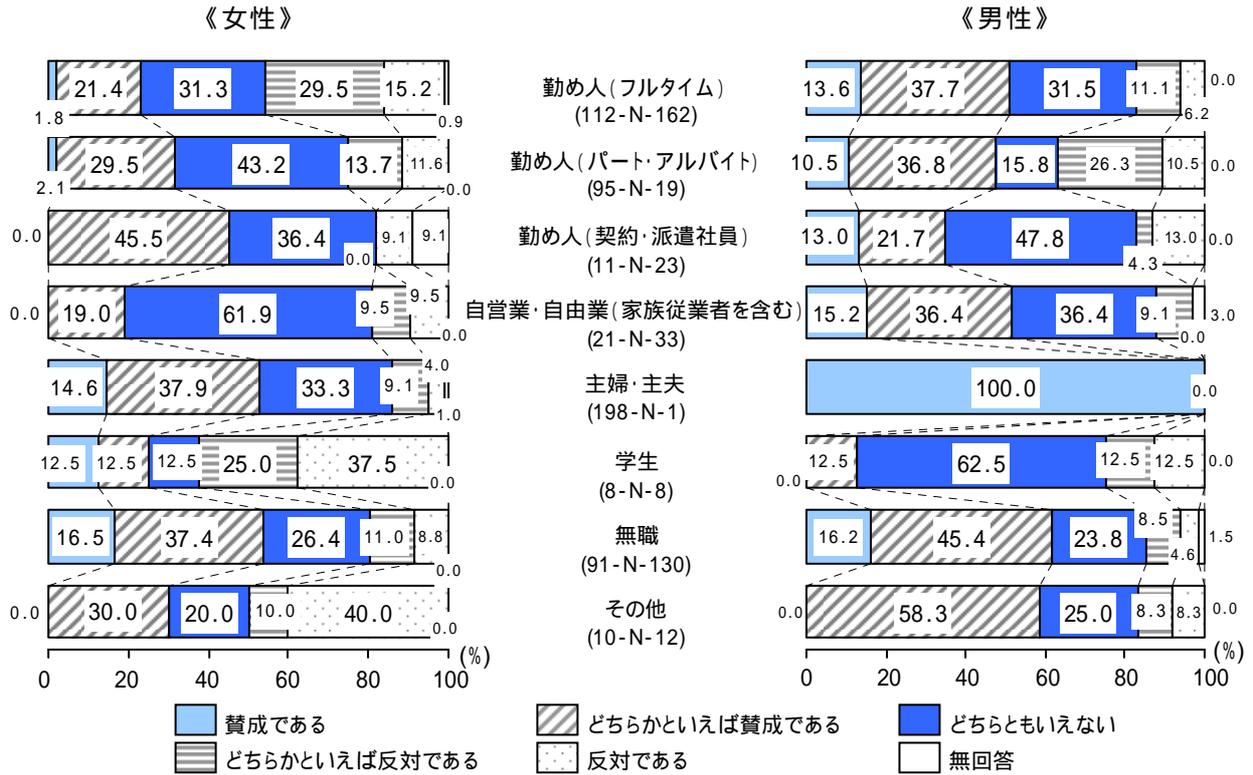
「男は仕事、女は家庭」という考え方について、『賛成』(「賛成である」と「どちらかといえば賛成である」を合わせたもの)という人は、女性で41.0%、男性で53.1%と、男性の方が高く、『反対』(「反対である」と「どちらかといえば反対である」を合わせたもの)という人は、女性で24.2%、男性で16.2%と女性の方が高くなっている。(図1-3)

【年代別 「男は仕事、女は家庭」についての考え】



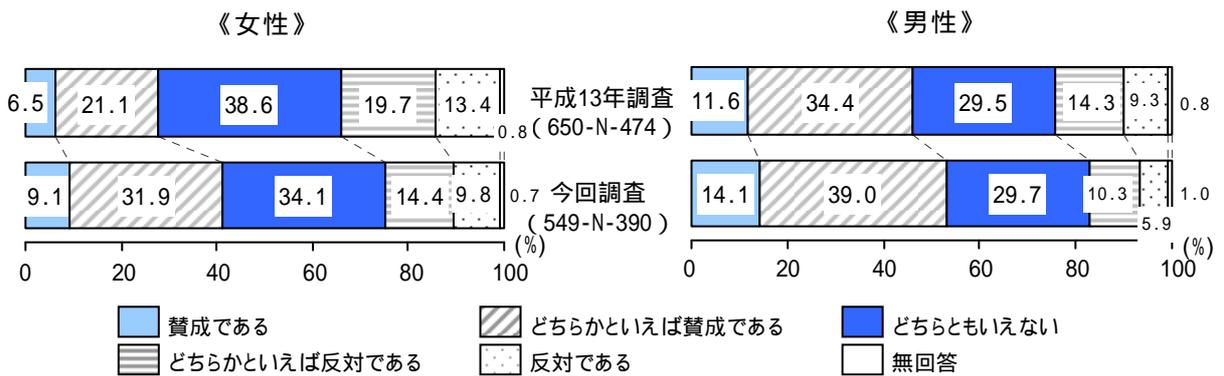
年代別にみると、『賛成』という人は男女とも60歳以上で高く、女性で56.2%、男性で64.3%となっている。『反対』は20歳代で高く、女性で43.1%、男性で53.3%となっている。男性の30歳代、40歳代では同年代の女性と比べ『賛成』が高く、30歳代で18.7ポイント、40歳代で18.8ポイント高くなっている。

【職業別 「男は仕事、女は家庭」についての考え】



職業別にみると、女性の「勤め人(フルタイム)」では『反対』が44.7%であるのに対し、「主婦」では『反対』が13.1%と低く、『賛成』が52.5%と約半数となっている。男性では、「勤め人(フルタイム)」、「自営業・自由業(家族従業者を含む)」、「無職」などで『賛成』の割合が高くなっている。

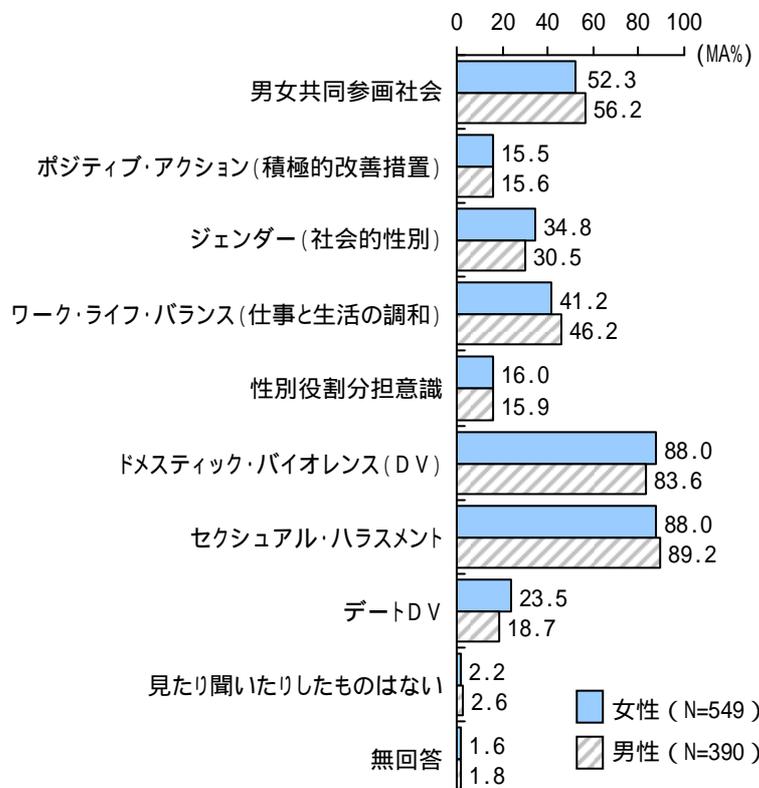
【経年比較 「男は仕事、女は家庭」についての考え】



経年比較をみると、男女ともに「賛成である」「どちらかといえば賛成である」が増加し、「どちらかといえば反対である」「反対である」は減少している。特に、女性では『賛成』が13.4ポイント増加し、『反対』が8.9ポイント減少している。

問4 次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものに をつけてください。( はいくつでも)

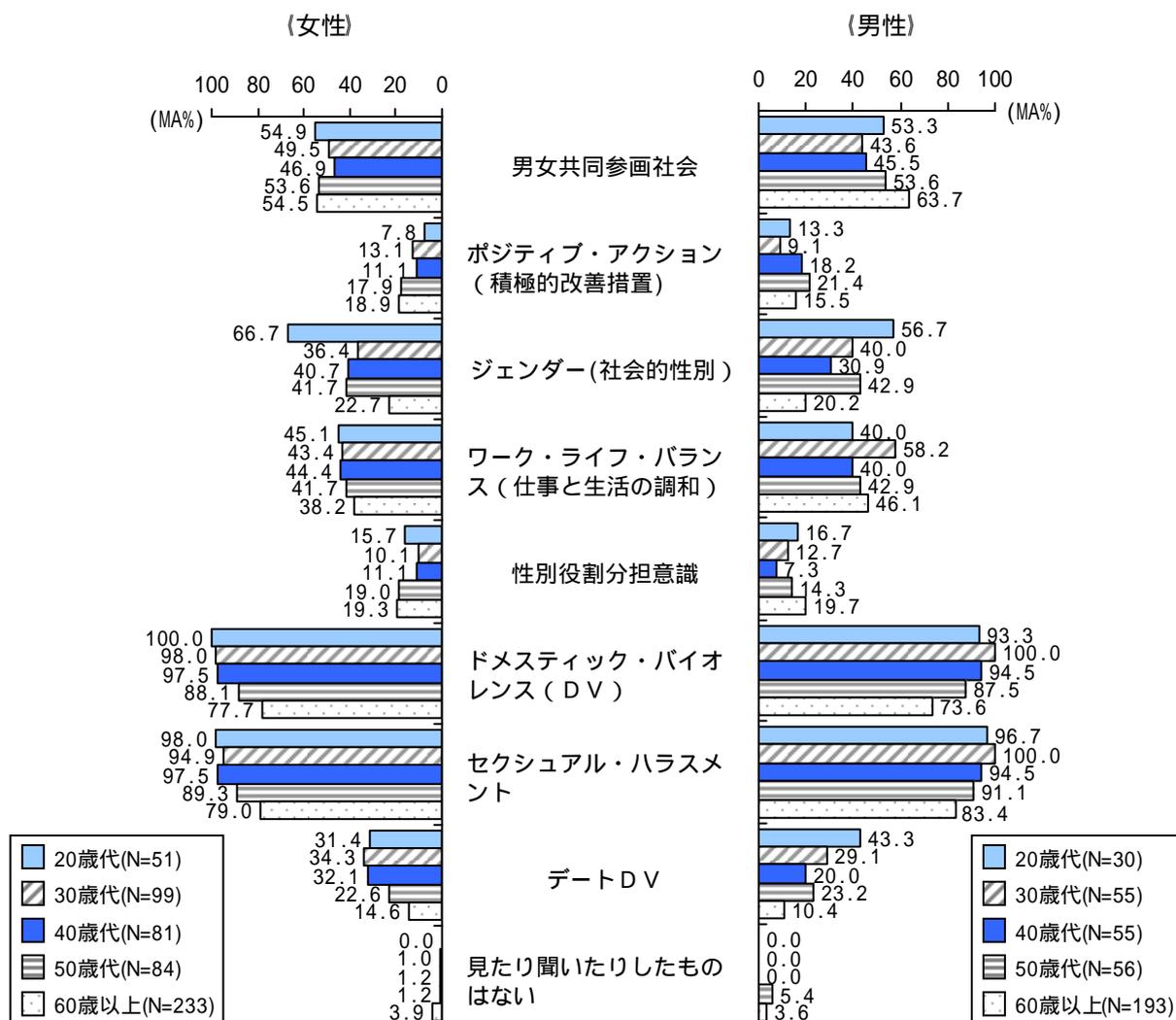
【図1 - 4 見たり聞いたりしたことがある男女共同参画用語】



見たり聞いたりしたことがある男女共同参画用語は、男女ともに「ドメスティック・バイオレンス(DV)」、「セクシュアル・ハラスメント」が高く、いずれも認知度は8割台となっている。(図1 - 4)

用語の説明は末尾の調査票の中にあります。

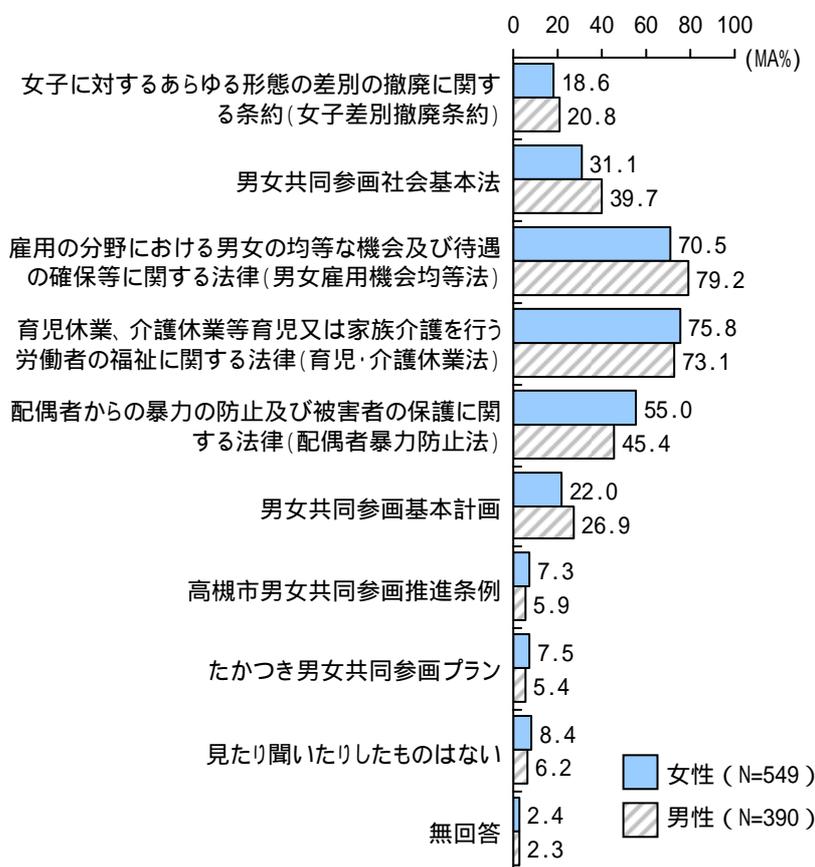
【年代別 見たり聞いたりしたことがある男女共同参画用語】



年代別にみると、「ドメスティック・バイオレンス(DV)」と「セクシュアル・ハラスメント」は男女ともに60歳以上で低く、40歳代以下の年代では9割以上となっている。「ジェンダー(社会的性別)」は、男女ともに20歳代で他の年代と比べて高く、認知度は半数以上となっている。「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」は、男性の30歳代で58.2%と他の年代と比べ少し高く、「デートDV」は男性の20歳代で43.3%と他の年代と比べ、高くなっている。

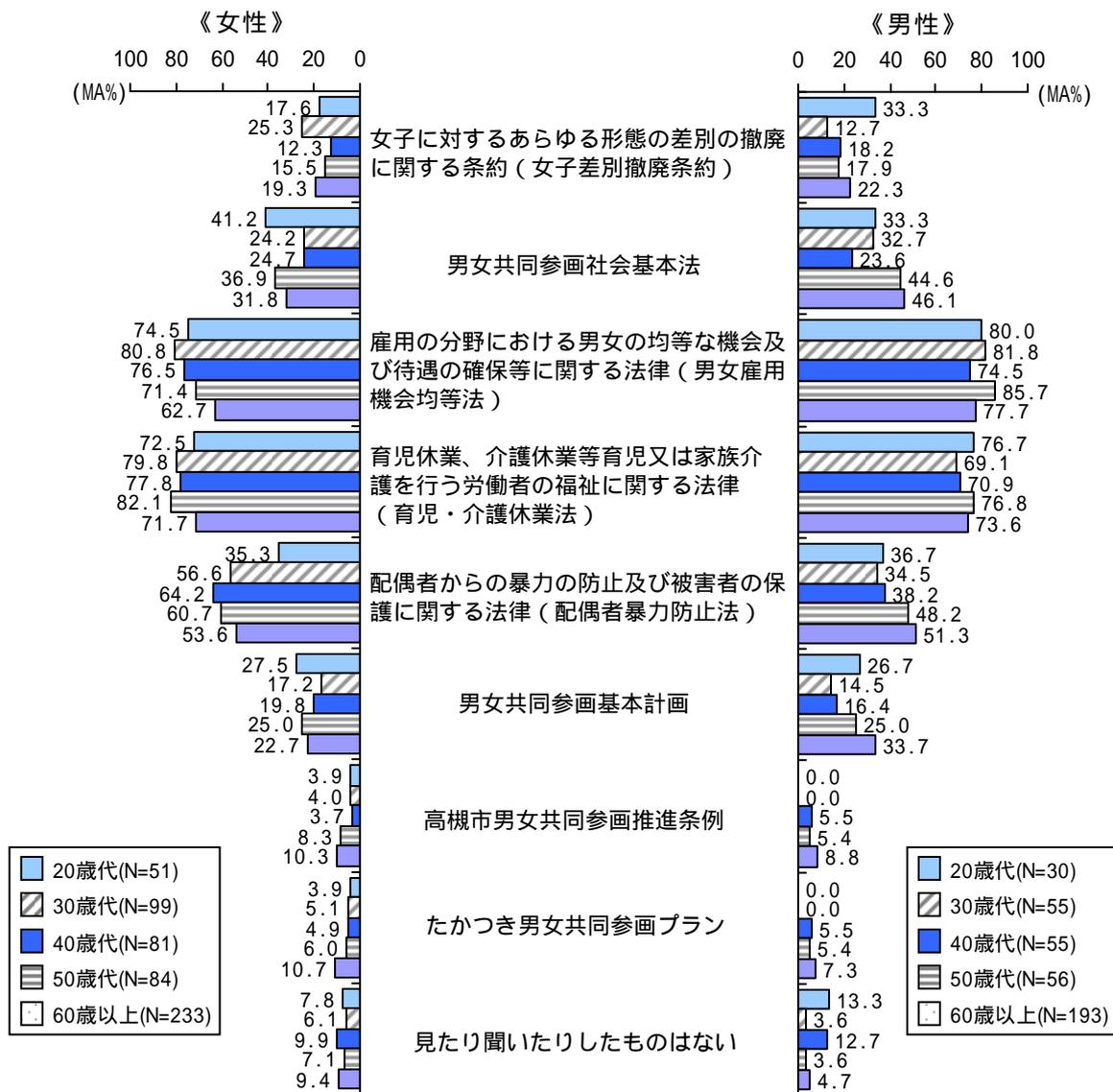
問5 次の条約や法律などのうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものにつけてください。(はいいくつでも)

【図1 - 5 見たり聞いたりしたことがある条約や法律】



見たり聞いたりしたことがある条約や法律は、女性では「育児・介護休業法」が75.8%と最も高く、次いで「男女雇用機会均等法」が70.5%、「配偶者暴力防止法」が55.0%の順となっている。男性では、「男女雇用機会均等法」が79.2%、「育児・介護休業法」が73.1%、「配偶者暴力防止法」が45.4%の順となっている。(図1 - 5)

【年代別 見たり聞いたりしたことがある条約や法律】

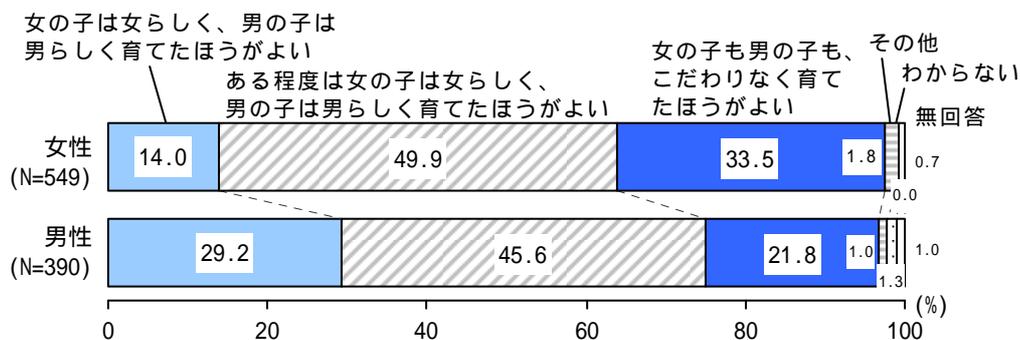


年代別にみると、「男女雇用機会均等法」は女性では30歳代を中心に若年層で高く、高年齢層ほど低くなっている。

## 2. 子育てや教育について

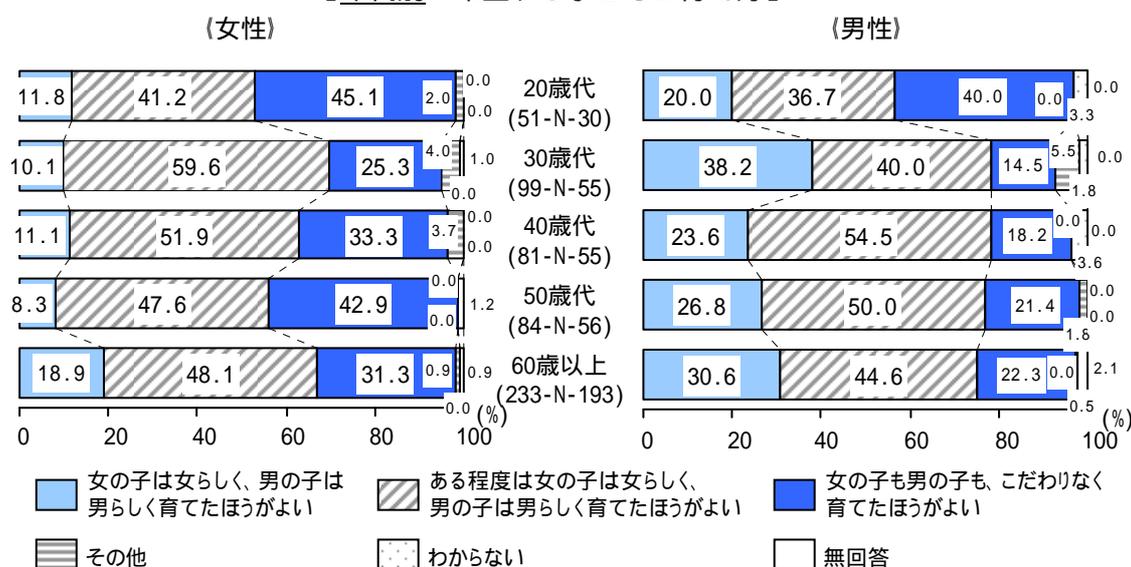
問6 あなたは、子どもをどのように育てたほうがよいと思いますか。子どもがいない方も、仮にいたと想定してお答えください。( は1つ)

【図2-1 希望する子どもの育て方】



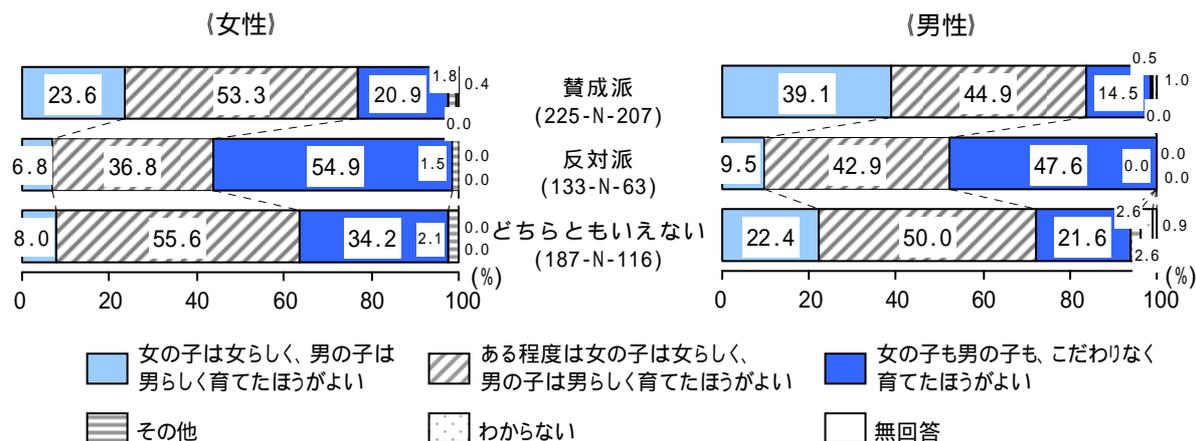
希望する子どもの育て方は、「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てたほうがよい」と「ある程度は女の子は女らしく、男の子は男らしく育てたほうがよい」を合わせると、女性が63.9%、男性が74.8%と、男女とも女の子は女らしく、男の子は男らしく育てたほうがよいという意見が多く、男性の方がより高い割合となっている。「女の子も男の子も、こだわりなく育てたほうがよい」では女性が33.5%、男性が21.8%となっている。(図2-1)

【年代別 希望する子どもの育て方】



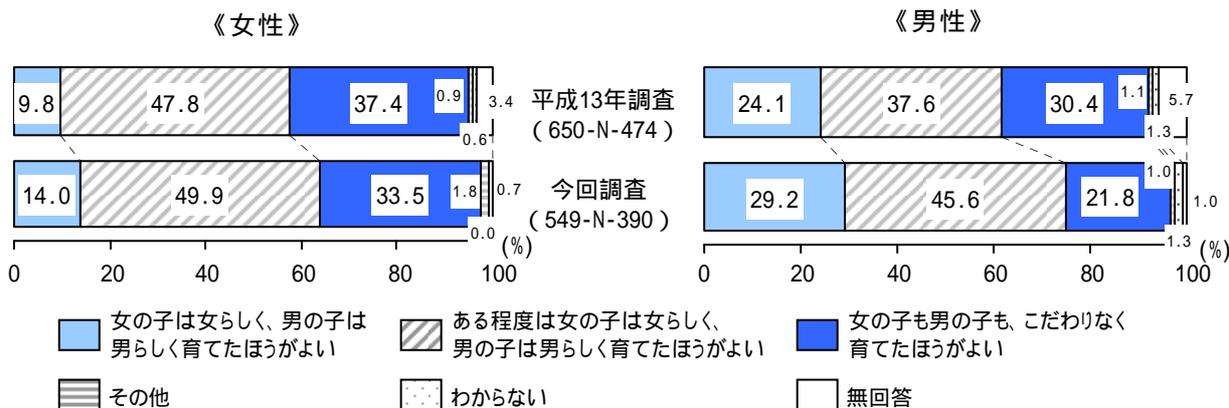
年代別にみると、女性では「ある程度は」も含め、「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てたほうがよい」は20歳代、50歳代を除く年代で6割台となっている。男性では20歳代を除く年代で「ある程度は」も含め、「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てたほうがよい」が7割台となっている。「女の子も男の子も、こだわりなく育てたほうがよい」は女性では20歳代、50歳代で4割台、男性では20歳代で4割となっている。

【性別役割分担意識別 希望する子どもの育て方】



性別役割分担意識別に見ると、男女ともに「ある程度は」も含め、「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てたほうがよい」は性別役割分担意識に「賛成派」の方が高く、女性で 33.3 ポイント、男性で 31.6 ポイントの差となっている。性別役割分担意識に「反対派」は「女の子も男の子も、こだわりなく育てたほうがよい」が高く、女性では半数以上となっている。

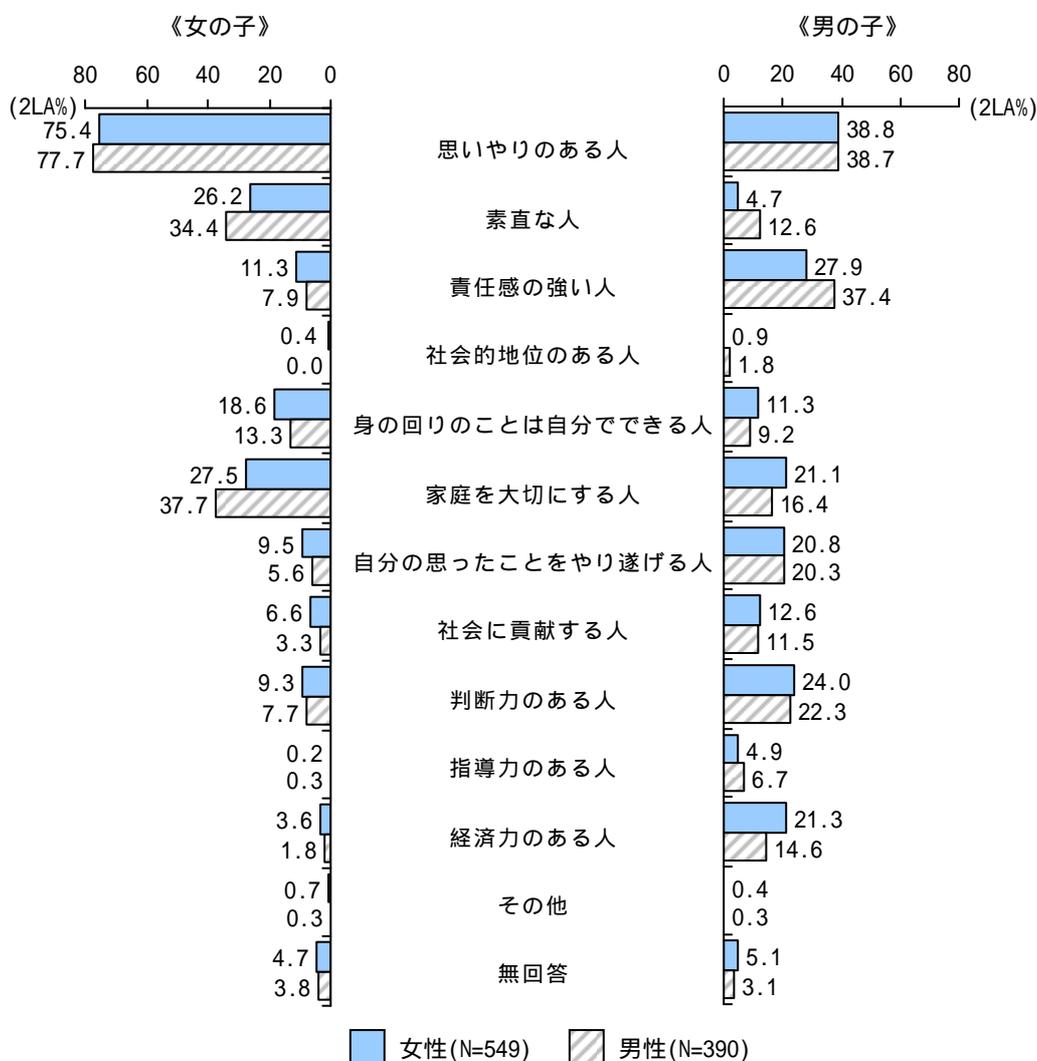
【経年比較 希望する子どもの育て方】



経年比較をみると、男女ともに「ある程度は」も含め、「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てたほうがよい」は増加しており、男性では13.1ポイントの増加となっている。「女の子も男の子も、こだわりなく育てたほうがよい」は、男性で8.6ポイントの減少となっている。

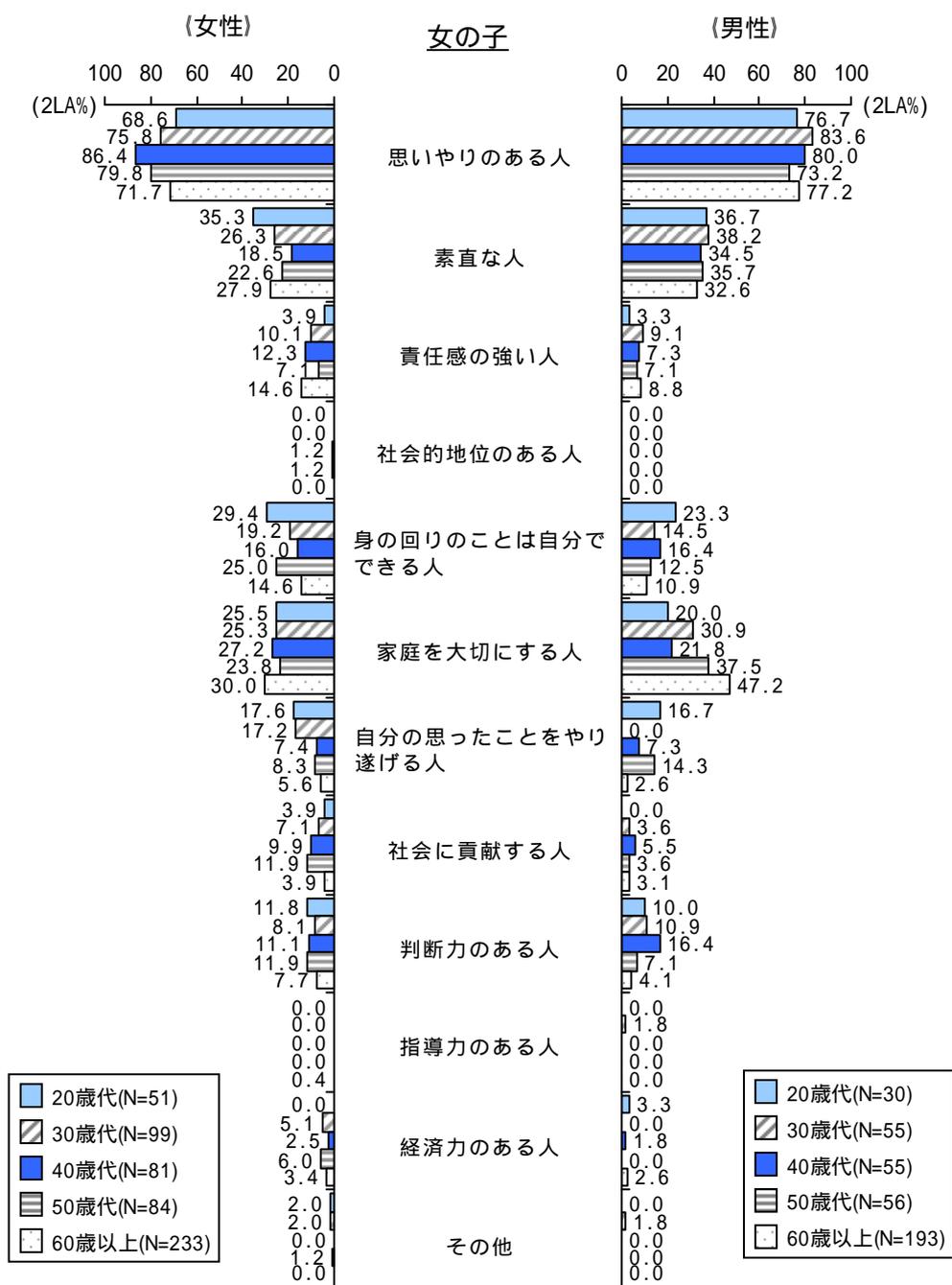
問7 あなたは、子どもが将来どのような人に育ててほしいと思いますか。下記の項目から女の子、男の子それぞれの場合について、特にあてはまる選択肢番号を2つ以内で記入してください。子どもがいない方も、仮にいたと想定してお答えください。

【図2 - 2 子どもの将来像】



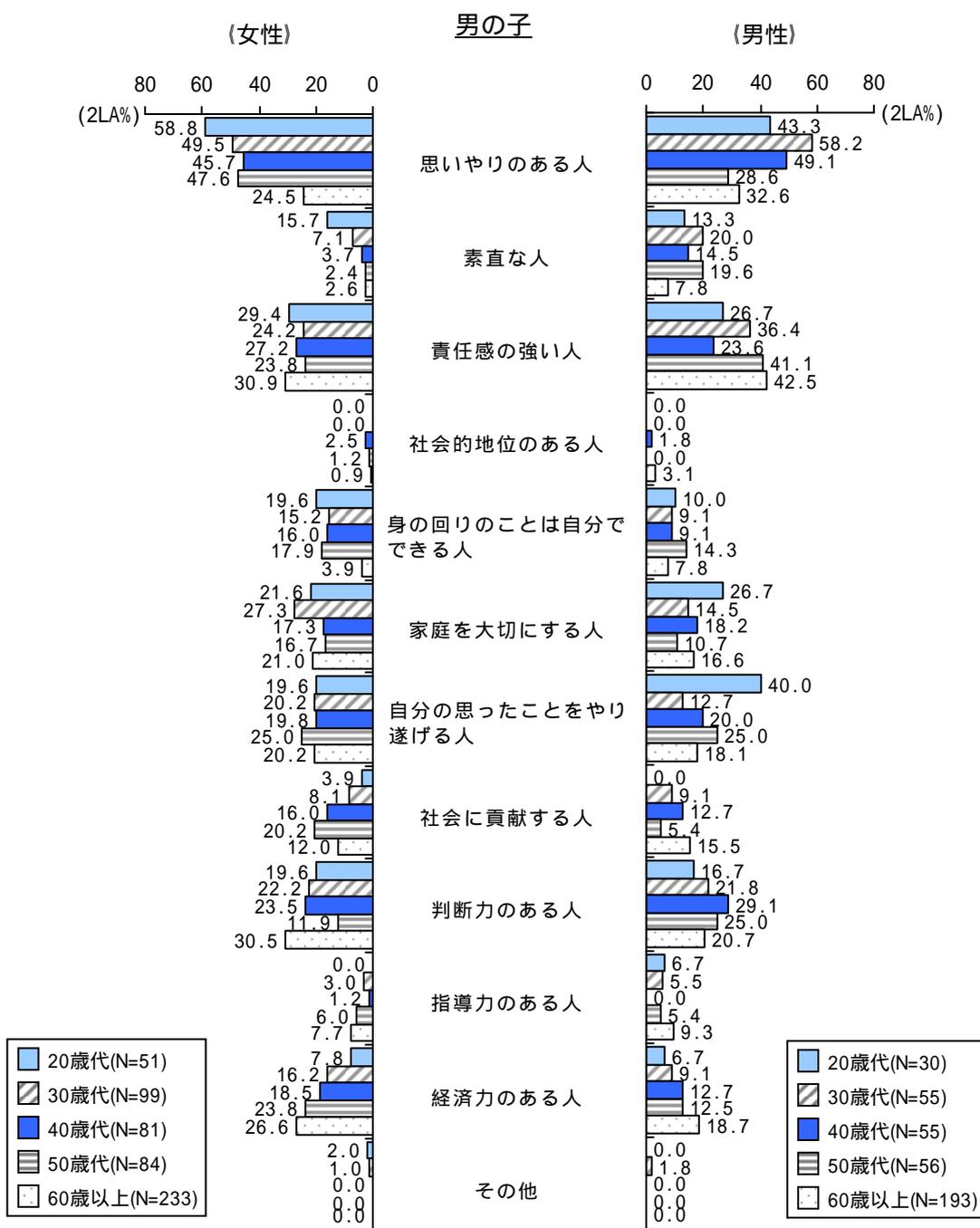
子どもの将来像は、女の子は、男女ともに「思いやりのある人」が最も高く、女性で75.4%、男性で77.7%となっている。「素直な人」、「家庭を大切にする人」はともに男性の方が割合は高くなっている。男の子も、男女ともに「思いやりのある人」が高くなっている。(図2 - 2)

【年代別 子どもの将来像 (女の子)】



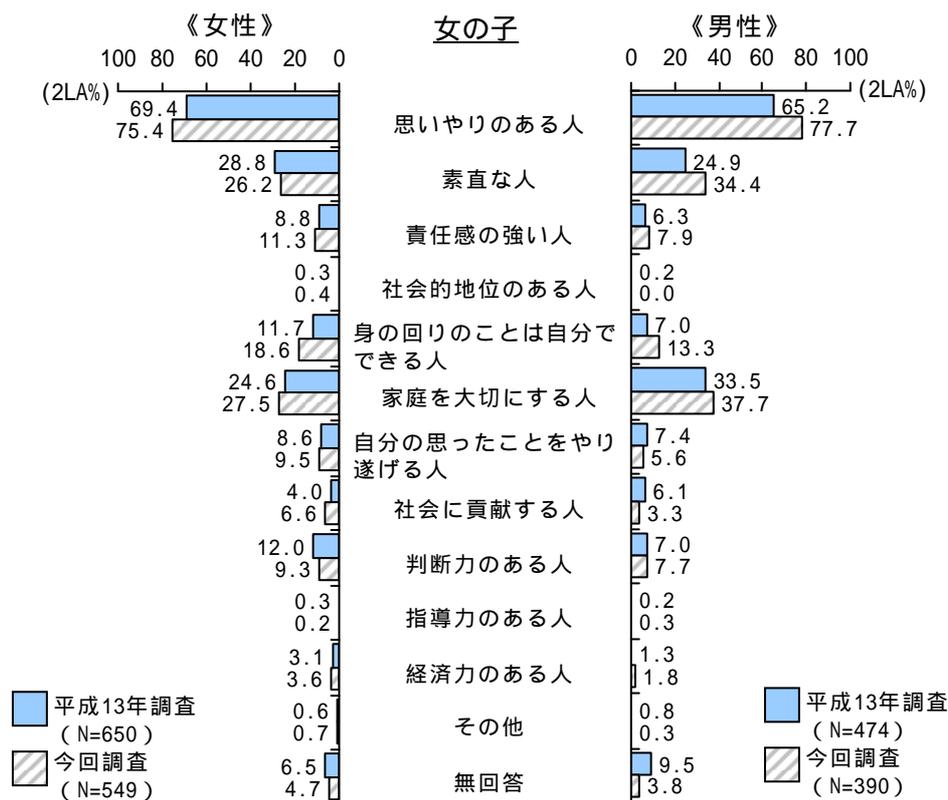
年代別にみると、「思いやりのある人」は女性の40歳代で高くなっている。「家庭を大切にす人」は、男性の高年齢層で高くなっている。

【年代別 子どもの将来像（男の子）】

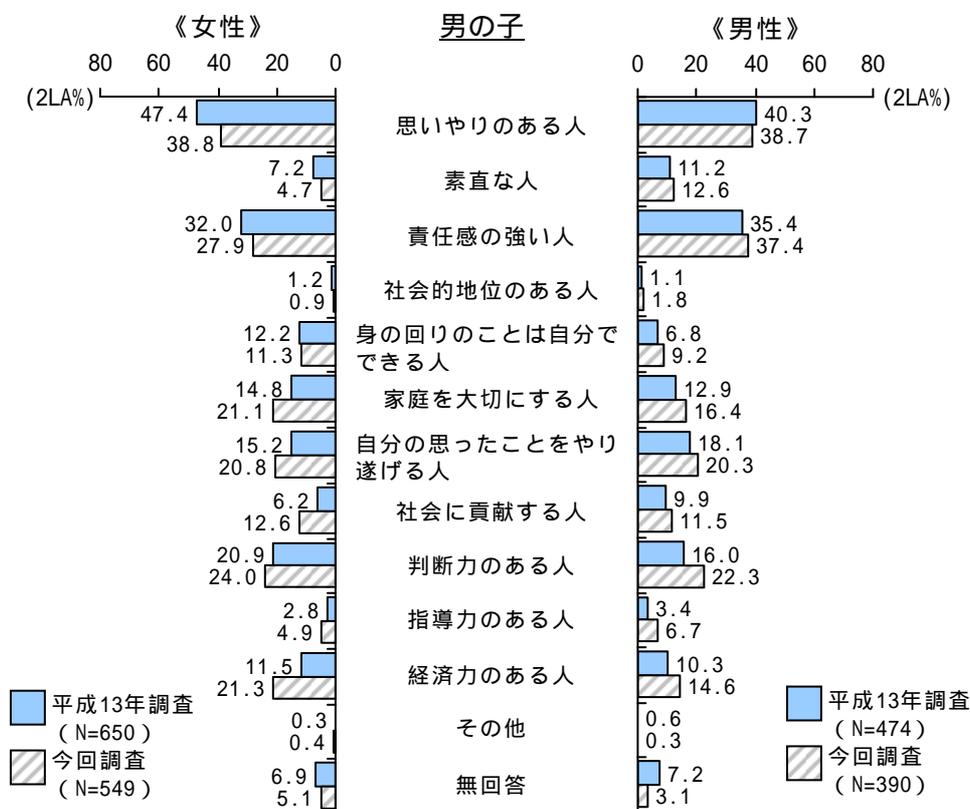


年代別にみると、「思いやりのある人」は男女ともに若年層で高く、女性では20歳代で58.8%、男性では30歳代で58.2%となっている。「責任感の強い人」は男性の60歳以上で高く、「家庭を大切にする人」、「自分の思った事をやり遂げる人」は男性の20歳代で高くなっている。「経済力のある人」は女性で年代が上がるほど割合は高くなっている。

【経年比較 子どもの将来像】



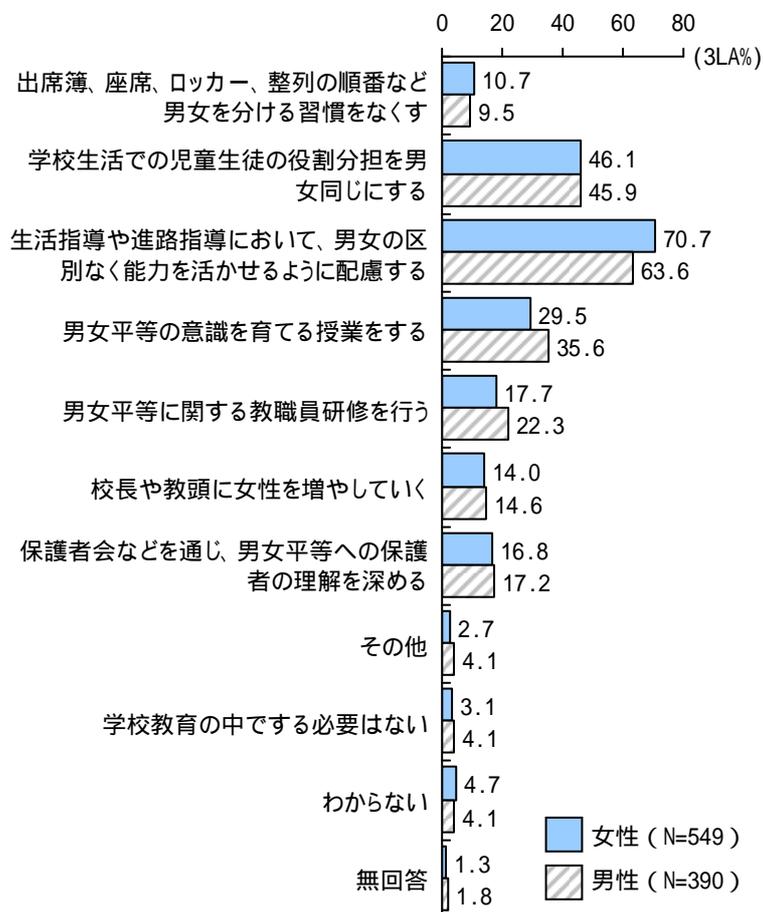
経年比較をみると、男女ともに「思いやりのある人」は増加している。「素直な人」は男性では増加している。



経年比較をみると、「思いやりのある人」は女性で減少している。女性では「家庭を大切にする人」、「自分の思ったことをやり遂げる人」、男性では「判断力のある人」が増加している。

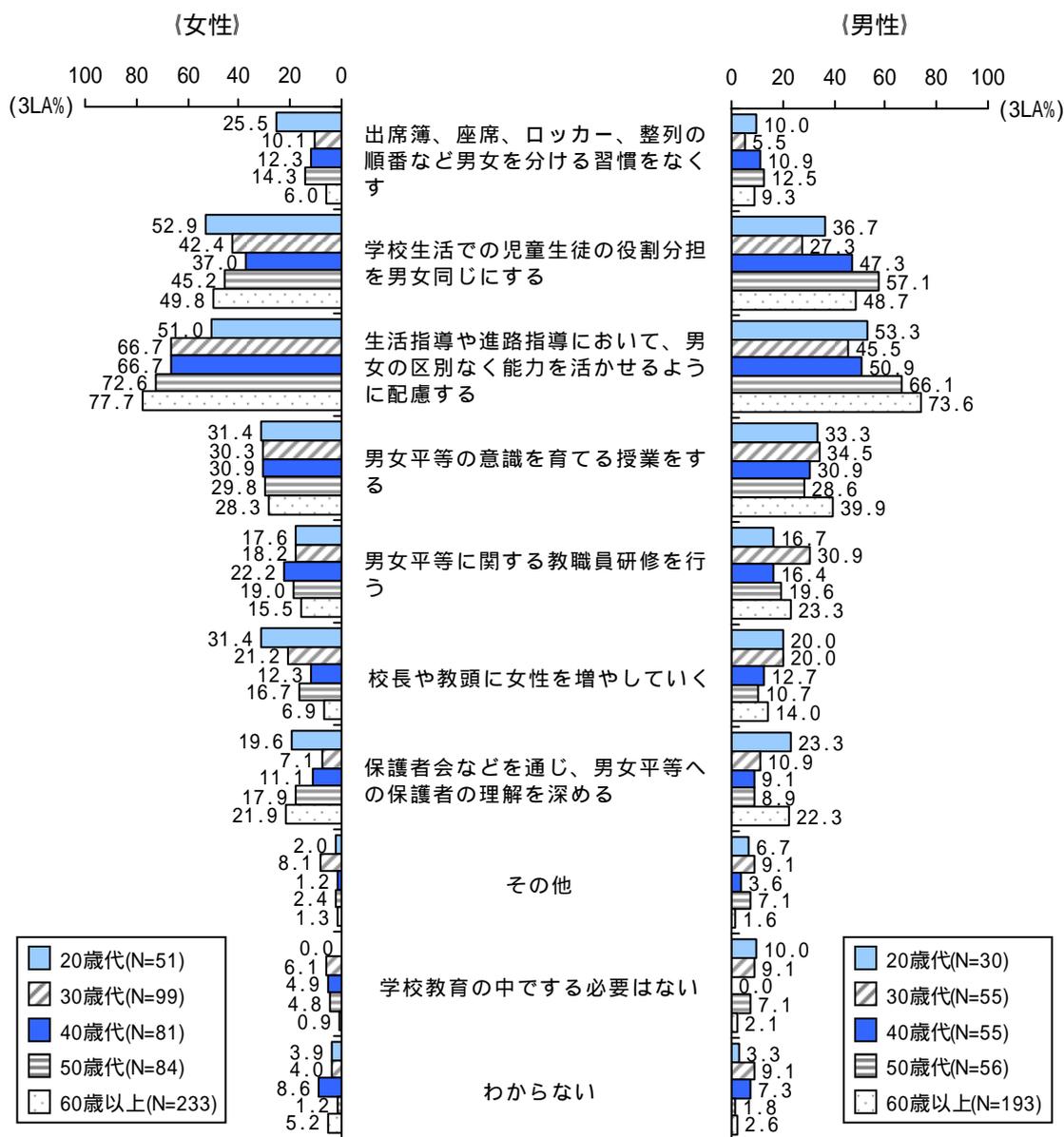
問8 男女平等を推進していくために、学校（小学校・中学校）では、どのようなことに力を入れるとよいと思いますか。（ は3つまで）

【図2-3 男女平等の推進のために学校で力を入れるべきこと】



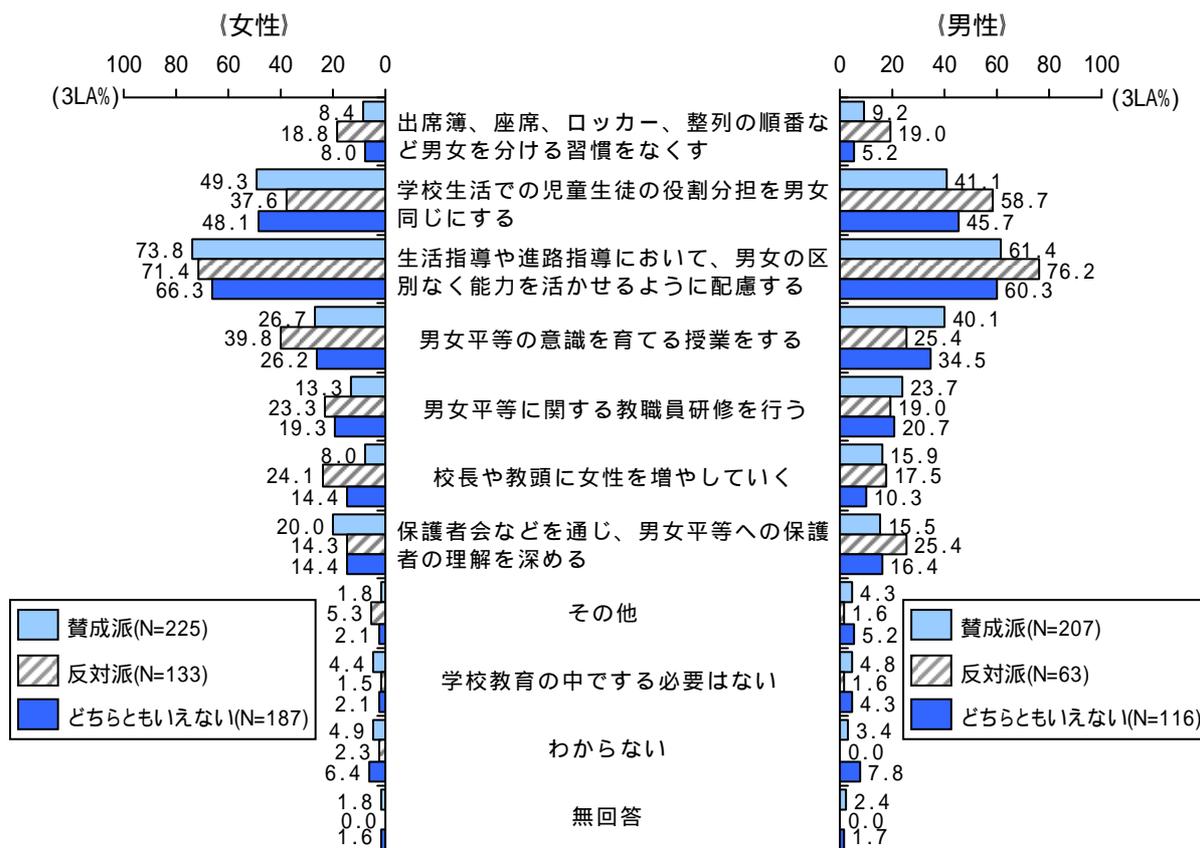
男女平等の推進のために学校で力を入れるべきことは、男女ともに「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるように配慮する」が最も高く、女性で70.7%、男性で63.6%となっている。「男女平等の意識を育てる授業をする」は女性が29.5%、男性が35.6%と男性の方が高くなっている。(図2-3)

【年代別 男女平等の推進のために学校で力を入れるべきこと】



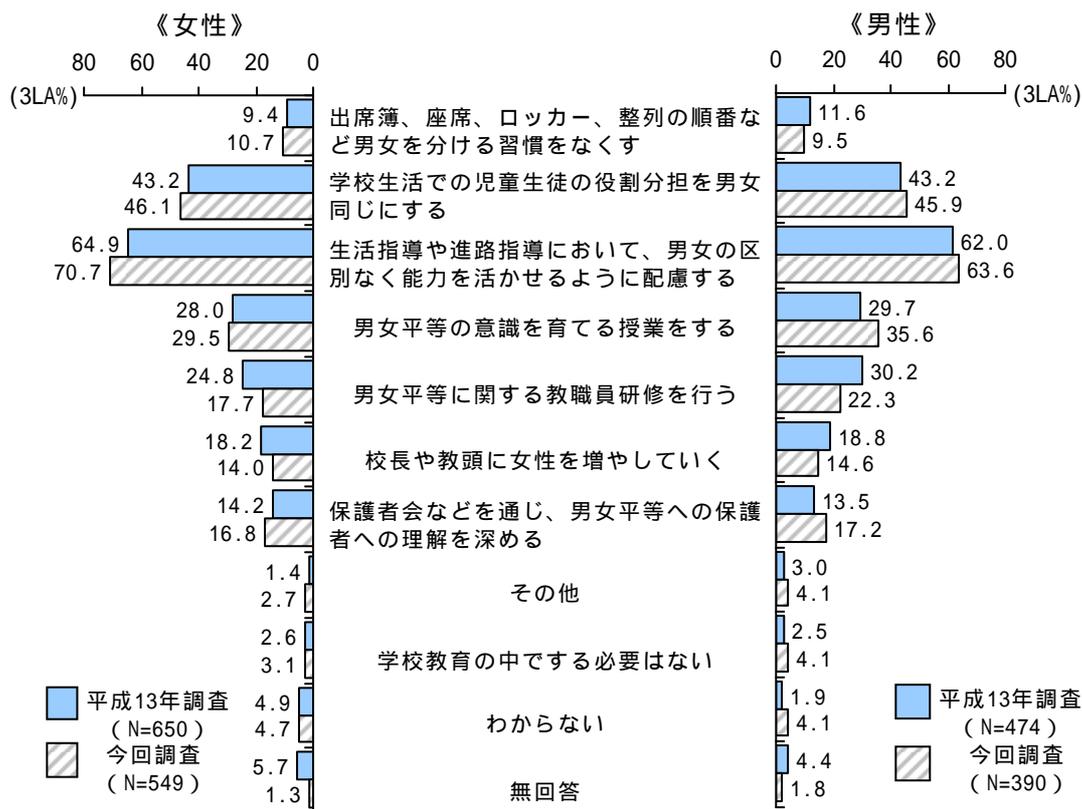
年代別にみると、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるように配慮する」は女性では年代が上がるほど割合は高くなり、60歳以上では女性で77.7%、男性では73.6%となっている。

【性別役割分担意識別 男女平等の推進のために学校で力を入れるべきこと】



性別役割分担意識別にみると、女性は「男女平等の意識を育てる授業をする」、「男女平等に関する教職員研修を行う」、「校長や教頭に女性を増やしていく」などで、性別役割分担意識に「反対派」の方が高くなっている。男性では「学校生活での児童生徒の役割分担を男女同じにする」、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるように配慮する」などで「反対派」の方が高くなっている。「出席簿、座席、ロッカー、整列の順番など男女を分ける習慣をなくす」は男女ともに「反対派」の方が高くなっている。

【経年比較 男女平等の推進のために学校で力を入れるべきこと】

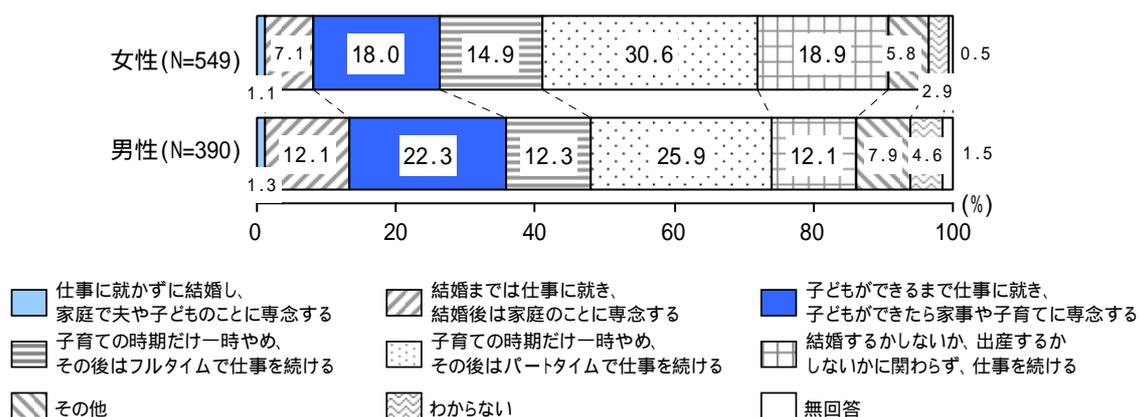


経年比較をみると、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるように配慮する」は女性で増加しており、「男女平等に関する教職員研修を行う」では男女ともに減少している。

## 3. 仕事について

問9 女性が仕事に就くことについて、あなたの考えに最も近いものを選んでください。  
( は1つ)

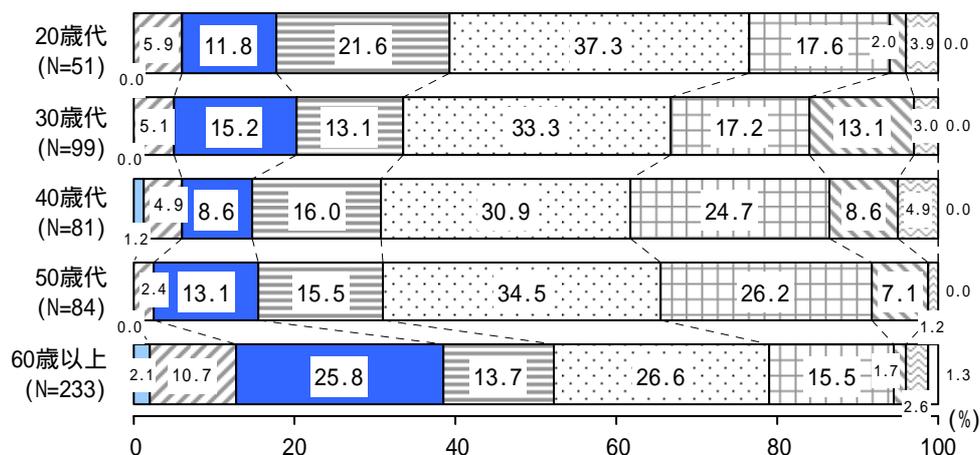
【図3-1 女性が仕事に就くことについての考え】



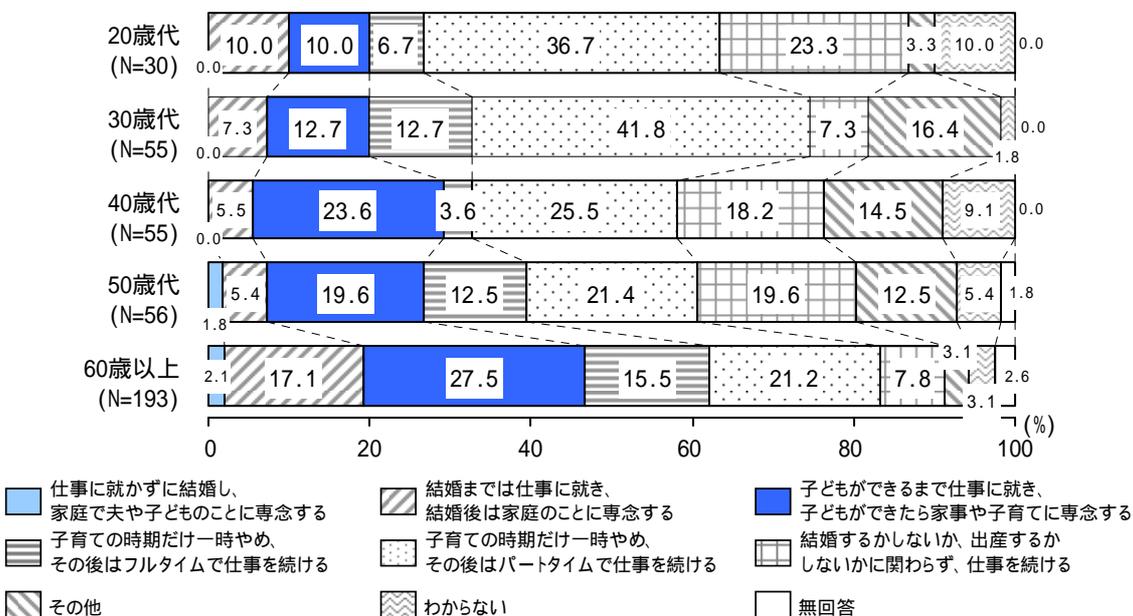
女性が仕事に就くことについての考えは、男女ともに「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」が高く、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」、「結婚するかしないか、出産するかしないかに関わらず、仕事を続ける」を合わせると女性が64.4%、男性が50.3%と女性が仕事をもち続けることに賛成する人は女性の方が14.1ポイント高くなっている。(図3-1)

【年代別 女性が仕事に就くことについての考え】

《女性》

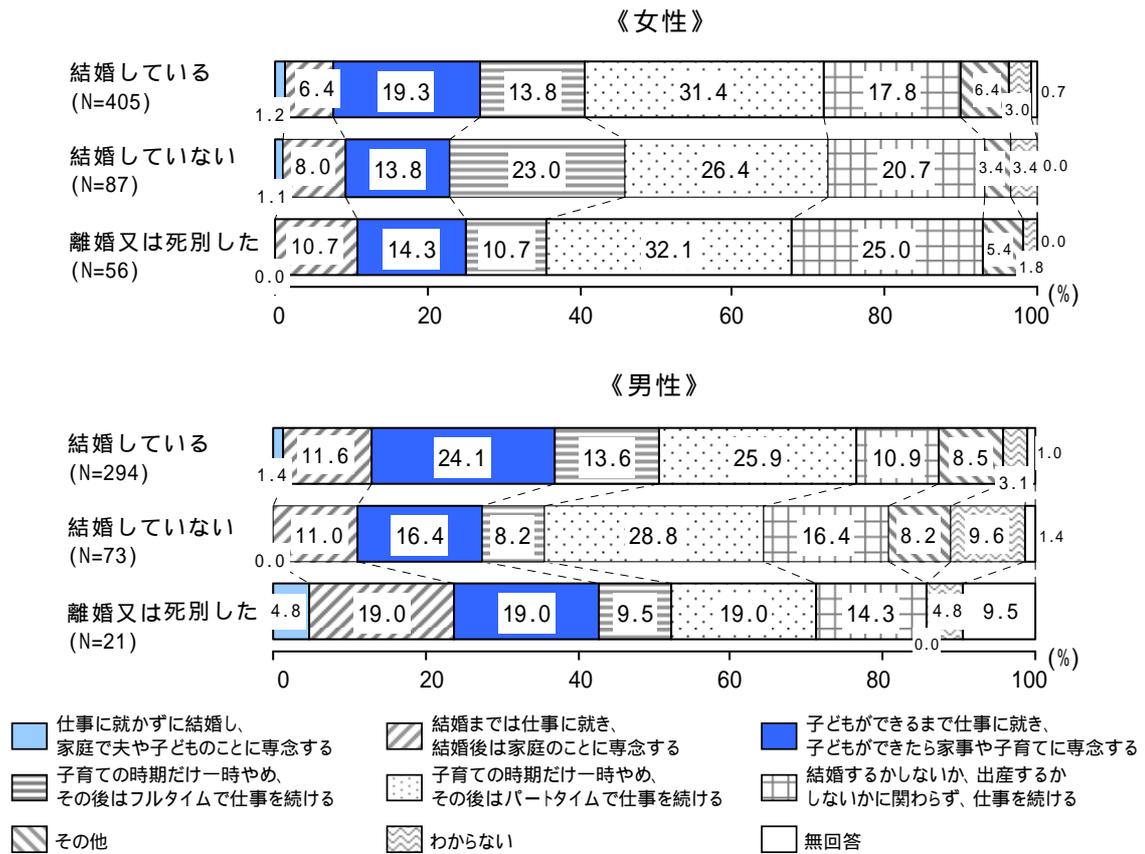


《男性》



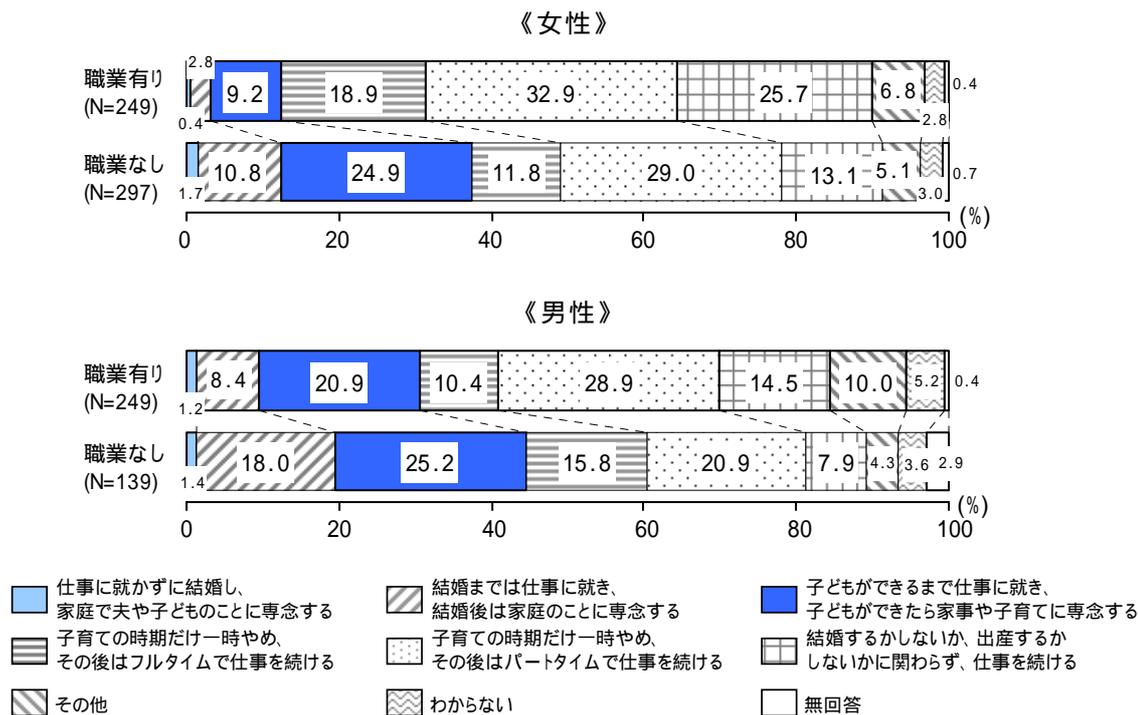
年代別にみると、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」は 30 歳代男性で高くなっている。「結婚までは仕事に就き、結婚後は家庭のことに専念する」、「子どもができるまでは仕事に就き、子どもができたら家事や子育てに専念する」はともに 60 歳以上で高くなっている。

【結婚有無別 女性が仕事に就くことについての考え】



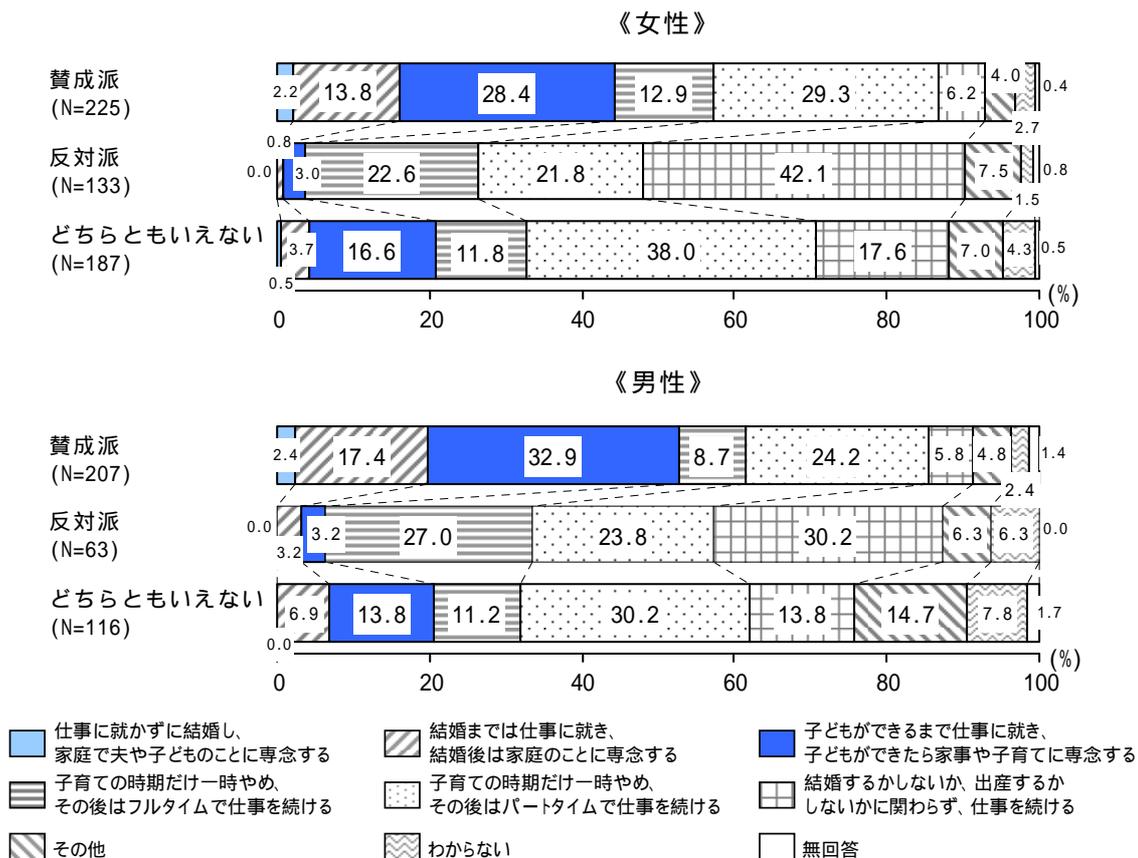
結婚有無別にみると、女性は「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」は結婚していない人の方が高くなっている。

【職業有無別 女性が仕事に就くことについての考え】



職業有無別にみると、男女ともに「仕事に就かずに結婚し、家庭で夫や子どものことに専念する」、「結婚までは仕事に就き、結婚後は家庭のことに専念する」、「子どもができるまでは仕事に就き、子どもができたら家事や子育てに専念する」を合わせた、女性が家庭に入るという考えの人は職業に就いていない人の方が高くなっている。

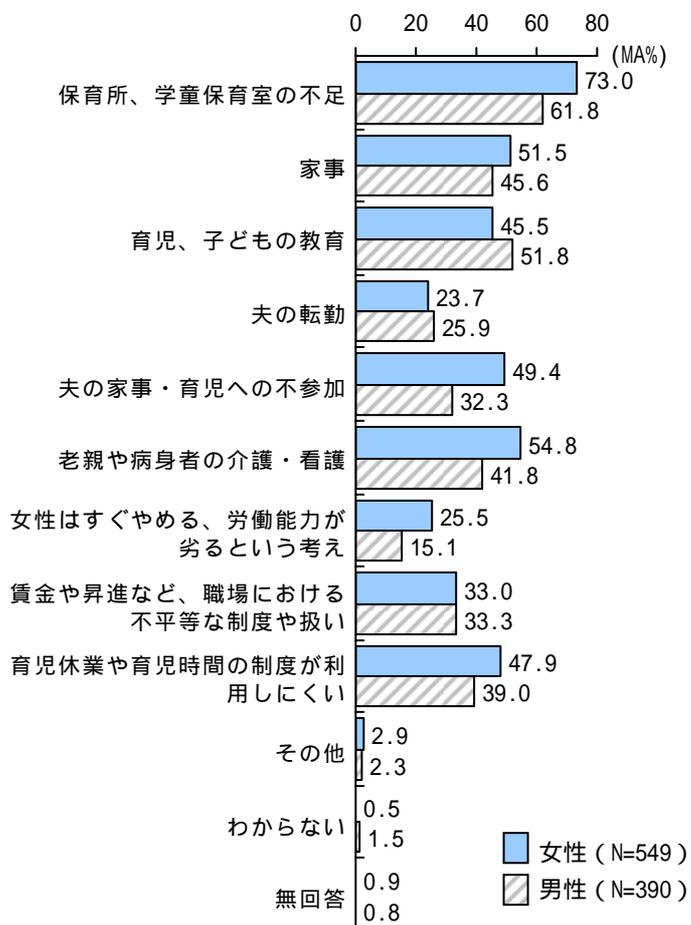
【性別役割分担意識別 女性が仕事に就くことについての考え】



男女ともに、性別役割分担意識に「反対派」の人の方が結婚、出産後の就労意向が高く、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」、「結婚するかしないか、出産するかしないかに関わらず、仕事を続ける」を合わせると、女性の「賛成派」は48.4%、「反対派」は86.5%、男性の「賛成派」は38.7%、「反対派」は81.0%になっている。

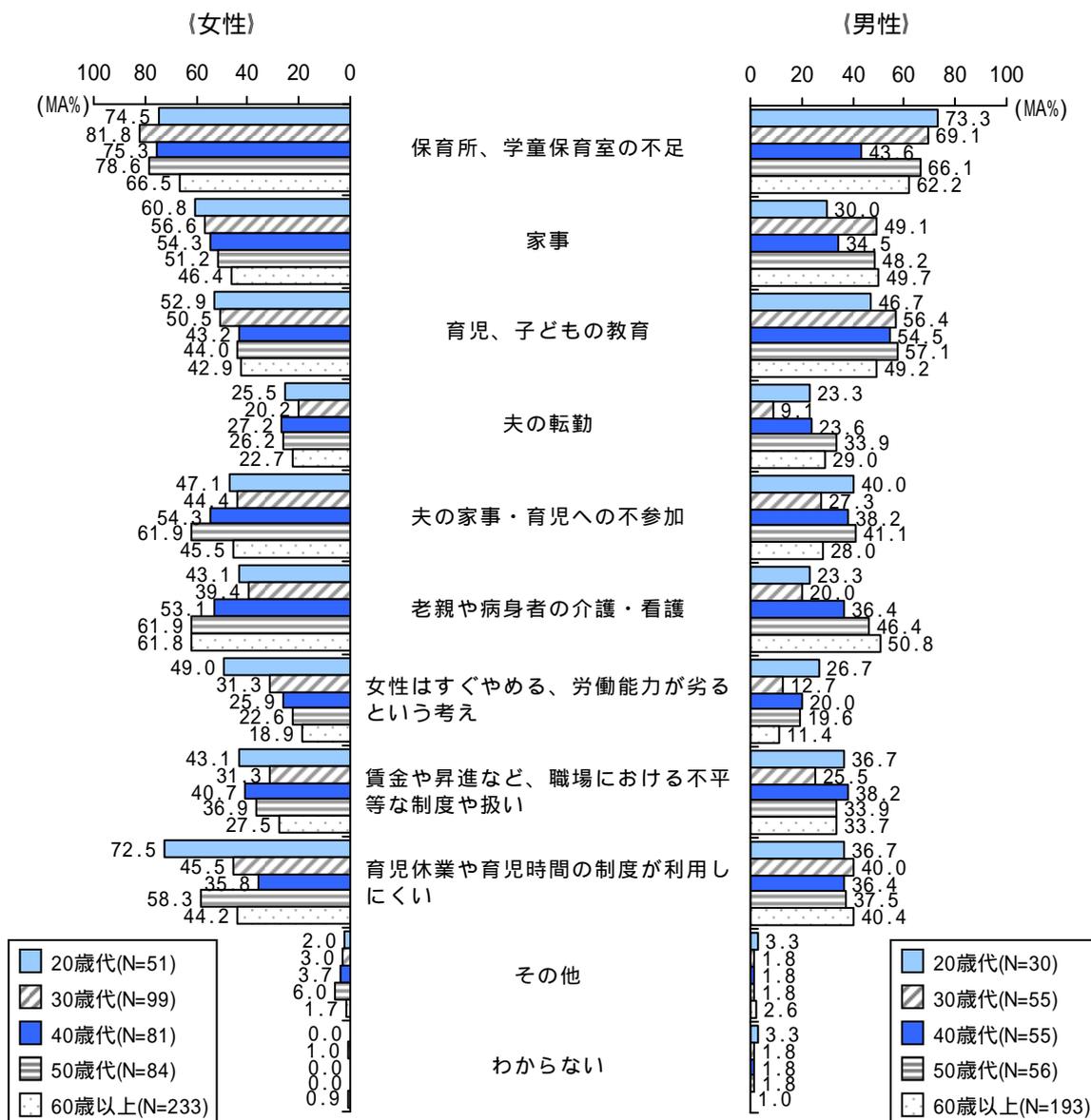
問10 一般的に言って女性が働き続ける場合、どんな困難があると思いますか。(はいくつでも)

【図3 - 2 女性が働き続ける場合に困難だと思うこと】



女性が働き続ける場合に困難だと思うことは、女性では「保育所、学童保育室の不足」が73.0%と最も高く、次いで、「老親や病身者の介護・看護」が54.8%、「家事」が51.5%となっている。男性では「保育所、学童保育室の不足」が61.8%と最も高く、次いで、「育児、子どもの教育」が51.8%、「家事」が45.6%となっている。(図3 - 2)

【年代別 女性が働き続ける場合に困難だと思うこと】



年代別にみると、「保育所、学童保育室の不足」は、30歳代女性で81.8%と高くなっている。「育児休業や育児時間の制度が利用しにくい」は女性の20歳代と50歳代が高く、「夫の家事・育児への不参加」は女性の50歳代で高くなっている。「老親や病身者の介護・看護」は男女ともに高年齢層で高くなっている。

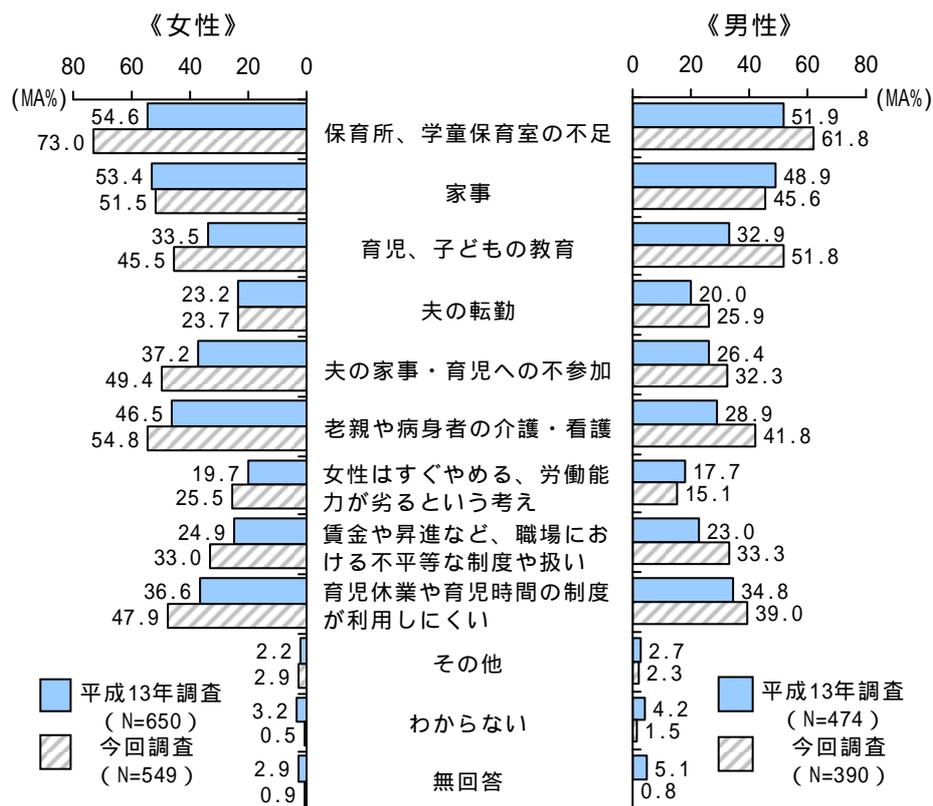
【職業別 女性が働き続ける場合に困難だと思うこと】

(MA%)

	N	保育所、学童保育室の不足	家事	育児、子どもの教育	夫の転勤	夫の家事・育児への不参加	老親や病身者の介護・看護	女性が劣るといえる、労働能力が劣るといえる、労働能	賃金や昇進など、職場における不平等な制度や扱い	育児休業や育児時間の制度が利用しにくい	その他	わからない	無回答	
女性	勤め人(フルタイム)	112	80.4	47.3	43.8	19.6	45.5	43.8	32.1	44.6	50.0	3.6	0.0	0.9
	勤め人(パート・アルバイト)	95	75.8	56.8	40.0	24.2	66.3	56.8	26.3	31.6	49.5	6.3	0.0	0.0
	勤め人(契約・派遣社員)	11	90.9	54.5	45.5	36.4	0.0	45.5	27.3	54.5	45.5	0.0	0.0	0.0
	自営業・自由業(家族従業者を含む)	21	57.1	38.1	33.3	14.3	52.4	52.4	14.3	23.8	47.6	0.0	0.0	4.8
	主婦・主夫	198	73.2	52.0	52.0	25.3	49.5	57.1	22.2	27.8	48.0	2.5	0.5	0.0
	学生	8	50.0	50.0	62.5	37.5	25.0	37.5	62.5	37.5	50.0	0.0	0.0	0.0
	無職	91	65.9	54.9	40.7	24.2	44.0	64.8	24.2	30.8	42.9	1.1	1.1	3.3
	その他	10	70.0	40.0	50.0	30.0	60.0	60.0	20.0	40.0	70.0	0.0	0.0	0.0
男性	勤め人(フルタイム)	162	59.9	46.9	58.0	24.7	35.8	34.0	19.1	33.3	36.4	2.5	1.2	0.6
	勤め人(パート・アルバイト)	19	52.6	52.6	68.4	31.6	15.8	31.6	15.8	42.1	47.4	10.5	5.3	0.0
	勤め人(契約・派遣社員)	23	52.2	43.5	39.1	30.4	56.5	52.2	8.7	34.8	43.5	8.7	4.3	0.0
	自営業・自由業(家族従業者を含む)	33	75.8	33.3	45.5	21.2	30.3	39.4	12.1	24.2	48.5	0.0	0.0	3.0
	主婦・主夫	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	学生	8	87.5	12.5	50.0	12.5	25.0	25.0	50.0	37.5	12.5	0.0	0.0	0.0
	無職	130	63.1	50.0	46.2	28.5	26.2	50.0	10.0	33.1	37.7	0.8	1.5	0.8
	その他	12	58.3	41.7	50.0	16.7	41.7	66.7	16.7	41.7	58.3	0.0	0.0	0.0

職業別にみると、「保育所、学童保育室の不足」は、女性の「勤め人(フルタイム)」、「勤め人(パート・アルバイト)」で7～8割台であるのに対し、男性では5割台となっている。「育児、子どもの教育」は「主婦」で高くなっている。

## 【経年比較 女性が働き続ける場合に困難だと思うこと】

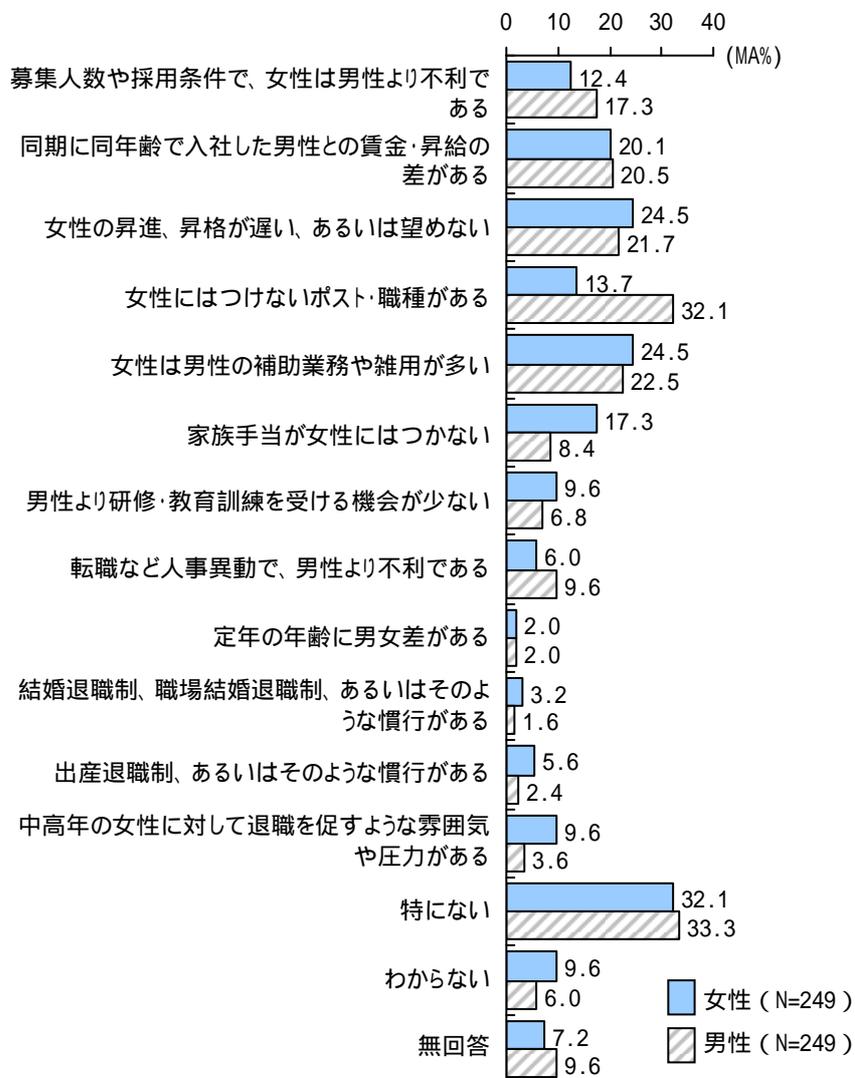


経年比較をみると、「育児、子どもの教育」は女性で12.0ポイント、男性で18.9ポイント増加している。「保育所、学童保育室の不足」では女性で18.4ポイント、男性で9.9ポイント増加している。女性では「夫の家事・育児への不参加」で12.2ポイント、「育児休業や育児時間の制度が利用しにくい」で11.3ポイント増加しており、男性では「老親や病身者の介護・看護」で12.9ポイントの増加となっている。

《現在働いておられる方におたずねします。》

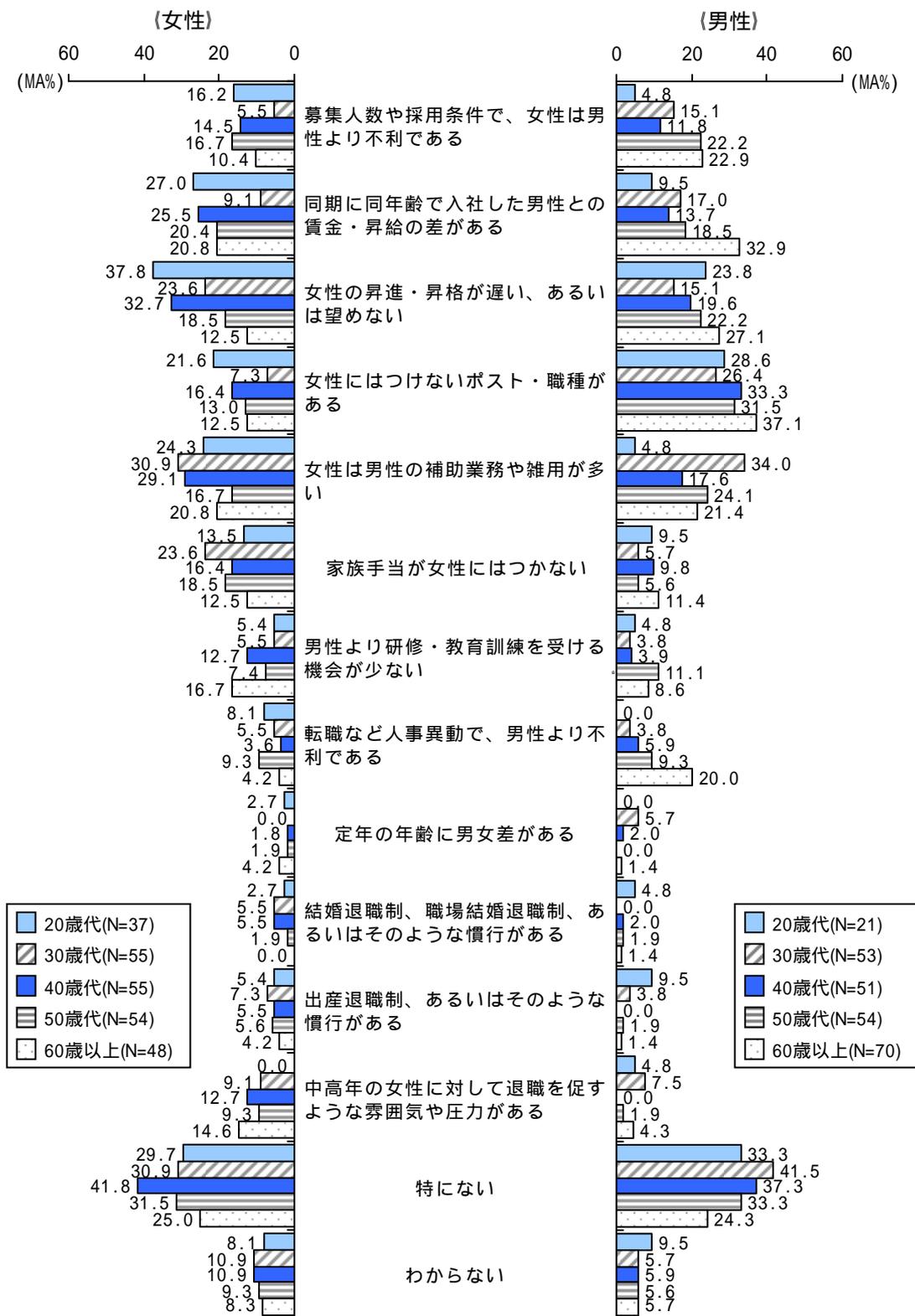
問11 あなたの職場では、女性の就労に対して次にあげるようなことがありますか。(はいいくつでも)

【図3 - 3 職場での男女格差の有無】



職場での男女格差の有無については、「特にない」という人が、女性で32.1%、男性で33.3%となっている。次いで、女性は「女性の昇進・昇格が遅い、あるいは望めない」、「女性は男性の補助業務や雑用が多い」がともに24.5%と高く、「家族手当が女性にはつかない」は男性と比べて8.9ポイント高くなっている。男性では「女性にはつけないポスト・職種がある」が32.1%と最も高く、女性よりも18.4ポイント高くなっている。(図3 - 3)

【年代別 職場での男女格差の有無】



年代別にみると、「女性は男性の補助業務や雑用が多い」が30歳代男性で高くなっている。また、「同期に同年齢で入社した男性との賃金・昇給の差がある」は60歳以上男性で高くなっている。

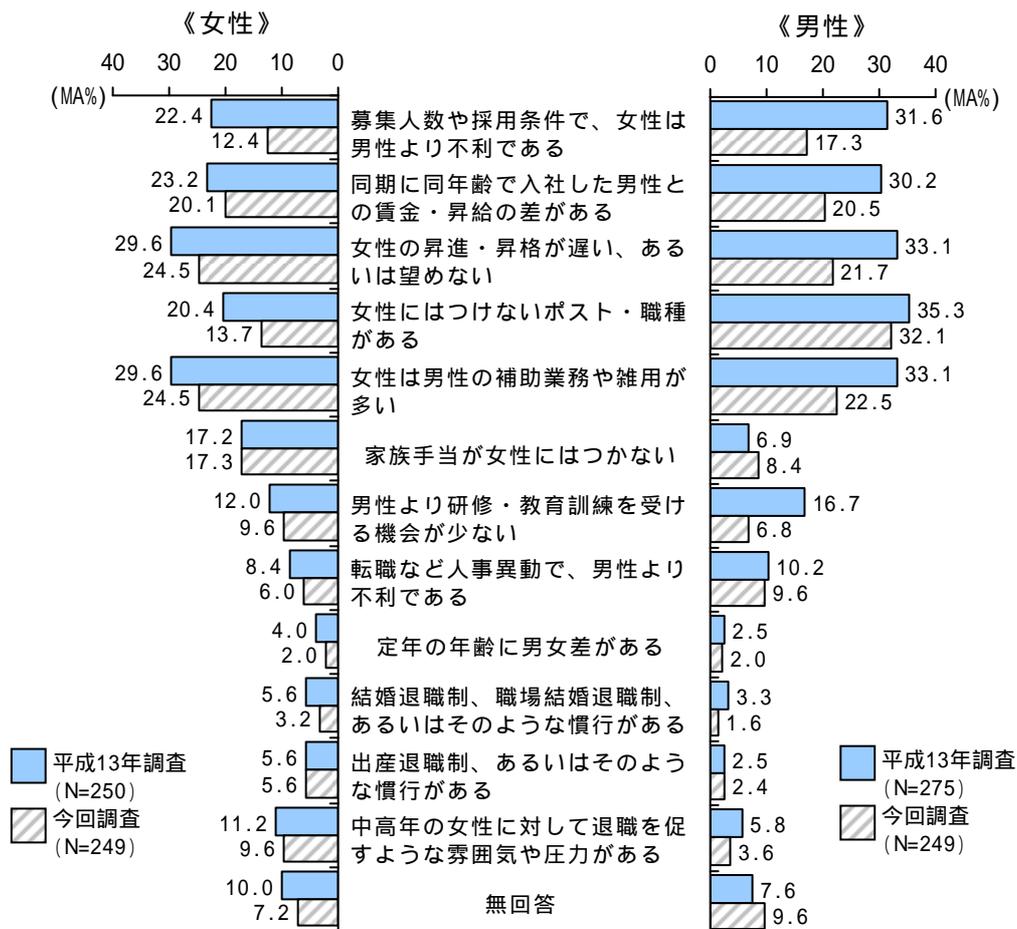
【職業別 職場での男女格差の有無】

(MA%)

	N	募集人数は男性より不利である	男性との賃金・昇給の差	同期に同年齢で入社した女性、あるいは望めない	女性の昇進、昇格が遅い	女性にはつけないポスト・職種がある	女性には男性の補助業務や雑用が多い	家族手当が女性にはつかない	男性より研修・教育訓練を受ける機会が少ない	転職など人事異動で、男性より不利である	定年の年齢に男女差がある	結婚退職制、職場結婚退職制がある	出産退職制、あるいはそのような慣行がある	中高年の女性に対して退職を促すような雰囲気や圧力がある	特にな	わからない	無回答
女性	勤め人(フルタイム)	112	14.3	25.0	33.0	15.2	26.8	19.6	10.7	8.9	1.8	3.6	4.5	7.1	33.9	8.0	0.9
	勤め人(パート・アルバイト)	95	9.5	15.8	17.9	12.6	24.2	13.7	9.5	4.2	1.1	3.2	5.3	14.7	32.6	9.5	7.4
	勤め人(契約・派遣社員)	11	9.1	27.3	36.4	9.1	36.4	27.3	0.0	0.0	0.0	9.1	9.1	9.1	27.3	18.2	0.0
	自営業・自由業(家族従業者を含む)	21	14.3	9.5	9.5	14.3	14.3	19.0	9.5	0.0	4.8	0.0	4.8	0.0	23.8	19.0	33.3
	その他	10	20.0	20.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	0.0	20.0	10.0	30.0	0.0	30.0
男性	勤め人(フルタイム)	162	18.5	17.9	21.6	34.0	25.9	8.0	6.2	6.2	2.5	1.9	3.7	3.7	39.5	2.5	3.1
	勤め人(パート・アルバイト)	19	10.5	31.6	26.3	21.1	21.1	5.3	5.3	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0	21.1	10.5	26.3
	勤め人(契約・派遣社員)	23	17.4	26.1	17.4	39.1	17.4	8.7	13.0	17.4	0.0	4.3	0.0	8.7	30.4	8.7	4.3
	自営業・自由業(家族従業者を含む)	33	18.2	21.2	18.2	24.2	12.1	9.1	9.1	15.2	3.0	0.0	0.0	3.0	24.2	21.2	18.2
	その他	12	8.3	25.0	33.3	33.3	16.7	16.7	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	58.3

職業別にみると、「中高年の女性に対して退職を促すような雰囲気や圧力がある」では女性の「勤め人(パート・アルバイト)」で高くなっている。

【経年比較 職場での男女格差の有無】



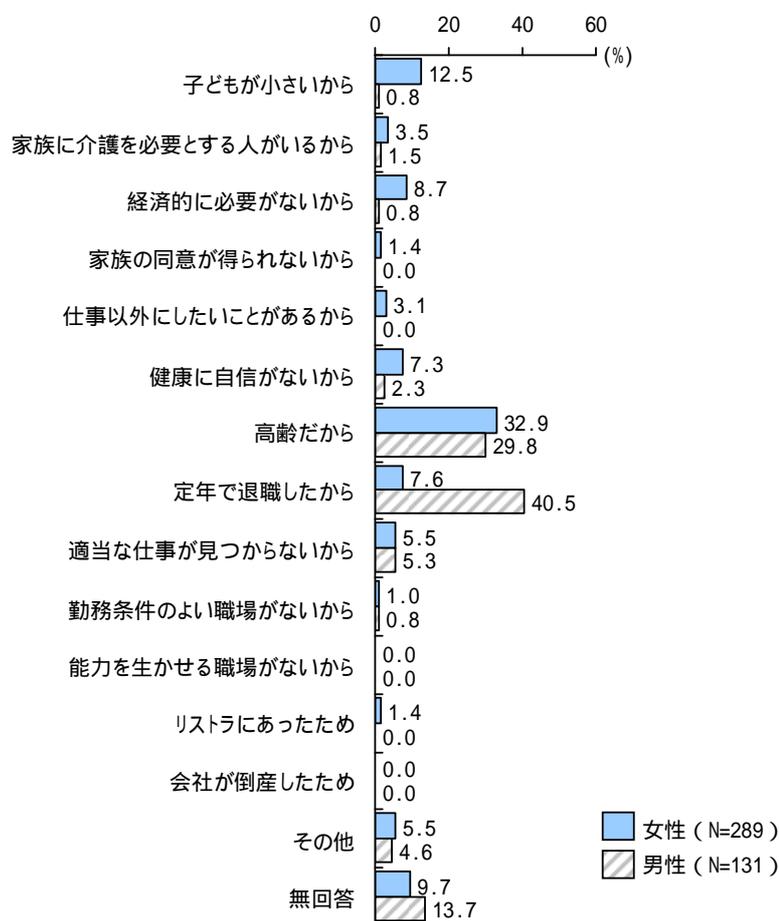
前回調査と比べると、「募集人数や採用条件で、女性は男性より不利である」は女性で10.0ポイント、男性で14.3ポイント減となっており、大幅に減少している。

他の項目については、女性は全体的には僅かに減少しているものの大きな変動はなく、男性では「女性の昇進・昇格が遅い、あるいは望めない」で11.4ポイント、「女性は男性の補助業務や雑用が多い」で10.6ポイントと、10ポイント以上減少している項目が見られる。

《「学生」以外で、現在働いておられない方におたずねします。》

問12 あなたが現在仕事をしていない最大の理由は何ですか。( は1つ)

【図3 - 4 現在仕事をしていない最大の理由】

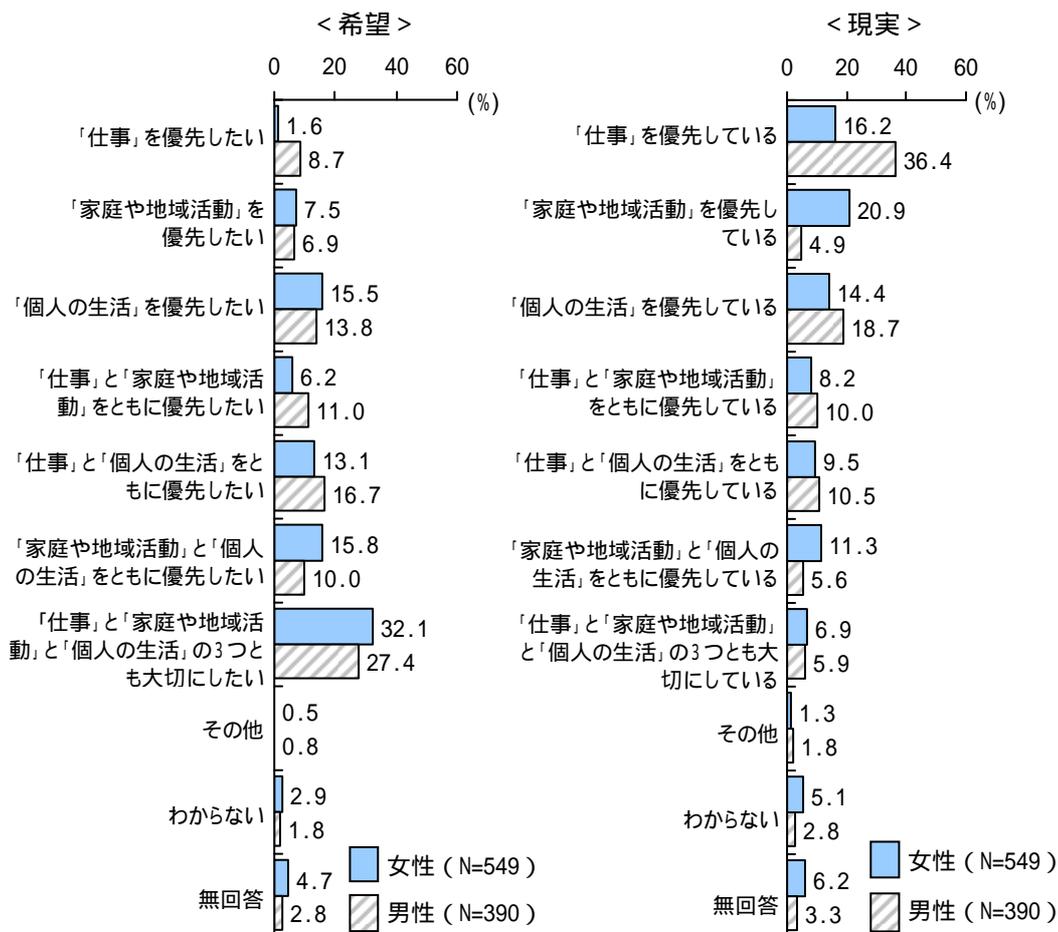


現在仕事をしていない最大の理由は、女性は「高齢だから」が32.9%と高く、次いで、「子どもが小さいから」が12.5%と男性よりも11.7ポイント高くなっている。男性は「定年で退職したから」が40.5%、「高齢だから」が29.8%と高くなっている。(図3 - 4)

## 4. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

問13 あなたは生活の中で、「仕事」、「家庭や地域活動」、「個人の生活」で何を優先しますか。あなたの希望と現実（現状）に最も近いものをそれぞれについてお答えください。（それぞれ は1つ）

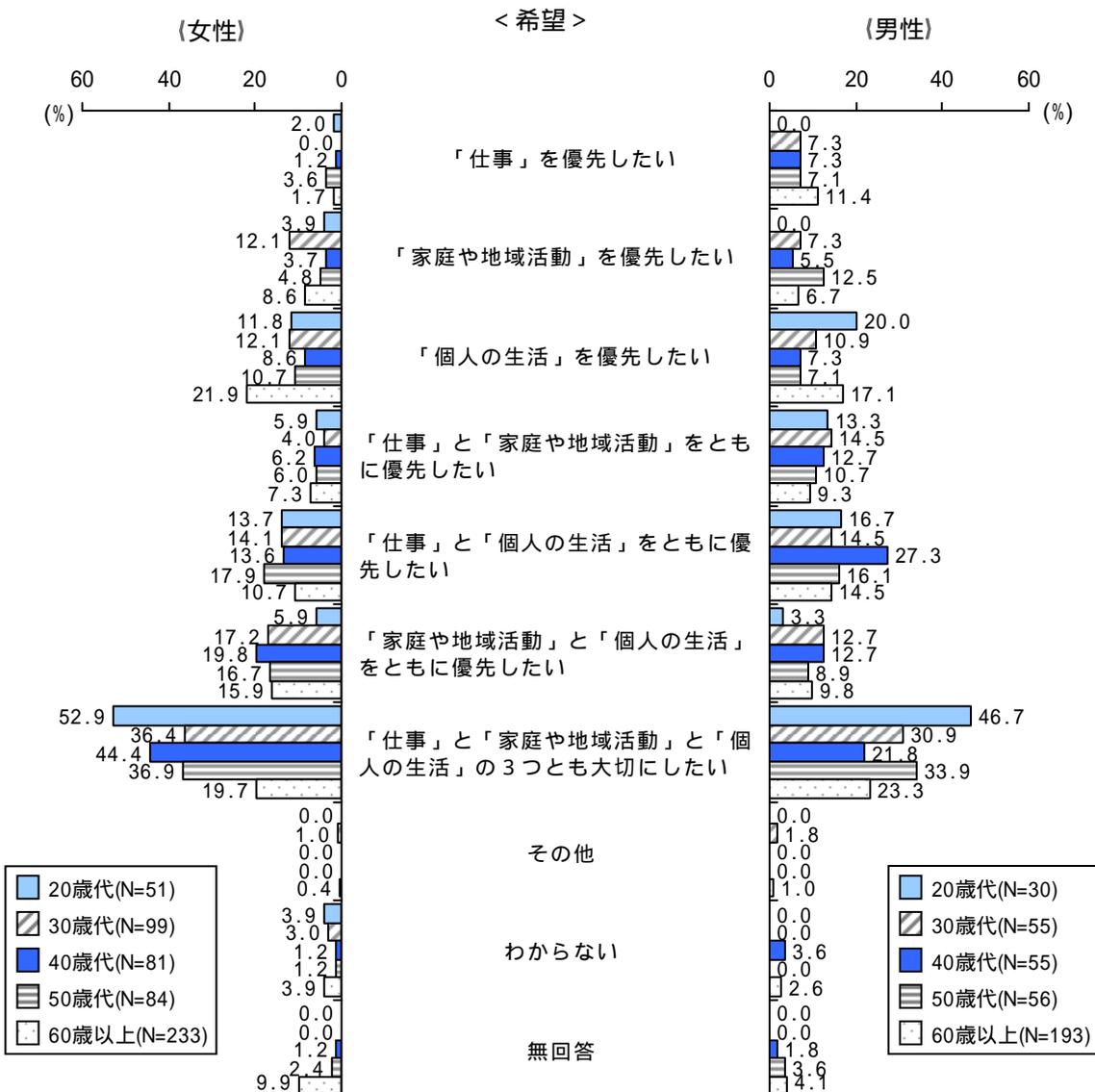
【図4-1 生活の中で優先したいこと、優先していること】



生活の中で優先したいことは、男女ともに「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の3つとも大切にしたいが最も高く、女性で32.1%、男性で27.4%となっている。男性では「仕事」を優先したいで女性よりも7.1ポイント高くなっている。

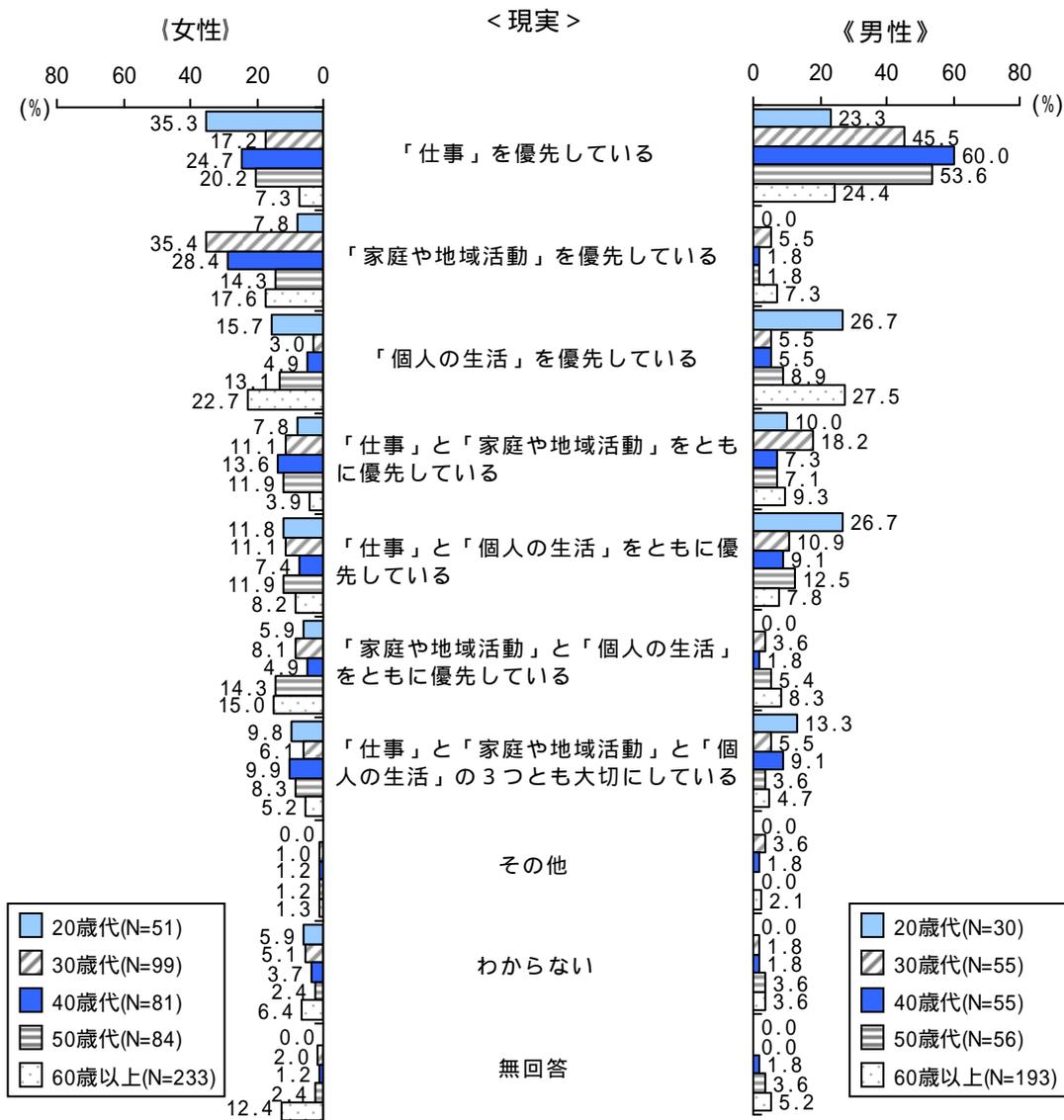
生活の中で優先していることは、女性は「家庭や地域活動」を優先しているが20.9%と高く、次いで、「仕事」を優先しているが16.2%となっている。男性は「仕事」を優先しているが36.4%と最も高く、次いで、「個人の生活」を優先しているが18.7%となっている。（図4-1）

【年代別 生活の中で優先したいこと】



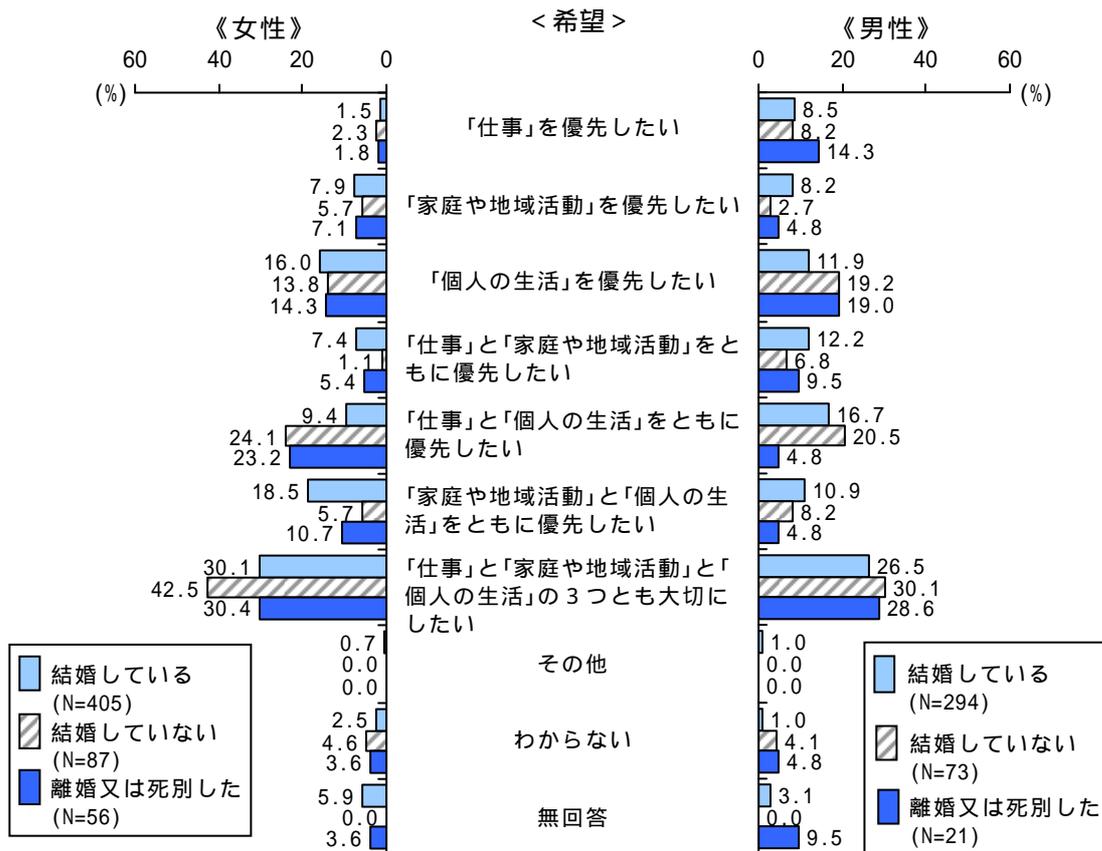
年代別にみると、「「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の3つとも大切にしたい」は男女ともに 20 歳代で高くなっており、女性で 52.9%、男性で 46.7%となっている。「「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい」は男性の 40 歳代で、「「個人の生活」を優先したい」は女性の 60 歳以上で高くなっている。

【年代別 生活の中で優先していること】



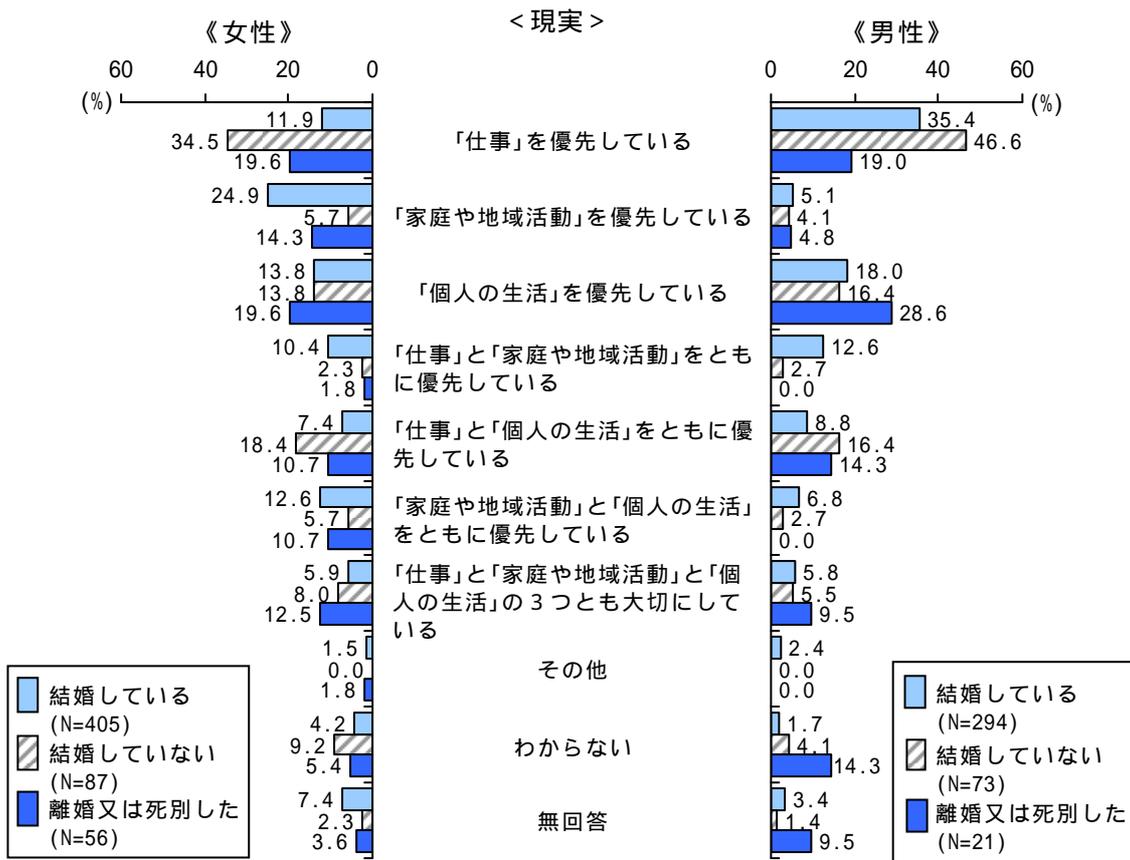
年代別にみると、女性では「「仕事」を優先している」が20歳代で35.3%と高く、「「家庭や地域活動」を優先している」は30歳代で35.4%と高くなっている。男性では「「仕事」を優先している」が40歳代を中心に中年層で高くなっている。

【結婚有無別 生活の中で優先したいこと】



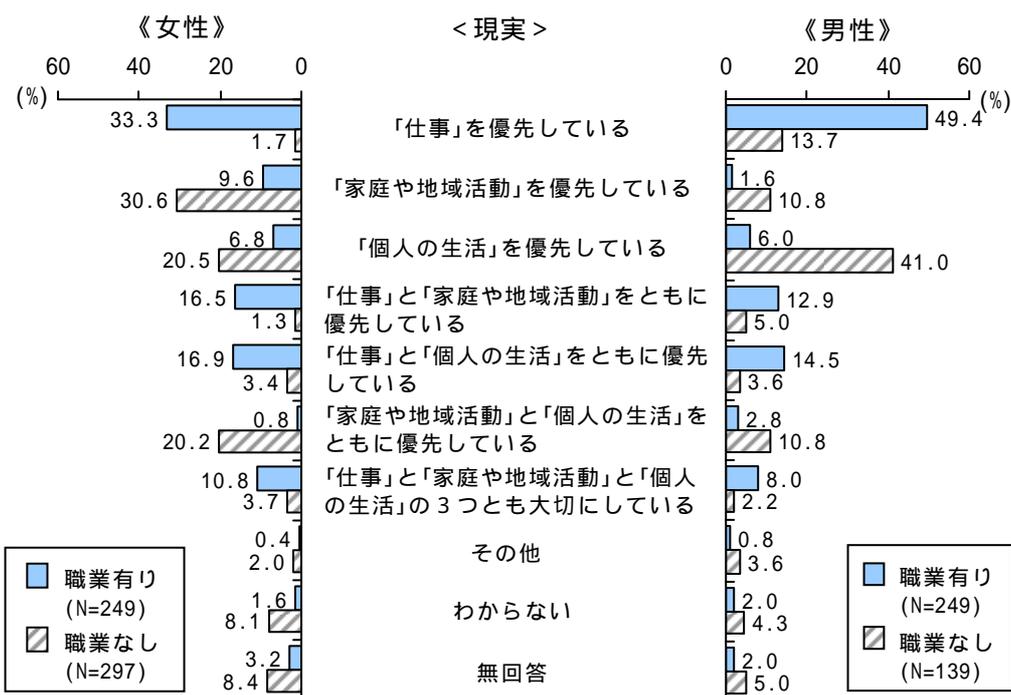
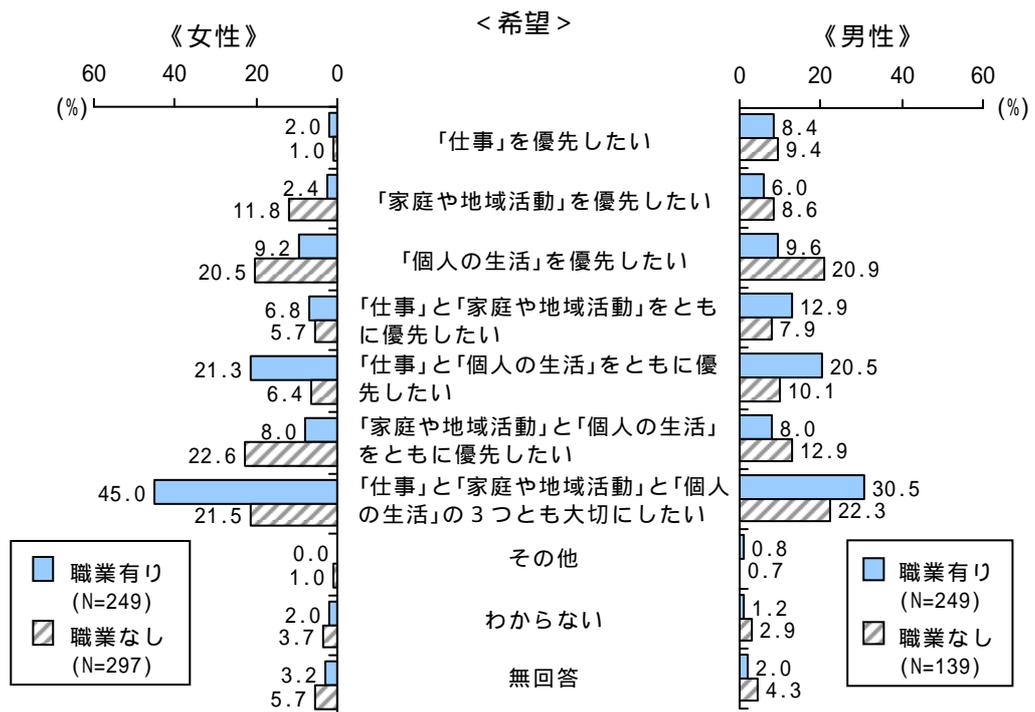
結婚有無別にみると、女性では「「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の3つとも大切にしたい」は未婚者の方が既婚者よりも12.4ポイント高く、「「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい」でも未婚者の方が14.7ポイント高くなっている。

【結婚有無別 生活の中で優先していること】



結婚有無別にみると、女性では「「仕事」を優先している」が未婚者の方が22.6ポイント高く、「「家庭や地域活動」を優先している」は既婚者の方が19.2ポイント高くなっている。男性では「「仕事」と「家庭や地域活動」をともに優先している」で既婚者の方が9.9ポイント高くなっている。

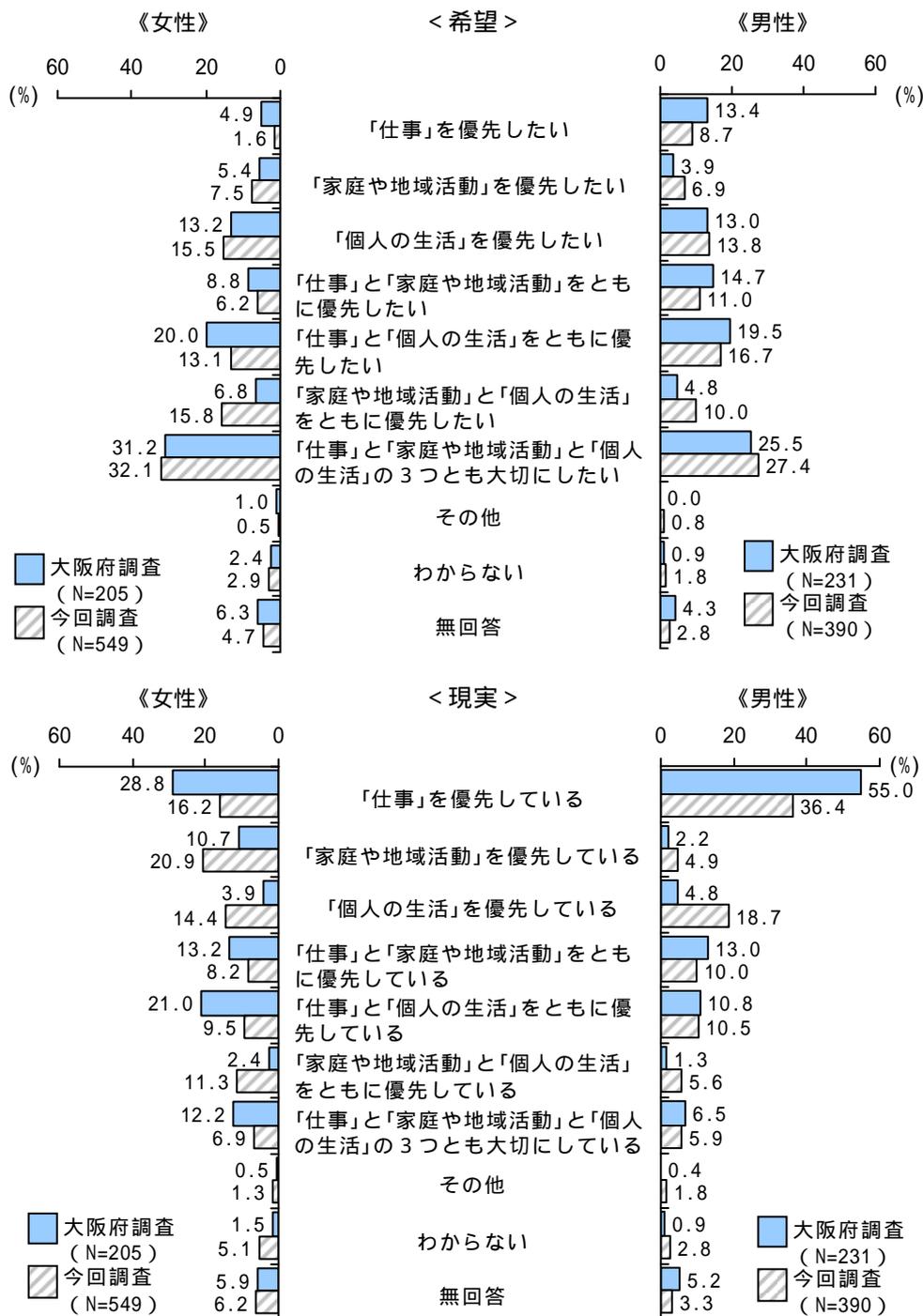
【職業有無別 生活の中で優先したいこと、していること】



職業有無別にみると、「希望」では「「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の3つとも大切にしたい」、「「仕事」と「個人の生活」とともに優先したい」は、女性では職業がある人の方が高くなっている。「「個人の生活」を優先したい」では男女ともに職業がない人の方が高くなっている。

「現実」では、「「仕事」を優先している」は男女ともに職業がある人が高く、「「家庭や地域活動」を優先している」は女性で、職業がない人の方が高くなっている。

【大阪府との比較 生活の中で優先したいこと、優先していること】

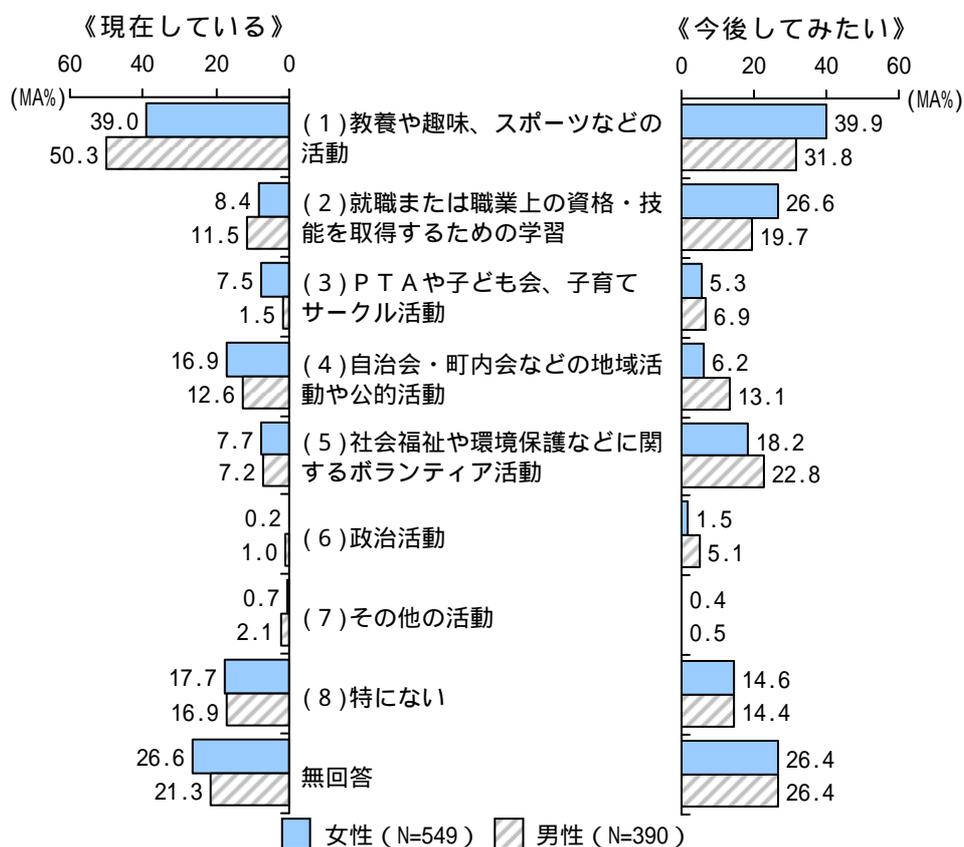


大阪府調査との比較をみると、「希望」では、男女ともに「家庭や地域活動」と「個人の生活」ともに優先したいは大阪府よりも高槻市の方が高くなっている。

「現実」では、男女ともに「仕事」を優先しているは大阪府よりも高槻市の方が低くなっているが、女性で「家庭や地域活動」を優先しているは高槻市の方が10.2ポイント高くなっている。「個人の生活」を優先しているは、男性で高槻市の方が13.9ポイント高くなっている。

問14 あなたは、何か趣味・スポーツ、その他社会的な活動をしていますか。また、今後してみたい活動は何ですか。(現在している、今後してみたいと思うものそれぞれに はいくつでも)

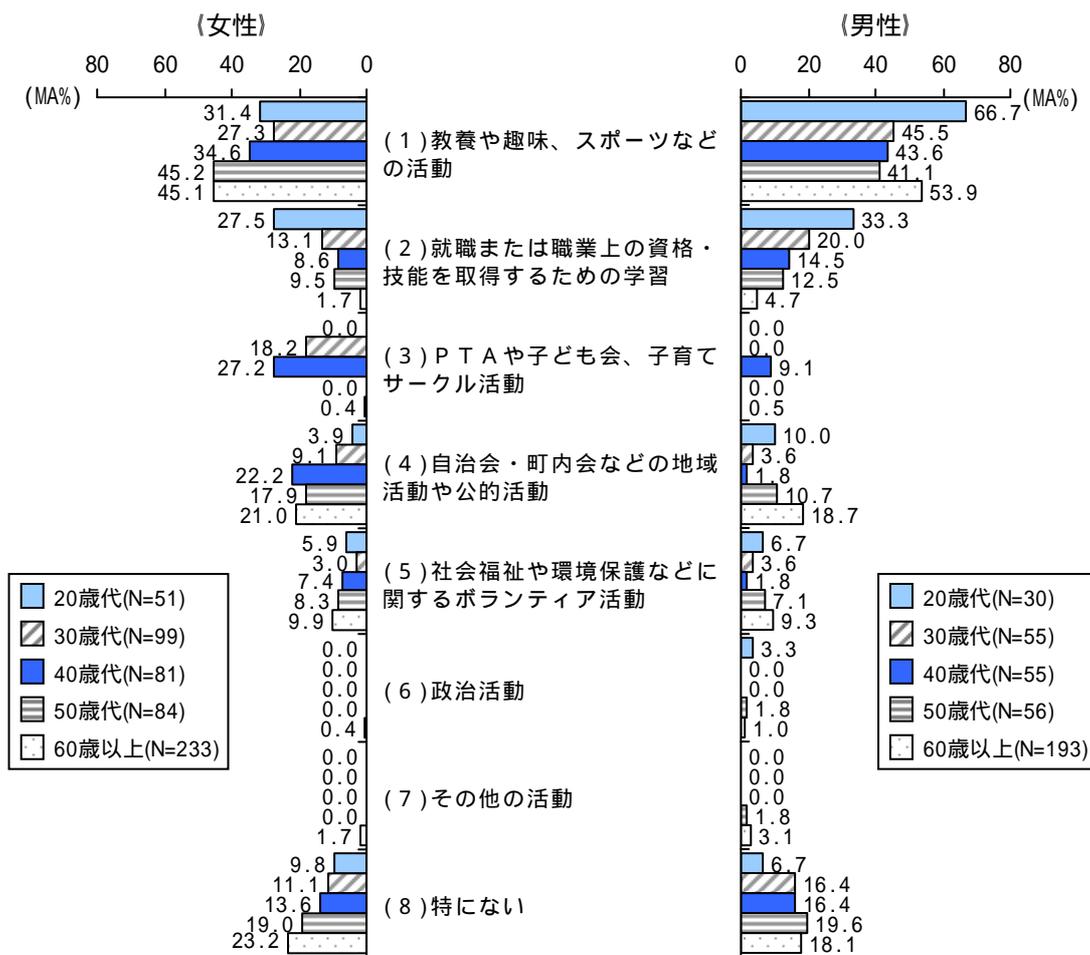
【図4-2 現在している社会的な活動、今後してみたい社会的な活動】



現在している社会的な活動は、男女ともに「(1) 教養や趣味、スポーツなどの活動」が最も高く、女性で39.0%、男性で50.3%となっている。次いで、「(4) 自治会・町内会などの地域活動や公的活動」が女性で16.9%、男性で12.6%となっている。「(8) 特にない」は女性で17.7%、男性で16.9%となっている。

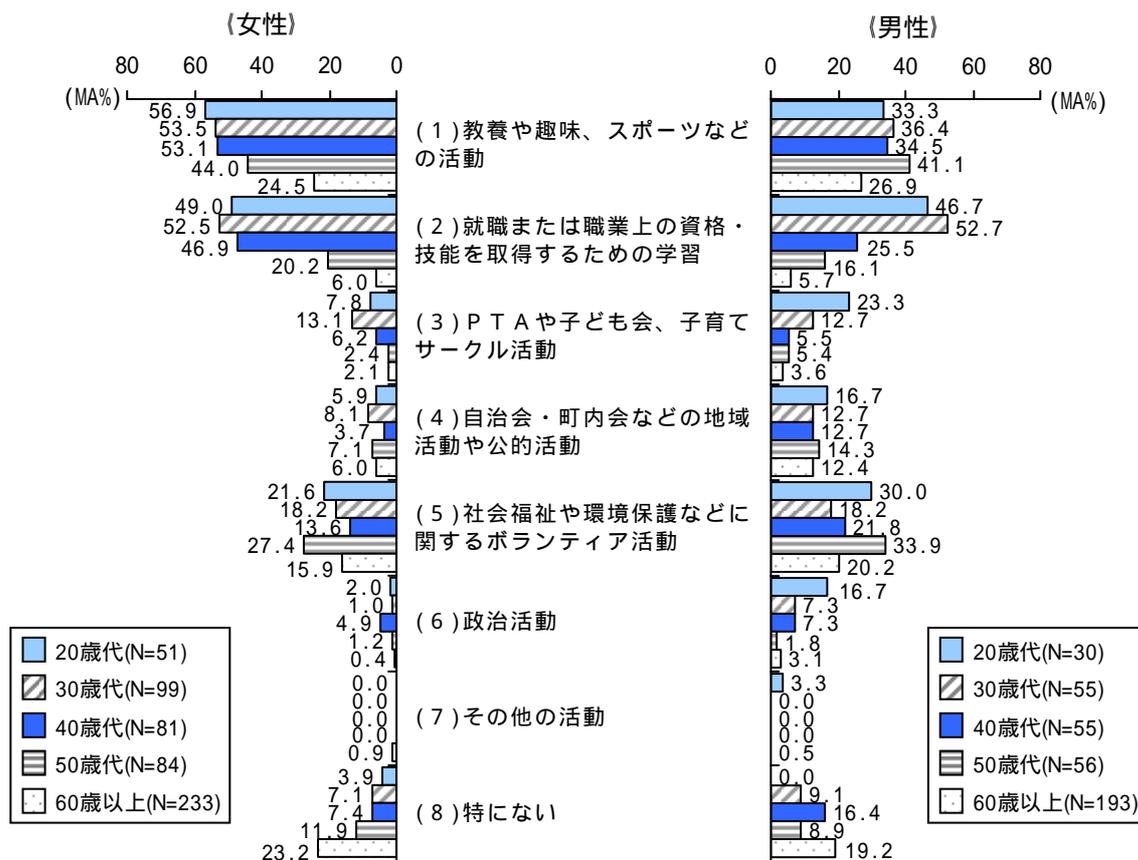
今後してみたい社会的な活動は、男女ともに「(1) 教養や趣味、スポーツなどの活動」が最も高く、女性で39.9%、男性で31.8%となっている。次いで、女性では「(2) 就職または職業上の資格・技能を取得するための学習」が26.6%、男性では「(5) 社会福祉や環境保護などに関するボランティア活動」が22.8%となっている。(図4-2)

【年代別 現在している社会的な活動】



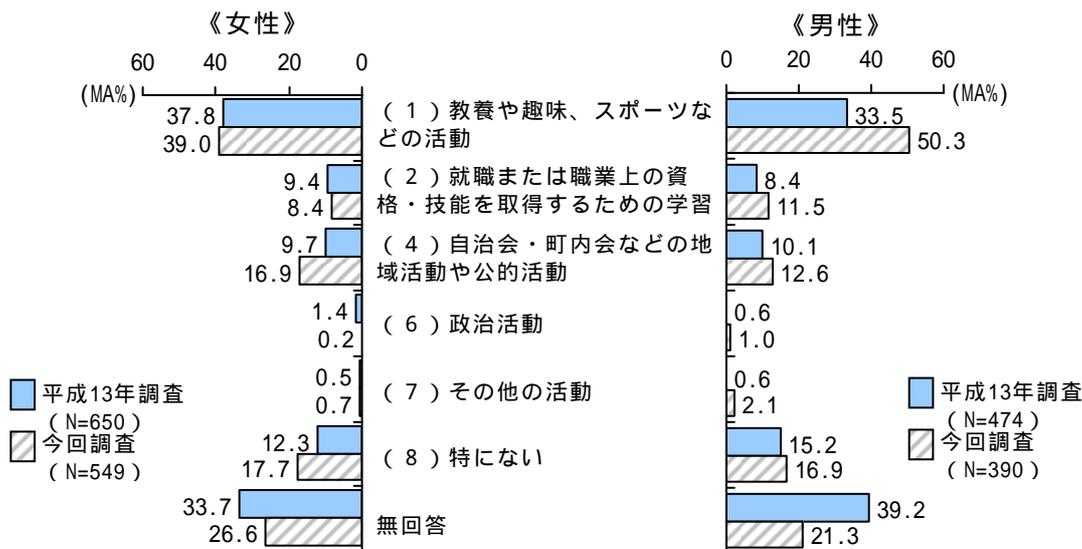
年代別にみると、「(1) 教養や趣味、スポーツなどの活動」は女性では50～60歳代で4割台、20歳代、40歳代では3割台となっている。「(2) 就職または職業上の資格・技能を取得するための学習」では男女ともに若年層ほど割合は高くなっている。「特にない」は女性の60歳以上で高くなっている。

【年代別 今後してみたい社会的な活動】

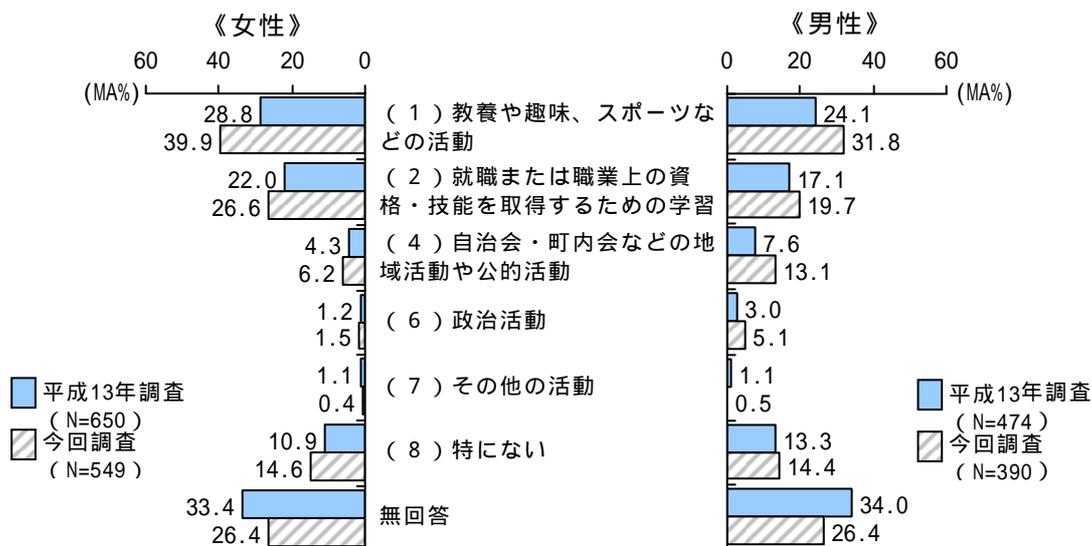


年代別にみると、「(2) 就職または職業上の資格・技能を取得するための学習」は男女ともに若年層で高く、30歳代では女性が52.5%、男性が52.7%となっている。40歳代では女性が同年代の男性よりも21.4ポイント高くなっている。「(5) 社会福祉や環境保護などに関するボランティア活動」では男女ともに50歳代で高くなっている。

【経年比較 現在している社会的な活動】



【経年比較 今後してみたい社会的な活動】



「(3) PTAや子ども会、子育てサークル活動」は前回調査では「PTAや子ども会の活動」、「子育てサークル活動」と設定されている。

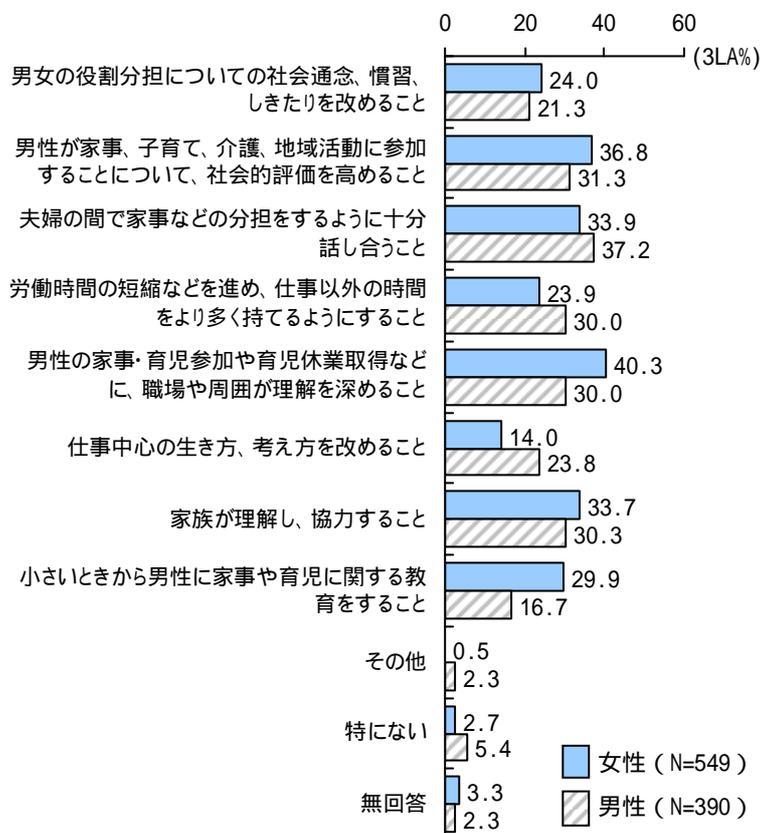
「(5) 社会福祉や環境保護などに関するボランティア活動」は前回調査では「高齢者や障害者の世話など社会福祉に関するボランティア活動」、「自然保護、環境美化など地域環境に関するボランティア活動」と設定されている。

経年比較をみると、現在している社会的な活動では「(1) 教養や趣味、スポーツなどの活動」が男性で16.8ポイント増加している。「(4) 自治会・町内会などの地域活動や公的活動」は女性で増加している。

今後してみたい社会的な活動では、「(1) 教養や趣味、スポーツなどの活動」で男女ともに増加しており、女性で11.1ポイント、男性で7.7ポイント増加している。「(4) 自治会・町内会などの地域活動や公的活動」は男性で5.5ポイント増加している。

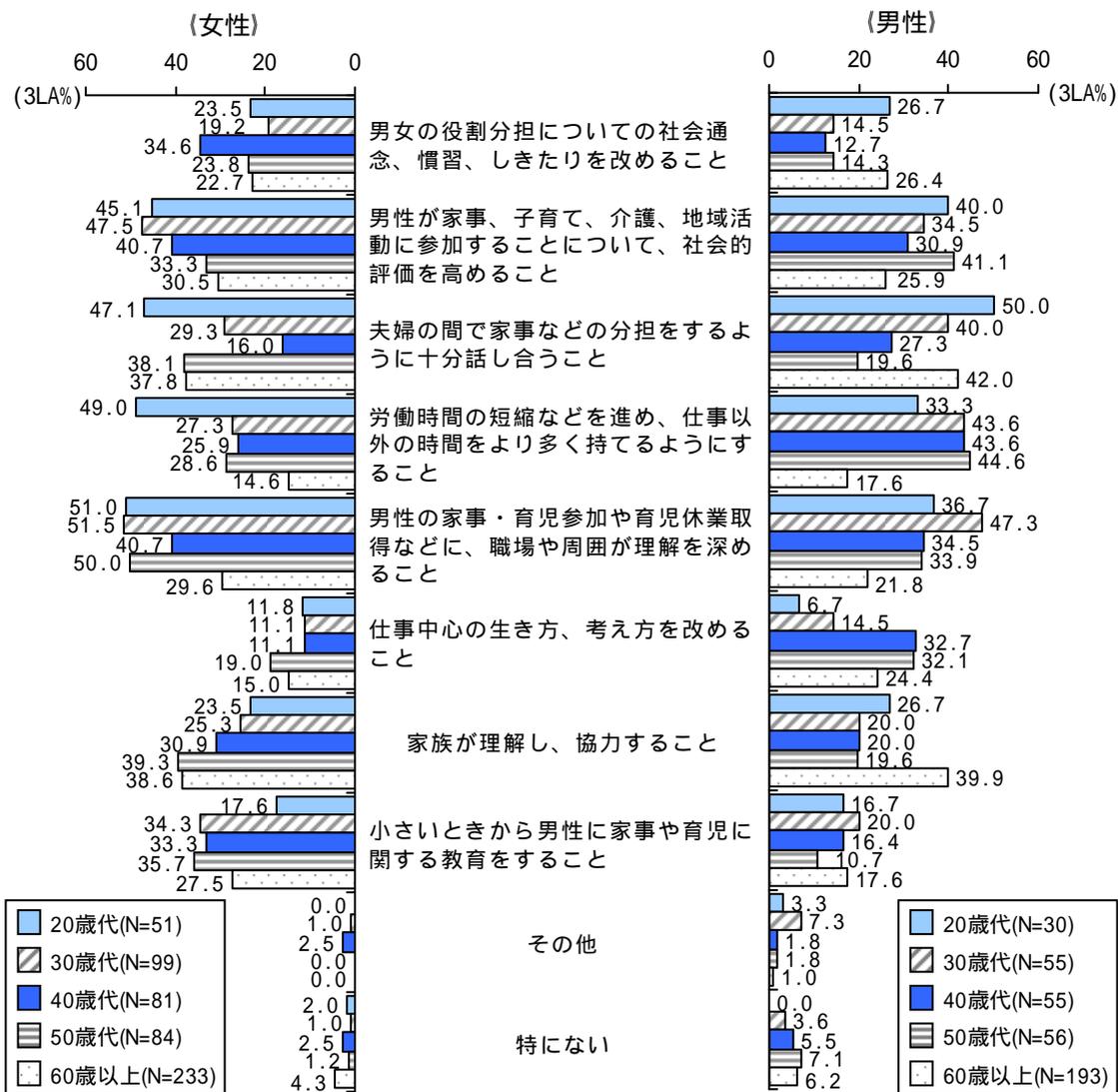
問15 男性が家庭や地域によりいっそう参画していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。( は3つまで)

【図4-3 男性が家庭や地域に参画していくために重要だと思うこと】



男性が家庭や地域に参画していくために重要だと思うことは、女性は「男性の家事・育児参加や育児休業取得などに、職場や周囲が理解を深めること」が40.3%、「男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること」が36.8%、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」が33.9%、「家族が理解し、協力すること」が33.7%となっている。男性は「夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」が37.2%、「男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること」が31.3%、「家族が理解し、協力すること」が30.3%となっている。(図4-3)

【年代別 男性が家庭や地域に参画していくために重要だと思うこと】



年代別にみると、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」は、女性では若年層で高く、女性の20歳代で47.1%となっている。「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」では女性は20歳代で約半数と高く、男性では30~50歳代で4割台となっている。「仕事中心の生き方、考え方を改めること」では男性の40~50歳代で高く、「家族が理解し、協力すること」では男女ともに高年齢層で高くなっている。

【職業別 男性が家庭や地域に参画していくために重要だと思うこと】

(3LA%)

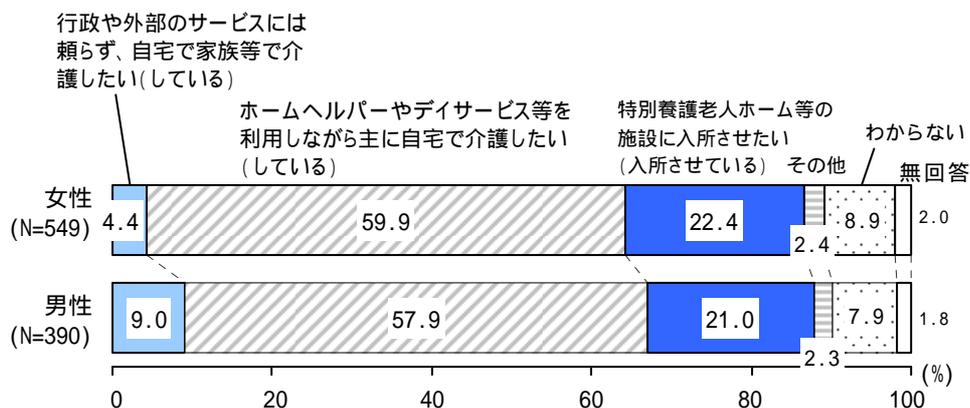
	N	たの男 りの女 社会を 通念改 めると 慣習に ついて きいて	価を を高く めると 地域活 動に参 加する こと	合担 をすす めるこ と	夫を の間に 家事に 十分話 すこと	り多 く持 てるよ うにす ること	め働 時間 の短縮 などを 進める	場や 周囲が 理解を 深める	育男 児の家事 ・育児参 加や	方仕 事を中 心の生 き方、 考え	こ家 族が理 解し、 協力す ること	や小 さいに 時から 関する 男性に 対する 教育を すること	そ の他	特 に ない	無 回 答
女性	勤め人 (フルタイム)	112	24.1	45.5	32.1	29.5	42.9	17.0	27.7	32.1	0.9	0.0	0.0	1.8	
	勤め人 (パート・アルバイト)	95	33.7	40.0	29.5	18.9	49.5	8.4	32.6	36.8	0.0	3.2	1.1		
	勤め人 (契約・派遣社員)	11	9.1	36.4	36.4	36.4	54.5	9.1	63.6	27.3	0.0	0.0	0.0		
	自営業・自由業 (家族従業者を含む)	21	14.3	23.8	33.3	9.5	42.9	19.0	42.9	23.8	0.0	0.0	4.8		
	主婦・主夫	198	22.7	34.8	33.3	25.8	35.4	15.7	35.4	28.8	1.0	2.5	4.0		
	学生	8	12.5	37.5	50.0	62.5	37.5	0.0	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0		
	無職	91	24.2	30.8	39.6	18.7	36.3	14.3	33.0	26.4	0.0	5.5	5.5		
	その他	10	10.0	40.0	40.0	10.0	50.0	10.0	50.0	30.0	0.0	0.0	10.0		
男性	勤め人 (フルタイム)	162	14.8	35.8	30.2	45.1	36.4	28.4	18.5	15.4	4.3	3.7	2.5		
	勤め人 (パート・アルバイト)	19	5.3	26.3	52.6	31.6	36.8	5.3	31.6	21.1	5.3	5.3	10.5		
	勤め人 (契約・派遣社員)	23	21.7	30.4	43.5	21.7	30.4	8.7	34.8	30.4	0.0	13.0	0.0		
	自営業・自由業 (家族従業者を含む)	33	27.3	24.2	30.3	15.2	24.2	36.4	30.3	9.1	0.0	12.1	0.0		
	主婦・主夫	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	学生	8	12.5	25.0	75.0	25.0	50.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0		
	無職	130	28.5	27.7	41.5	18.5	20.8	22.3	41.5	17.7	0.8	5.4	2.3		
	その他	12	41.7	33.3	33.3	16.7	33.3	25.0	58.3	8.3	0.0	0.0	0.0		

職業別にみると、女性の「勤め人（フルタイム）」と「勤め人（パート・アルバイト）」で、「男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること」（フルタイム 45.5%、パート・アルバイト 40.0%）と「男性の家事・育児参加や育児休業取得などに、職場や周囲が理解を深めること」（フルタイム 42.9%、パート・アルバイト 49.5%）が高い。男性の「勤め人（フルタイム）」では、「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」（45.1%）と「男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること」（36.4%）が高い。また、女性の「主婦」では、「男性の家事・育児参加や育児休業取得などに、職場や周囲が理解を深めること」、「家族が理解し、協力すること」がともに 35.4%、「男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること」が 34.8%となっている。

## 5 . 介護について

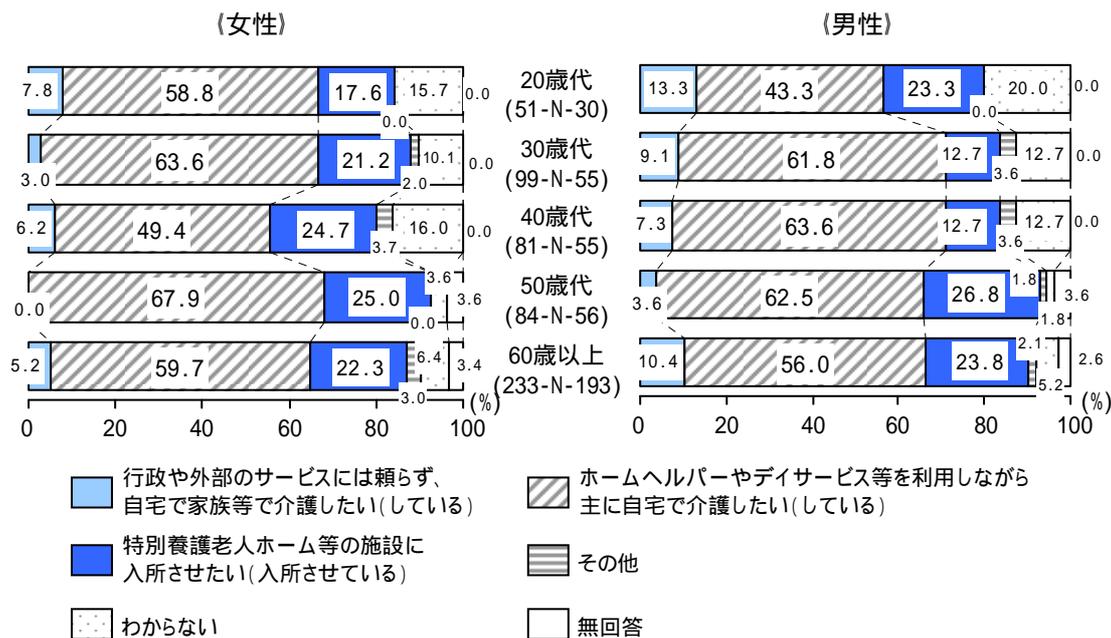
問16 あなたは、自分の家族の中に介護を要する人がいる場合、または、もし家族が介護を要する状態となった場合、どのようにしたいとお考えですか。( は1つ)

【図5 - 1 希望する家族の介護形態】



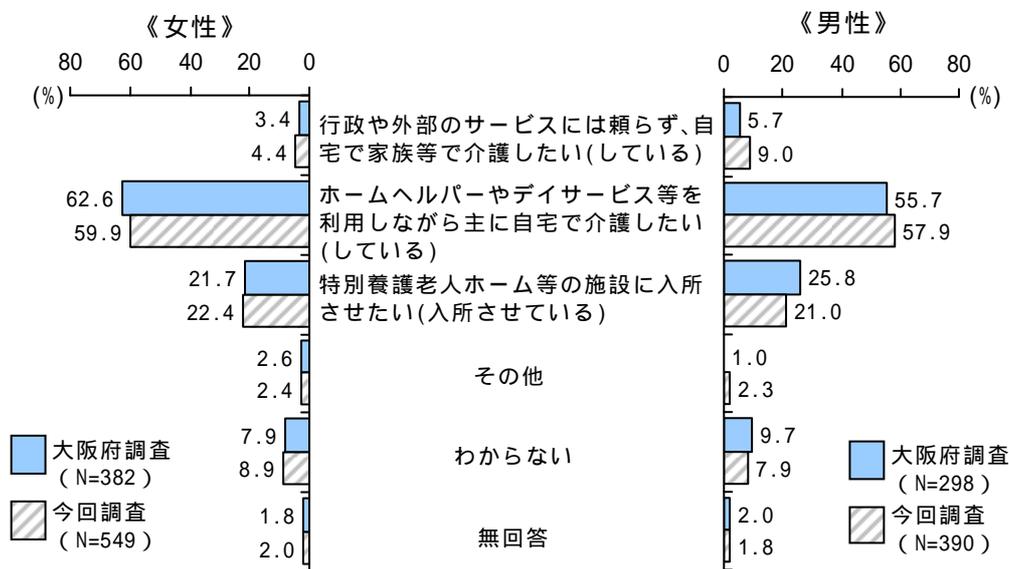
希望する家族の介護形態は、「ホームヘルパーやデイサービス等を利用しながら主に自宅で介護したい(している)」が女性で59.9%、男性で57.9%と6割弱と高くなっている。次いで、「特別養護老人ホーム等の施設に入所させたい(入所させている)」は、女性で22.4%、男性で21.0%となっている。(図5 - 1)

【年代別 希望する家族の介護形態】



年代別にみると、男女とも年代による違いはあまりみられない。

【大阪府との比較 希望する家族の介護形態】

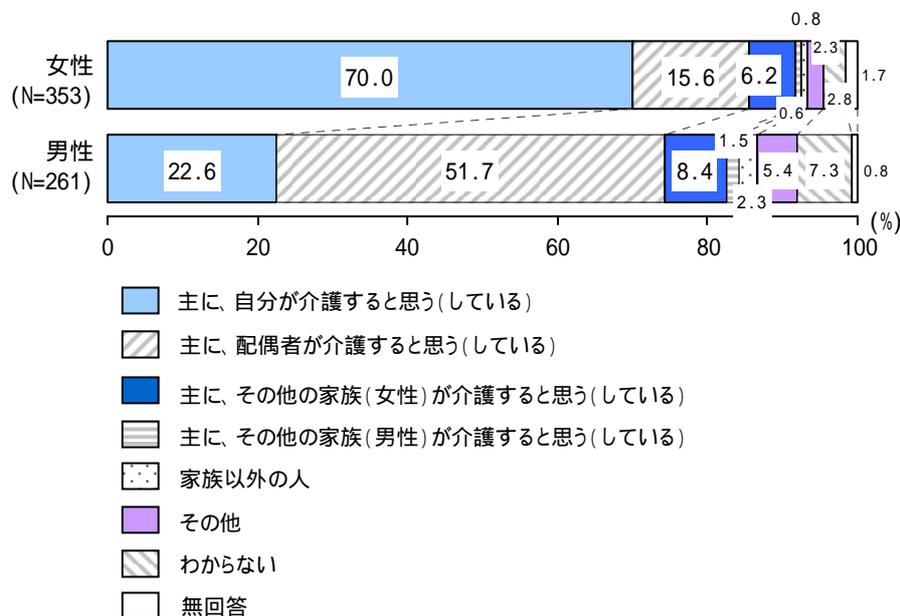


大阪府調査と比較してみると、高槻市の結果はほぼ同じような傾向になっている。

《問16で「1」または「2」と答えられた方におたずねします。》

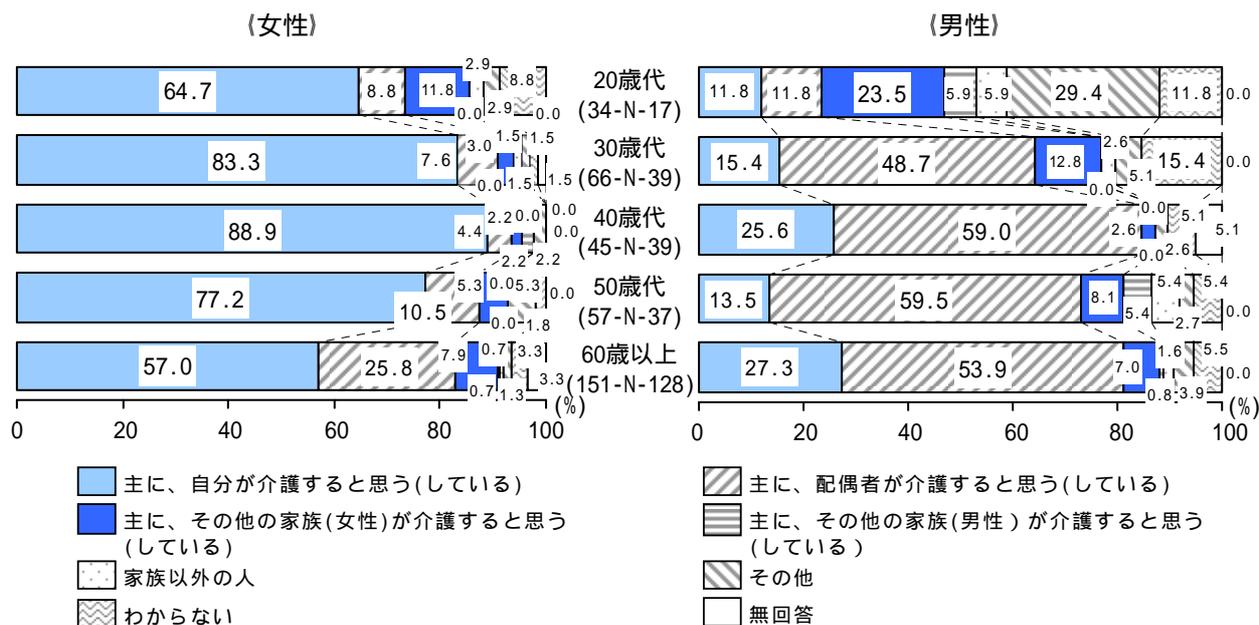
問16-1 自宅で介護する場合、主に誰が介護することになると思いますか。( は1つ)

【図5 - 2 自宅で介護をする場合の主担当者】



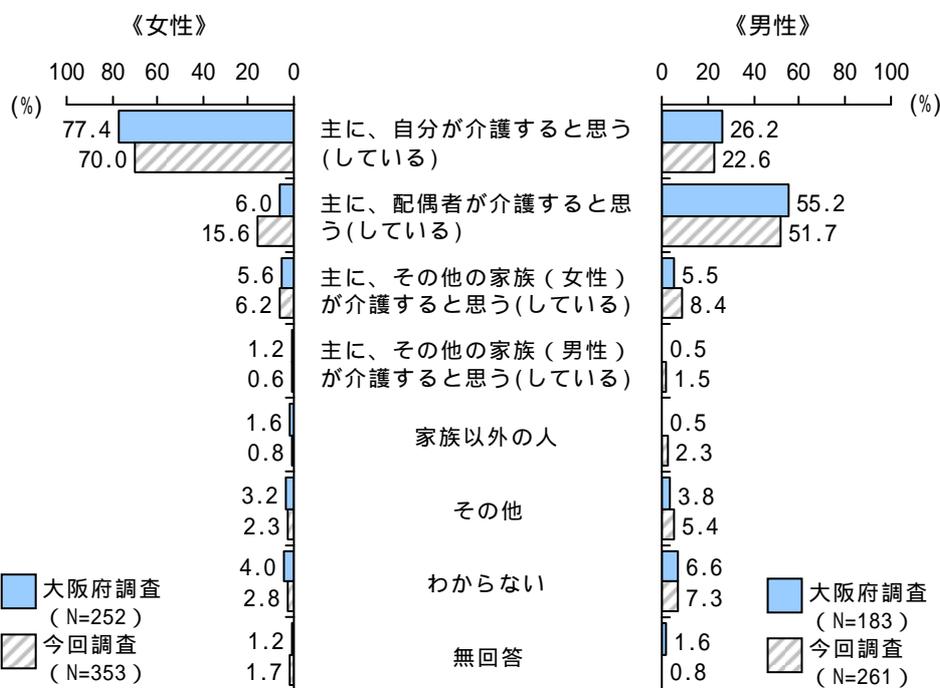
自宅で介護をする場合の主担当者は、女性は「主に、自分が介護すると思う(している)」が70.0%と高く、男性は「主に、配偶者が介護すると思う(している)」が51.7%となっている。女性で「主に、配偶者が介護すると思う(している)」が15.6%であるのに対して、男性では「主に、自分が介護すると思う(している)」が22.6%となっている。(図5 - 2)

【年代別 自宅で介護をする場合の主担当者】



年代別にみると、女性では「主に、自分が介護すると思う(している)」が30歳代、40歳代で8割台となっている。男性では「主に、配偶者が介護すると思う(している)」が40歳代以上の年代で5割台となっている。

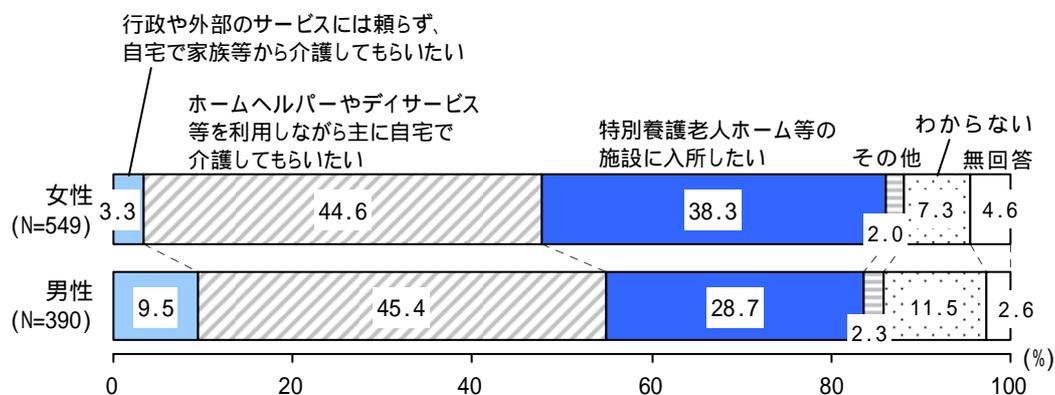
【大阪府との比較 自宅で介護をする場合の主担当者】



大阪府調査との比較をみると、「主に、配偶者が介護すると思う(している)」は女性で高槻市の方が9.6ポイント高くなっている。

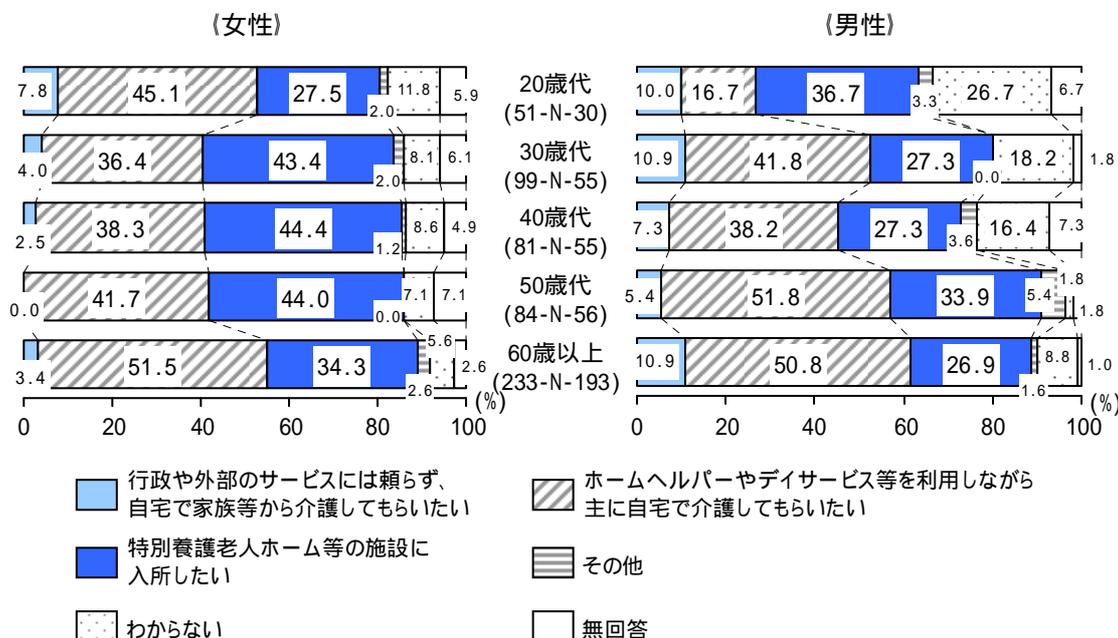
問17 もし、あなた自身が介護を要する状態になった場合、どのようにしてほしいと思いますか。( は1つ)

【図5-3 希望する自身の介護形態】



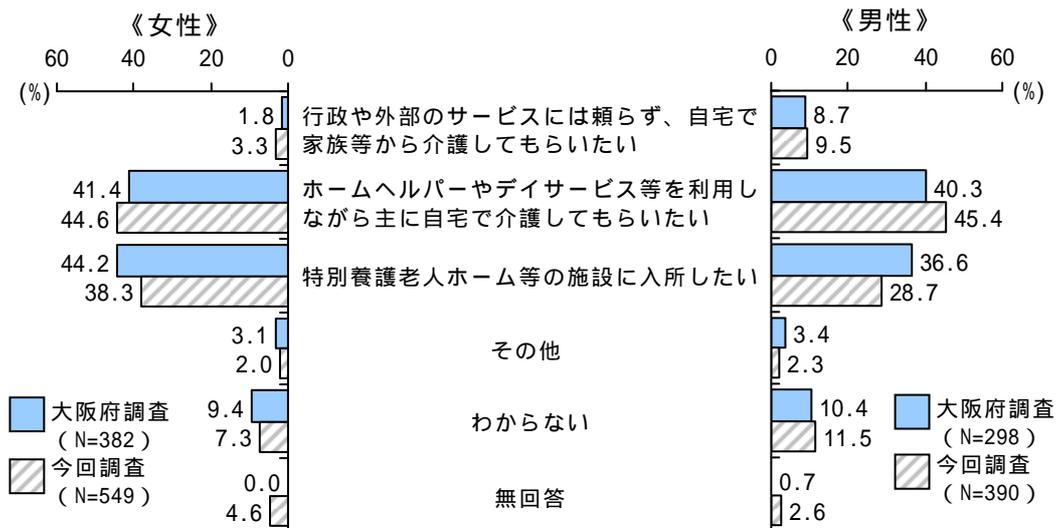
希望する自身の介護形態については、男女ともに「ホームヘルパーやデイサービス等を利用しながら主に自宅で介護してもらいたい」が最も高く、女性で44.6%、男性で45.4%となっている。「特別養護老人ホーム等の施設に入所したい」は女性が38.3%、男性が28.7%と女性の方が9.6ポイント高くなっている。(図5-3)

【年代別 希望する自身の介護形態】



年代別にみると、「ホームヘルパーやデイサービス等を利用しながら主に自宅で介護してもらいたい」は、女性では60歳以上で高く、男性では50歳代以上の年代で5割台となっている。「特別養護老人ホーム等の施設に入所したい」は女性の30~50歳代で4割台となっている。

【大阪府との比較 希望する自身の介護形態】

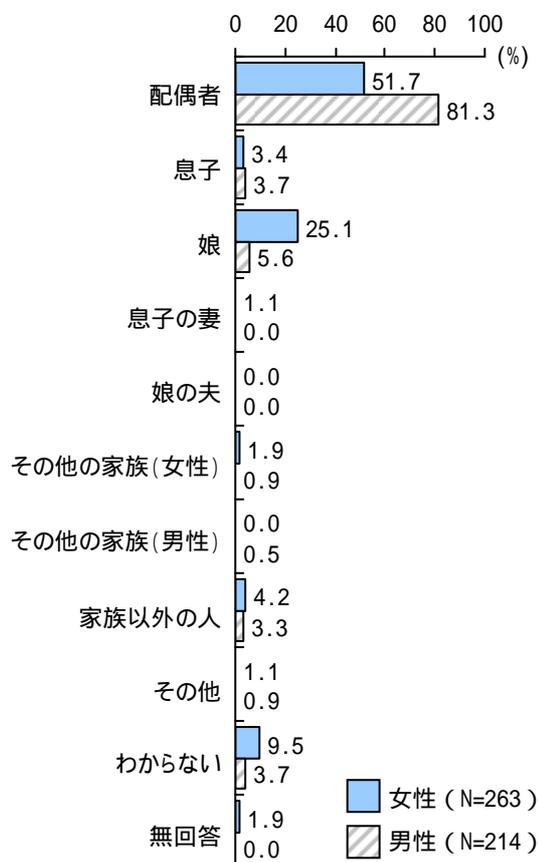


大阪府調査との比較をみると、「特別養護老人ホーム等の施設に入所したい」は男性で高槻市の方が低くなっている。

《問17で「1」または「2」と答えられた方におたずねします。》

問17-1 自宅で介護される場合、主に誰に介護してもらいたいと思いますか。( は1つ)

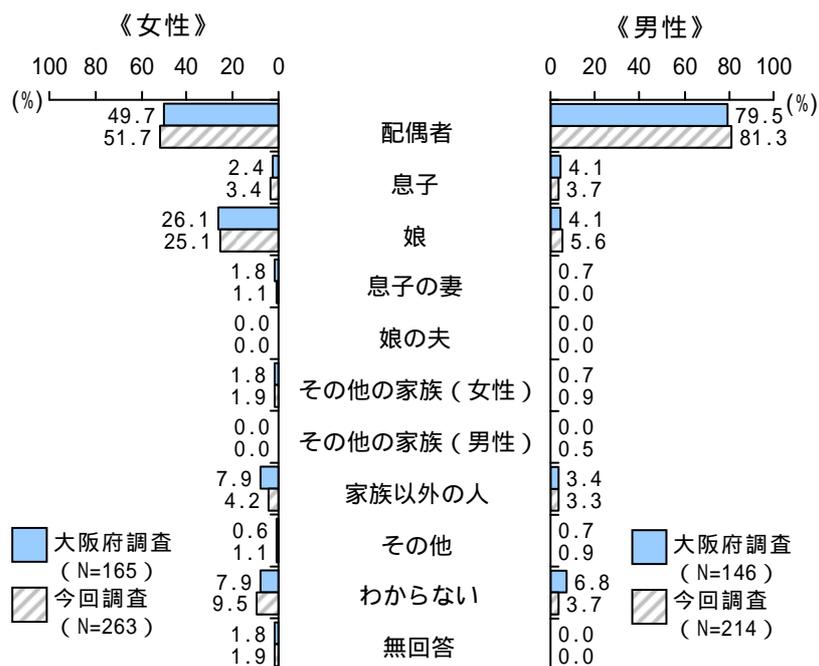
【図5 - 4 希望する自身の介護者】



希望する自身の介護者は、男女ともに「配偶者」が最も高く、女性で51.7%、男性で81.3%と男性の方が29.6ポイント高くなっている。次いで、女性では「娘」が25.1%となっている。

(図5 - 4)

【大阪府との比較 希望する自身の介護者】

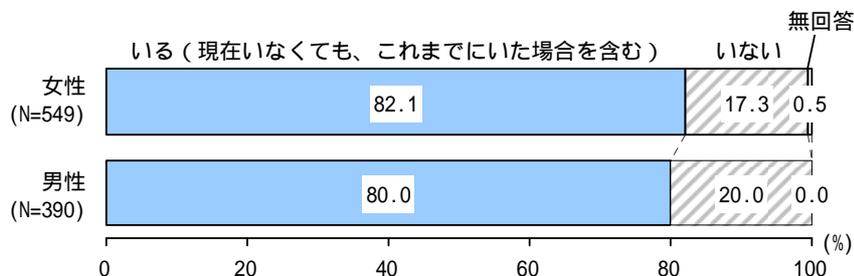


大阪府調査と比較してみると、高槻市の結果はほぼ同じような傾向になっている。

## 6. 男女の人権について

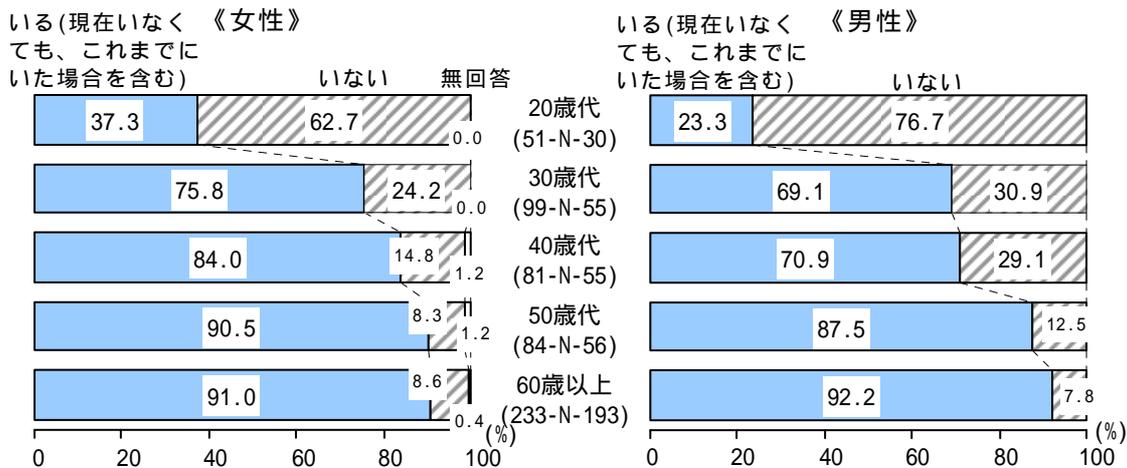
問18 あなたは、現在、配偶者（事実婚・別居中を含む）やパートナーがいますか。  
（ は1つ）

【図6 - 1 配偶者・パートナーの有無】



配偶者・パートナーの有無については、「いる（現在いなくても、これまでにいた場合を含む）」が女性で82.1%、男性で80.0%となっている。（図6 - 1）

【年代別 配偶者・パートナーの有無】

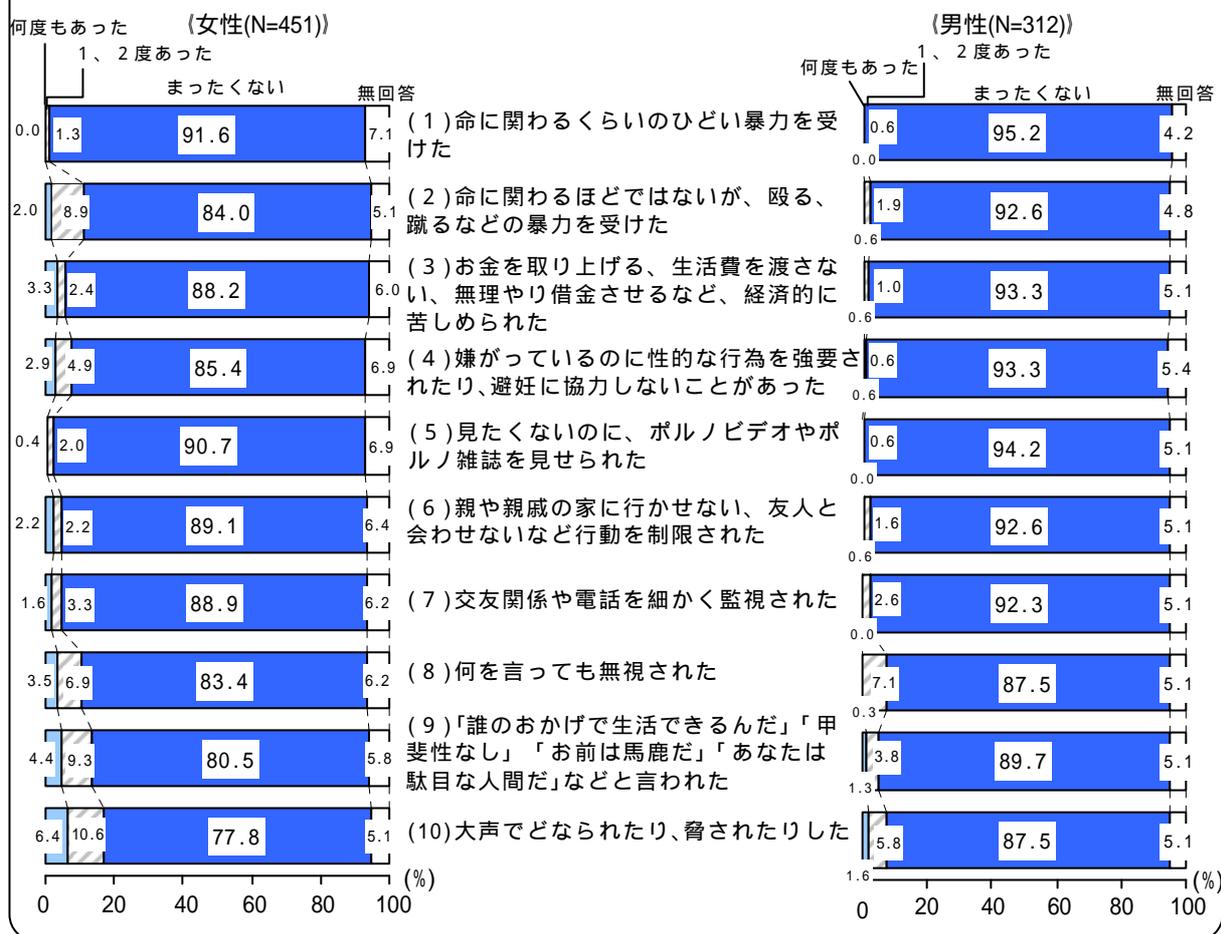


年代別にみると、男女ともに「いる（現在いなくても、これまでにいた場合を含む）」は年代が上がるほど割合は高くなっている。

《問18で「1」と答えられた方におたずねします。》

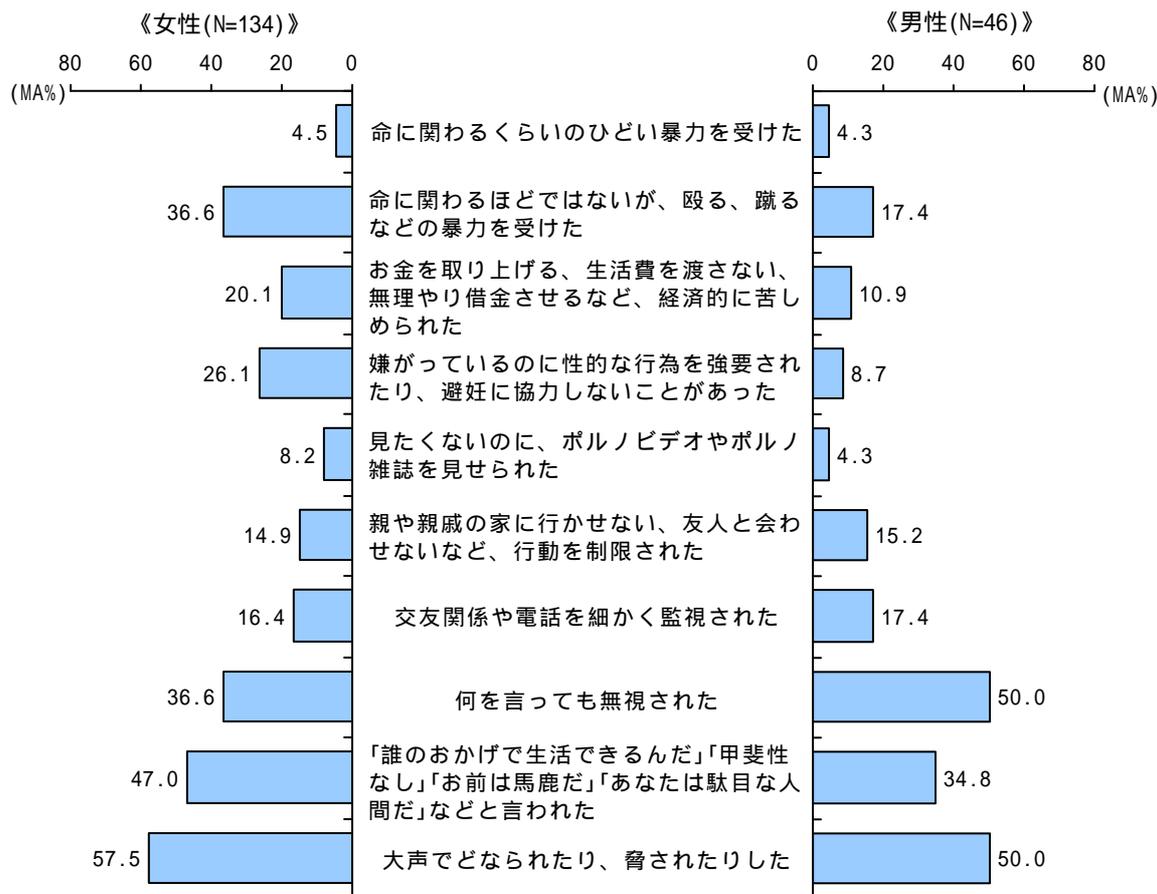
問18-1 あなたはこれまでに、配偶者（事実婚・別居中を含む）やパートナーから次のようなことをされたことがありますか。（各項目に は1つ）

【図6-2 配偶者やパートナーからの暴力の有無】



配偶者・パートナーからの暴力の有無については、全項目で「まったくくない」が7割以上を占めている。女性では、暴力が『あった』（「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせたもの）という人が、「(10) 大声でどなられたり、脅されたりした」で17.0%、「(9) 「誰のおかげで生活できるんだ」「甲斐性なし」「お前は馬鹿だ」「あなたは駄目な人間だ」などと言われた」で13.7%、「(8) 何を言っても無視された」で10.4%と、1割台となっている。また、男性でも「(8) 何を言っても無視された」「(10) 大声でどなられたり、脅されたりした」がともに7.4%、「(9) 「誰のおかげで生活できるんだ」「甲斐性なし」「お前は馬鹿だ」「あなたは駄目な人間だ」などと言われた」が5.1%と、他の項目に比べて高くなっている。(図6-2)

## 【受けた経験のあるドメスティック・バイオレンス】

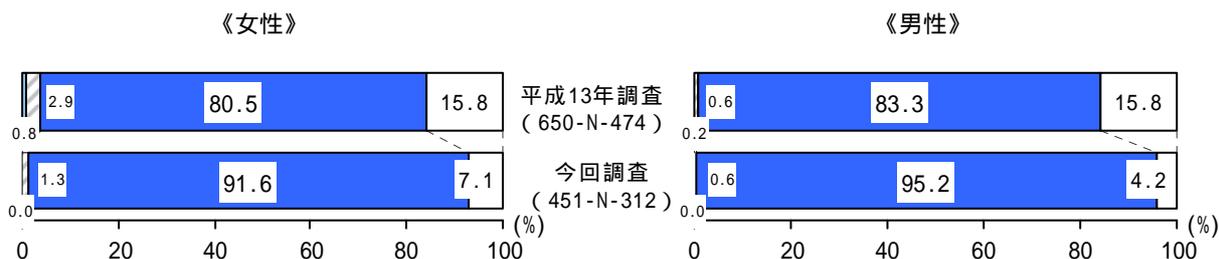


何らかのDVを受けた経験があった（「何度もあった」または「1、2度あった」）と回答した人の被害内容の内訳。

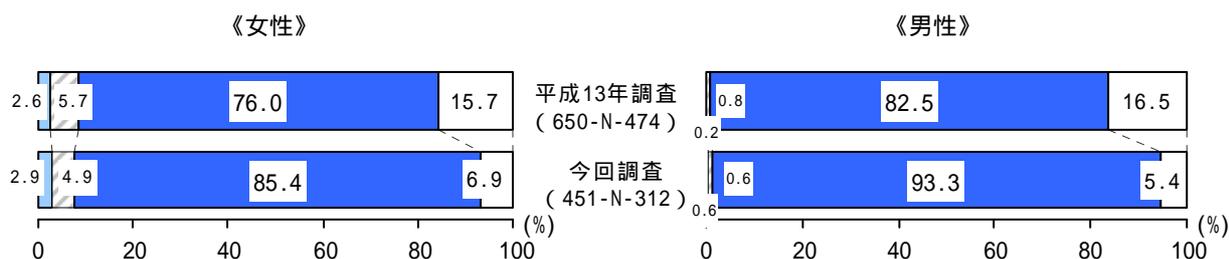
受けた経験のあるドメスティック・バイオレンスの内訳は、女性では「大声でどなられたり、脅されたりした」が57.5%、「誰のおかげで生活できるんだ」「甲斐性なし」「お前は馬鹿だ」「あなたは駄目な人間だ」などと言われた」が47.0%となっている。男性では「何を言っても無視された」、「大声でどなられたり、脅されたりした」が同率の50.0%となっている。

【経年比較 配偶者やパートナーからの暴力の有無】

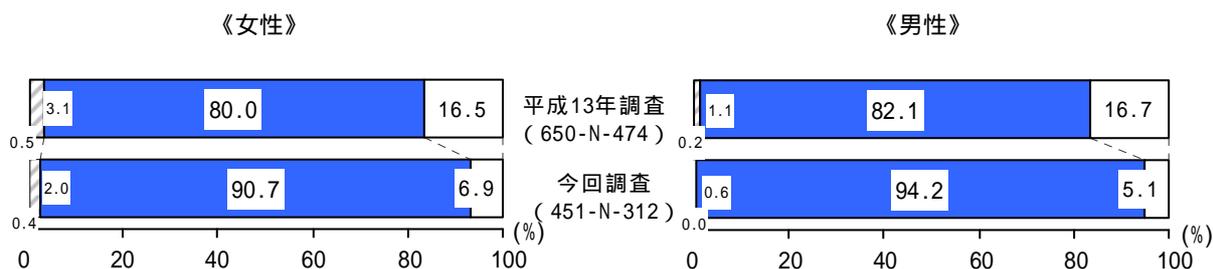
(1) 命に関わるくらいひどい暴力を受けた



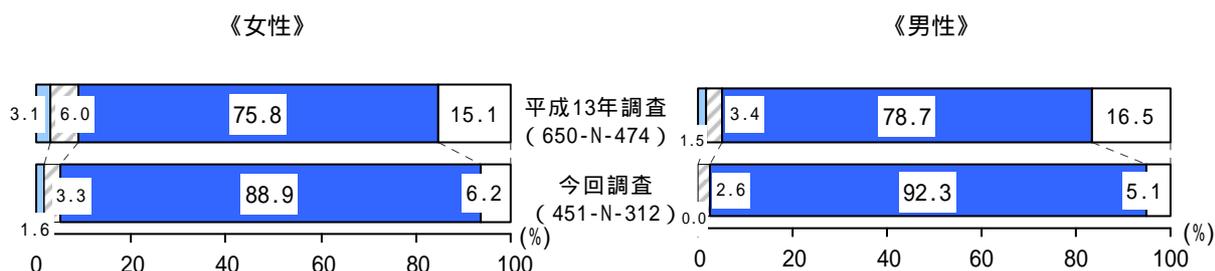
(4) 嫌がっているのに性的な行為を強要されたり、避妊に協力しないことがあった



(5) 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた

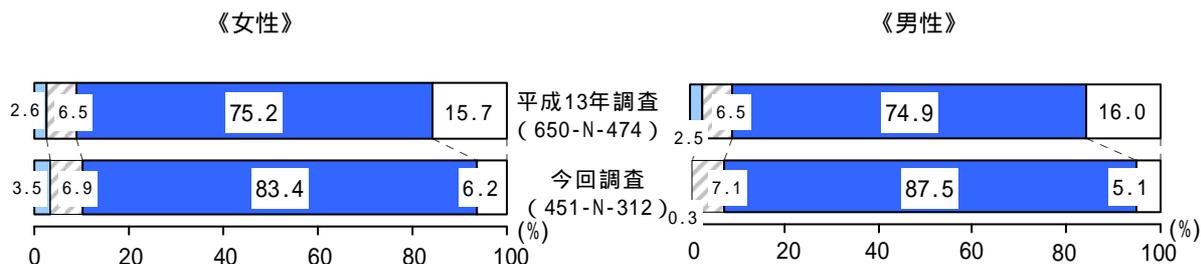


(7) 交友関係や電話を細かく監視された

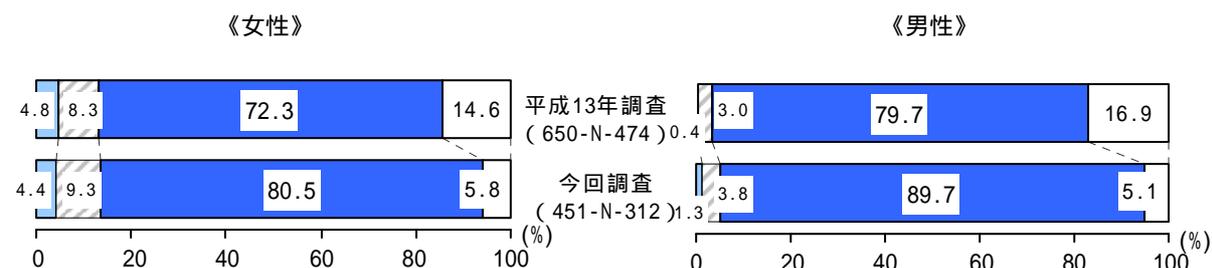


何度もあった
  1、2度あった
  まったくない
  無回答

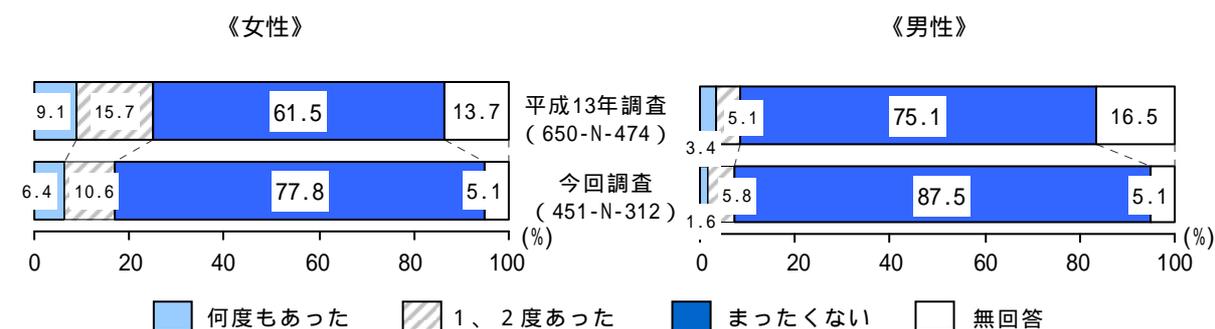
(8) 何を言っても無視された



(9) 「誰のおかげで生活できるんだ」「甲斐性なし」「お前は馬鹿だ」「あなたは駄目な人間だ」などと言われた



(10) 大声でどなられたり、脅されたりした



「(2)命に関わるほどではないが、殴る、蹴るなどの暴力を受けた」は前回調査では「医師の治療が必要となる程度の暴力」、「医師の治療が必要とならない程度の暴力」と設定されている。

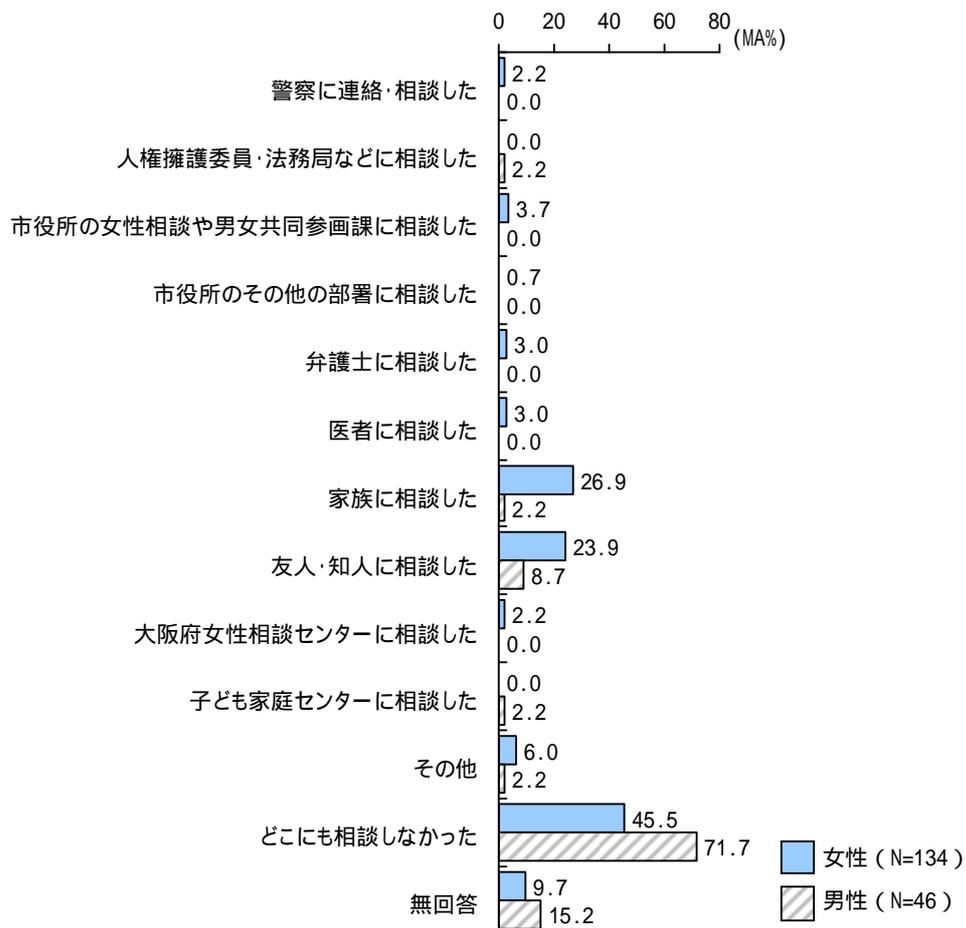
「(3)お金を取り上げる、生活費を渡さない、無理やり借金をさせるなど、経済的に苦しめられた」、「(6)親や親戚の家に行かせない、友人と会わせないなど、行動を制限された」は前回調査では設定されていない。

経年比較をみると、暴力が『あった』という人は減少している項目が多く、女性では「(10)大声でどなられたり、脅されたりした」で7.8ポイント、「(7)交友関係や電話を細かく監視された」で4.2ポイント減少している。

《問18-1で「何度もあった」、「1、2度あった」に1つでも をつけられた方におたずね  
 します。》

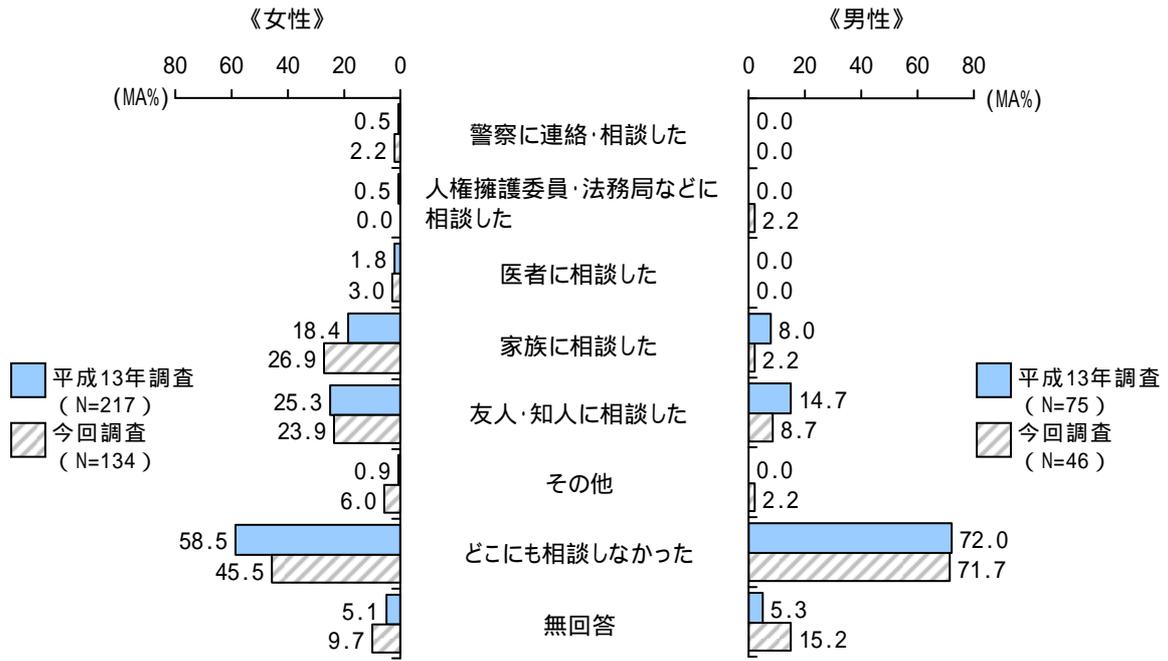
問18-2 あなたは、そのことを誰かにうちあけたり、相談したりしましたか。( はいく  
 つでも )

【図6-3 配偶者やパートナーからの暴力の相談相手】



配偶者やパートナーからの暴力の相談相手は、女性で「家族に相談した」が 26.9%、「友人・知人に相談した」が 23.9%となっている。「どこにも相談しなかった」は女性で 45.5%、男性で 71.7%と高く、男性の方が 26.2 ポイント高くなっている。(図6-3)

【経年比較 配偶者やパートナーからの暴力の相談相手】

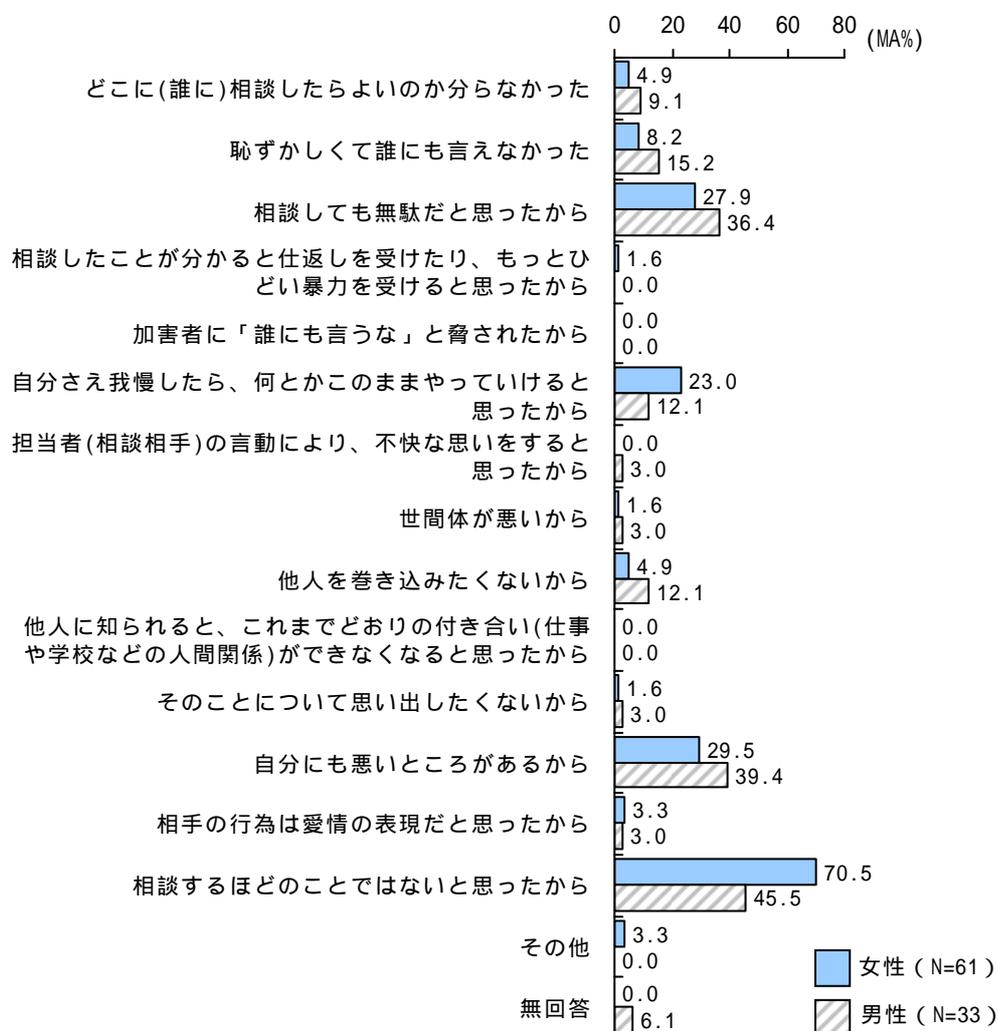


経年比較をみると、女性では「どこにも相談しなかった」が13.0ポイント減少している。

《問18-2で「12.どこにも相談しなかった」と答えられた方におたずねします。》

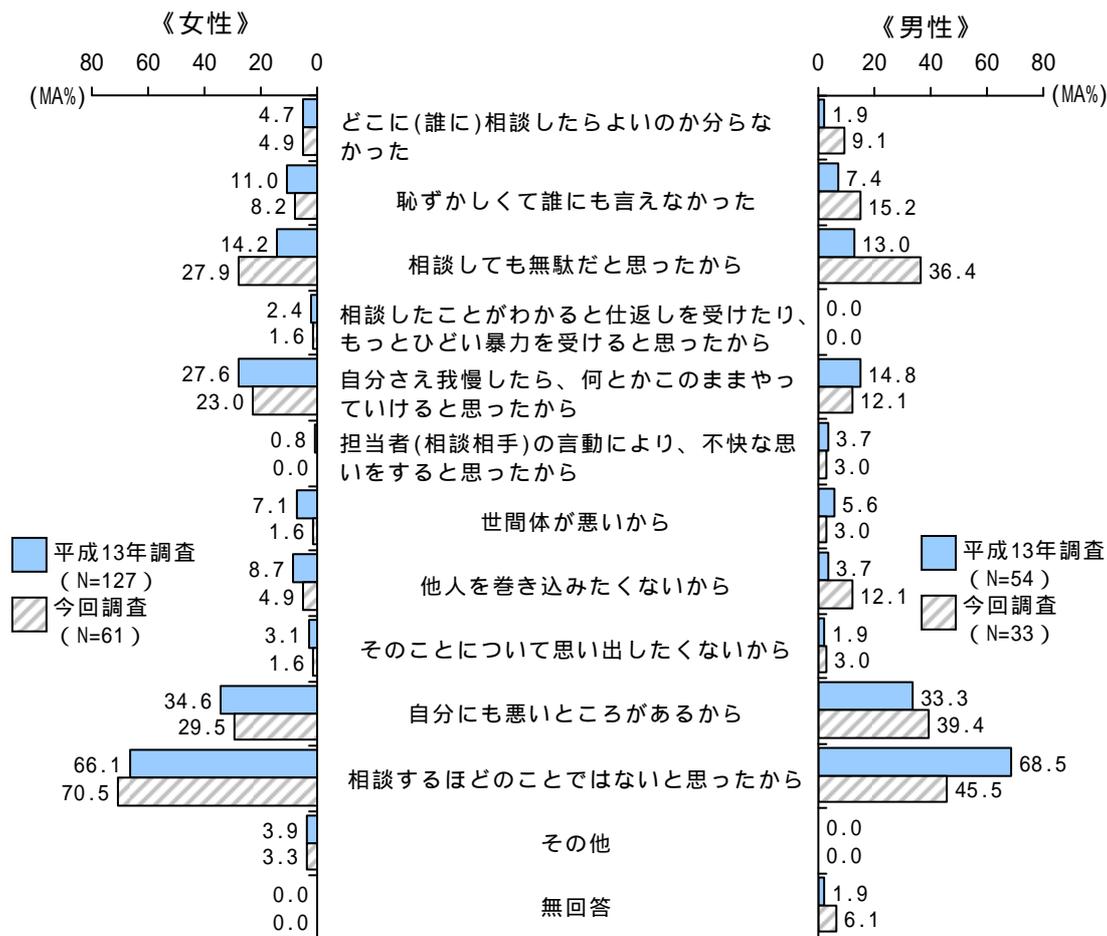
問18-3 相談しなかったのはなぜですか。(はいいくつでも)

【図6-4 配偶者やパートナーからの暴力を相談しなかった理由】



配偶者やパートナーからの暴力を相談しなかった理由は、男女ともに「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高く、女性で70.5%、男性で45.5%となっている。次いで、「自分にも悪いところがあるから」が女性で29.5%、男性で39.4%、「相談しても無駄だと思ったから」が女性で27.9%、男性で36.4%と高くなっている。(図6-4)

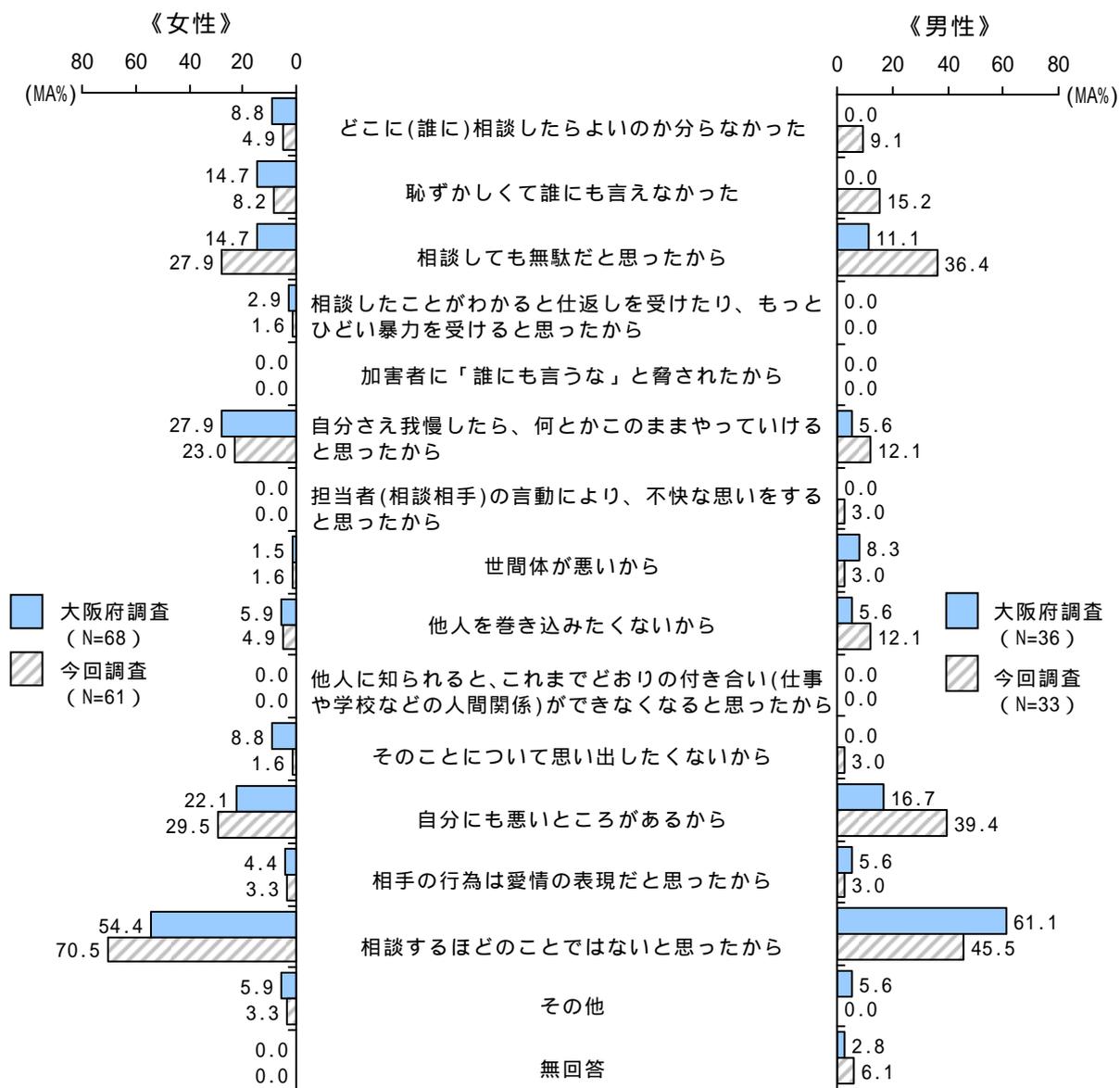
【経年比較 配偶者やパートナーからの暴力を相談しなかった理由】



「加害者に「誰にも言うな」と脅されたから」、「他人に知られると、これまでどおりの付き合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから」、「相手の行為は愛情の表現だと思ったから」は前回調査では設定されていない。

経年比較をみると、「相談しても無駄だと思ったから」は男女ともに増加しており、女性で 13.7 ポイント、男性で 23.4 ポイント増加している。「相談するほどのことではないと思ったから」は男性で 23.0 ポイントの減少となっている。

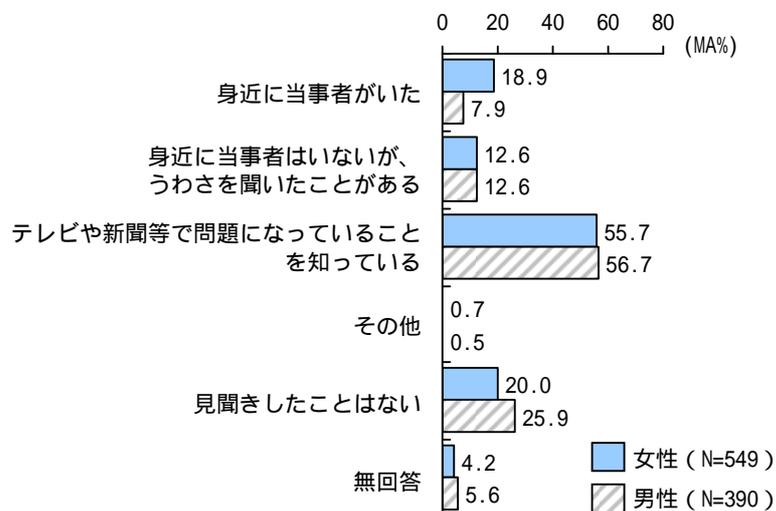
【大阪府との比較 配偶者やパートナーからの暴力を相談しなかった理由】



大阪府調査との比較をみると、男性では「相談しても無駄だと思ったから」が25.3ポイント、「自分にも悪いところがあるから」が22.7ポイント、高槻市の方が高くなっている。

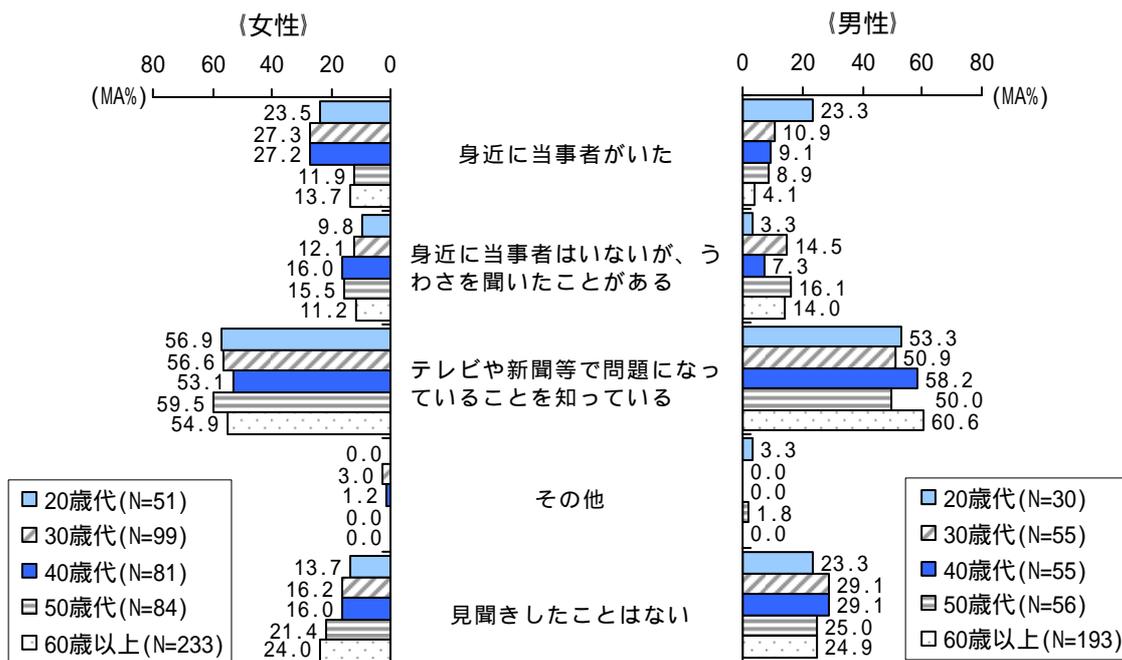
問19 あなたは、ご自分以外で、問18-1のようなことを身近で見聞きしたことがありますか。(はいいくつでも)

【図6 - 5 配偶者やパートナーからの暴力を身近で見聞きしたことの有無】



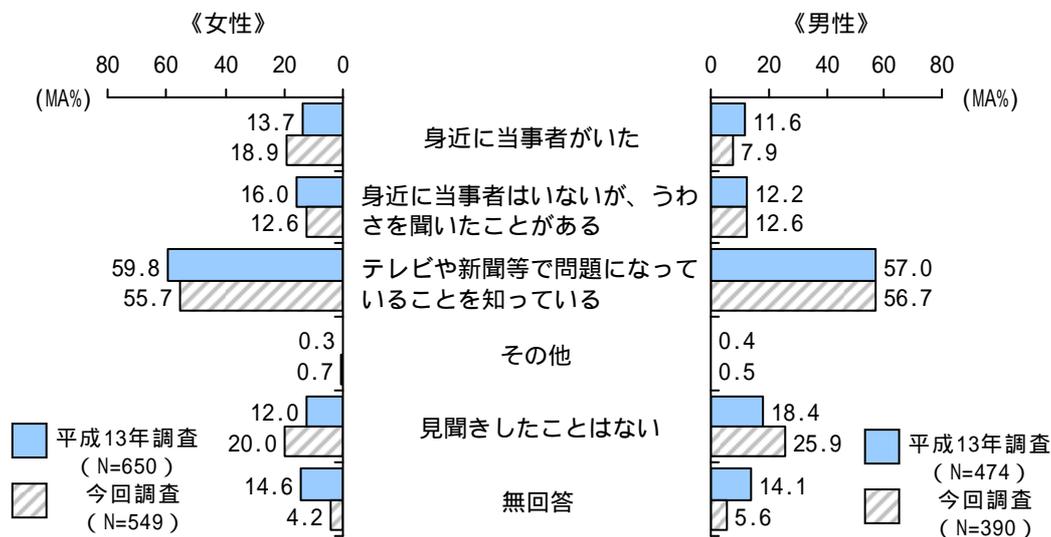
配偶者やパートナーからの暴力を身近で見聞きしたことの有無については、「テレビや新聞等で問題になっていることを知っている」が女性で 55.7%、男性で 56.7%となっており、男女ともに半数以上となっている。また、「見聞きしたことはない」は女性が 20.0%、男性が 25.9%となっている。(図6 - 5)

【年代別 配偶者やパートナーからの暴力を身近で見聞きしたことの有無】



年代別にみると、「テレビや新聞等で問題になっていることを知っている」は女性では全年代で5割と大きな差はみられない。「身近に当事者がいた」では、女性は50歳以上の年代で低く、男性は60歳以上で低くなっている。

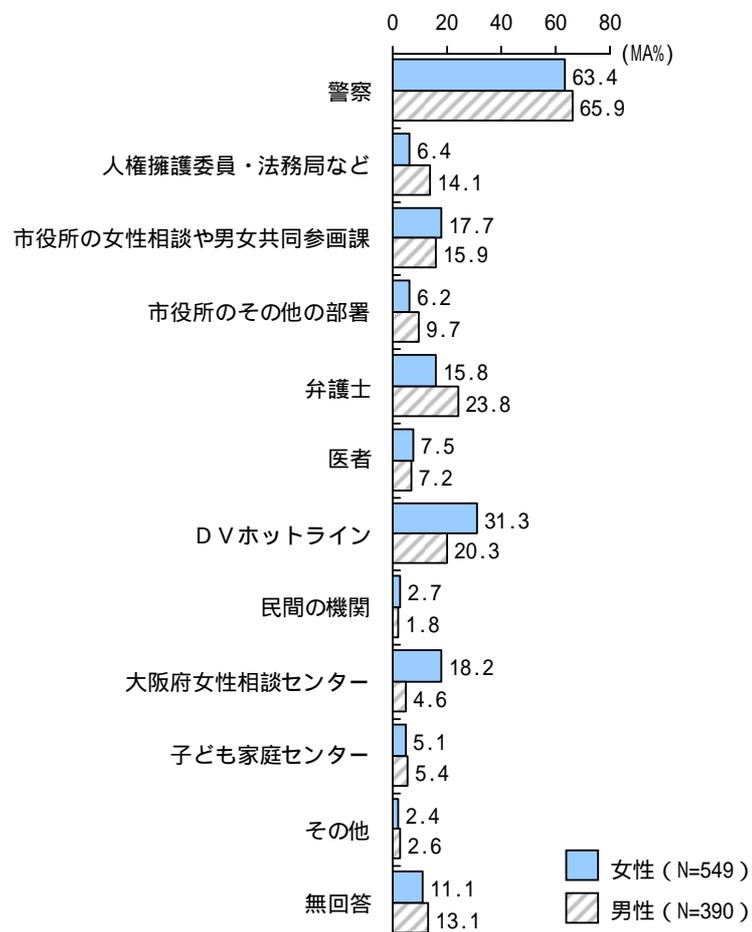
【経年比較 配偶者やパートナーからの暴力を身近で見聞きしたことの有無】



経年比較をみると、「見聞きしたことはない」は男女とも増加しており、女性で8.0ポイント、男性で7.5ポイントの増加となっている。

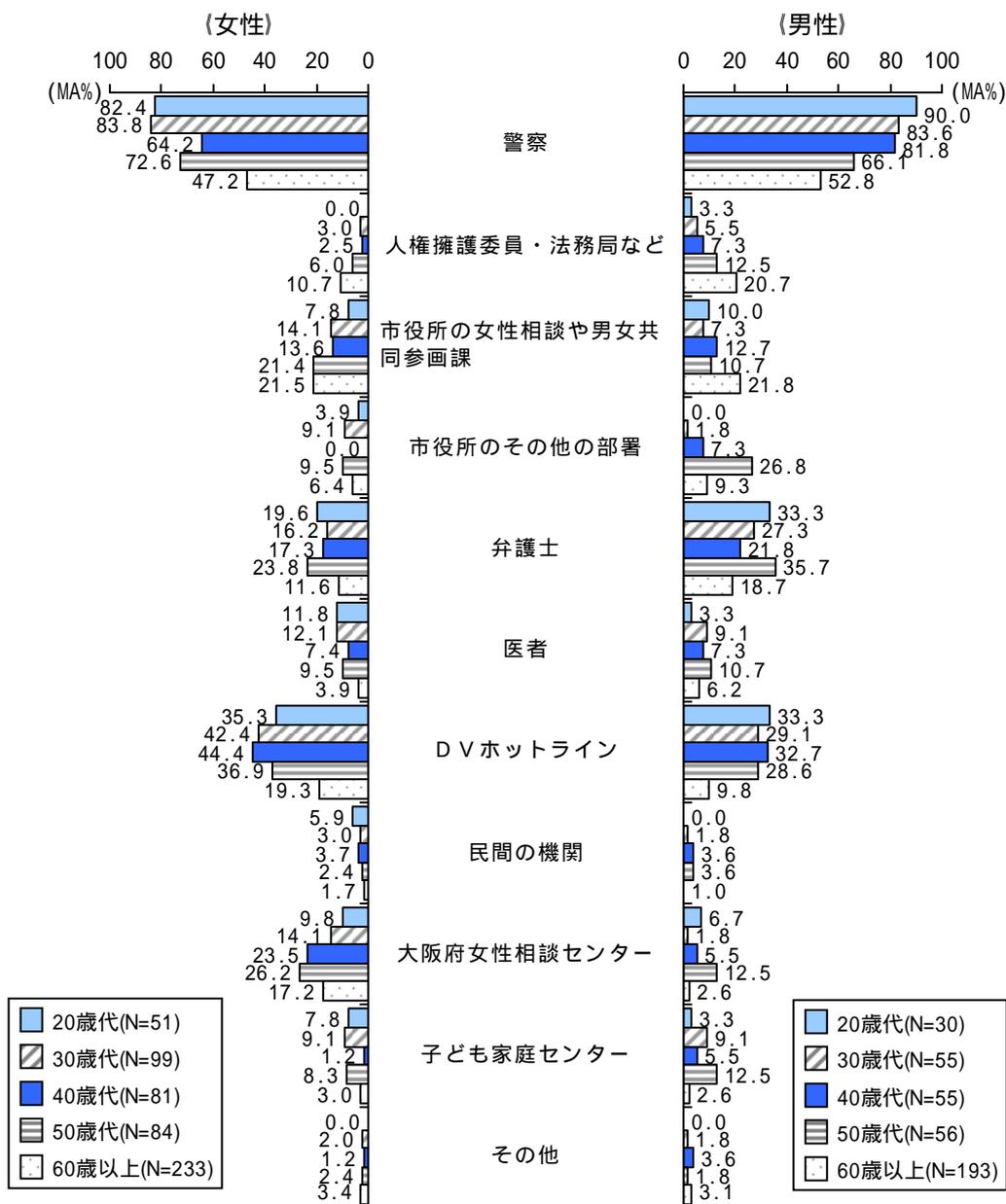
問20 あなたは、配偶者からの暴力を受けた場合の相談先として、どのような相談機関を知っていますか。

【図6 - 6 配偶者から暴力を受けた場合の相談機関で知っているもの】



配偶者からの暴力を受けた場合の相談機関で知っているものは、男女ともに「警察」が最も高く、女性で63.4%、男性で65.9%となっている。次いで、女性では「DVホットライン」が31.3%となっており、男性では「弁護士」が23.8%となっている。(図6 - 6)

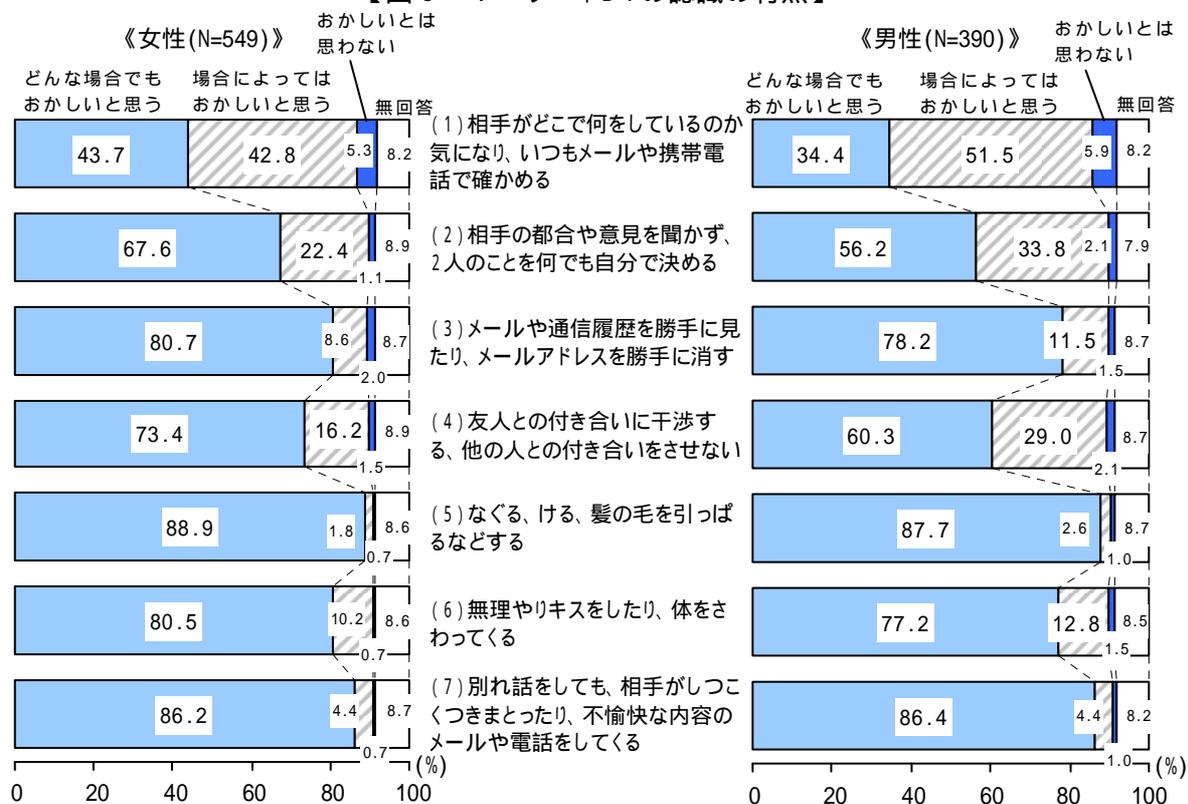
【年代別 配偶者から暴力を受けた場合の相談機関で知っているもの】



年代別にみると、「警察」は男女ともに若年層で高くなっている。

問21 あなたは、次の(1)～(7)のようなことが結婚していない交際中の男女間において行われた場合、どのように思われますか。(各項目に は1つ)

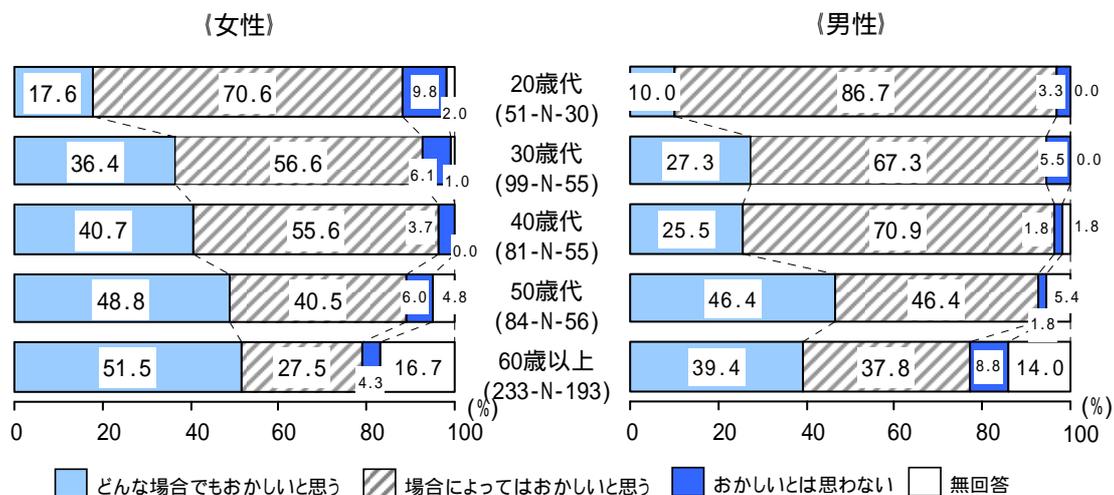
【図6-7 デートDVの認識の有無】



デートDVの認識の有無については、男女ともに「どんな場合でもおかしと思う」はほとんどの項目で6割以上を占めているが、「(1)相手がどこで何をしているのか気になり、いつもメールや携帯電話で確かめる」では女性が43.7%、男性が34.4%と他の項目と比べ、低くなっている。「どんな場合でもおかしと思う」は、「(4)友人との付き合いに干渉する、他の人との付き合いをさせない」で13.1ポイント、「(2)相手の都合や意見を聞かず、2人のことを何でも自分で決める」で11.4ポイント、女性の方が高くなっている。(図6-7)

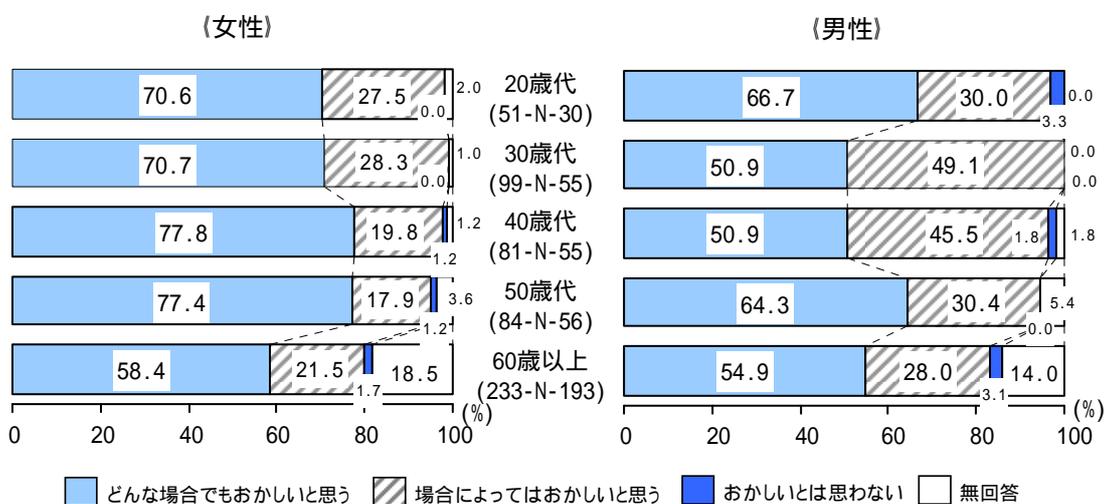
【年代別 デートDVの認識の有無】

(1) 相手がどこで何をしているのか気になり、いつもメールや携帯電話で確かめる



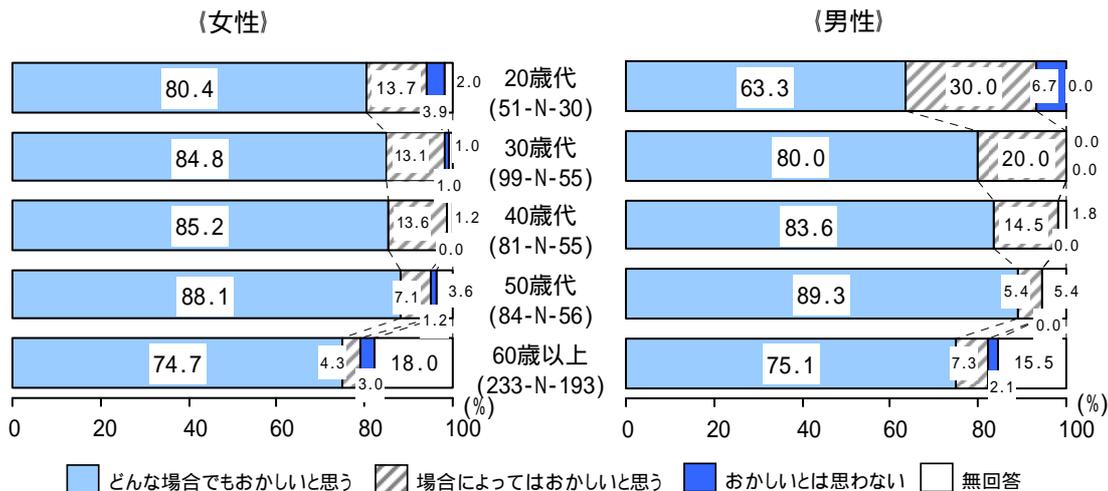
「どんな場合でもおかしいと思う」は男女ともに、若年層で低く、20歳代では女性で17.6%、男性で10.0%と1割台となっている。

(2) 相手の都合や意見を聞かず、2人のことを何でも自分で決める



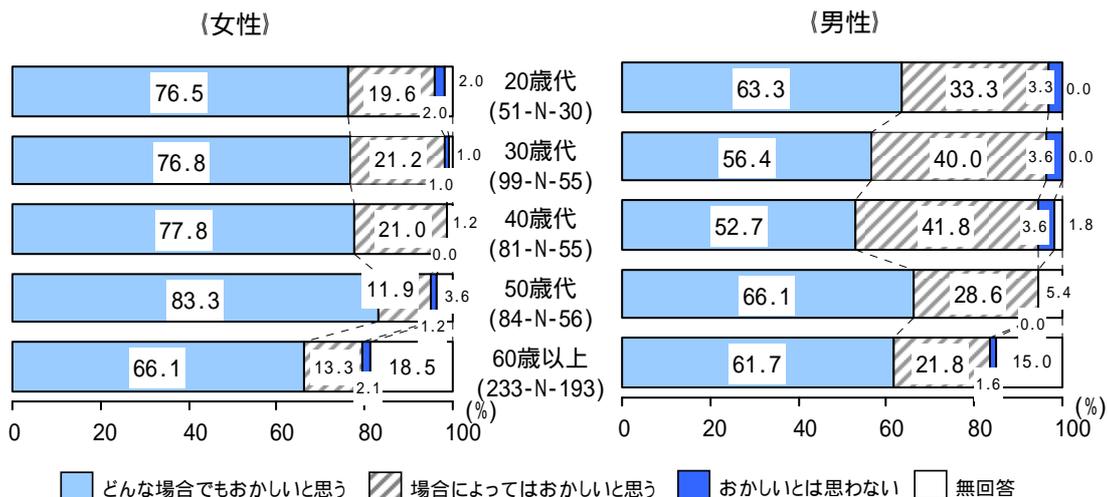
「どんな場合でもおかしいと思う」は女性では60歳以上を除く年代で7割と高くなっている。

(3) メールや通信履歴を勝手に見たり、メールアドレスを勝手に消す



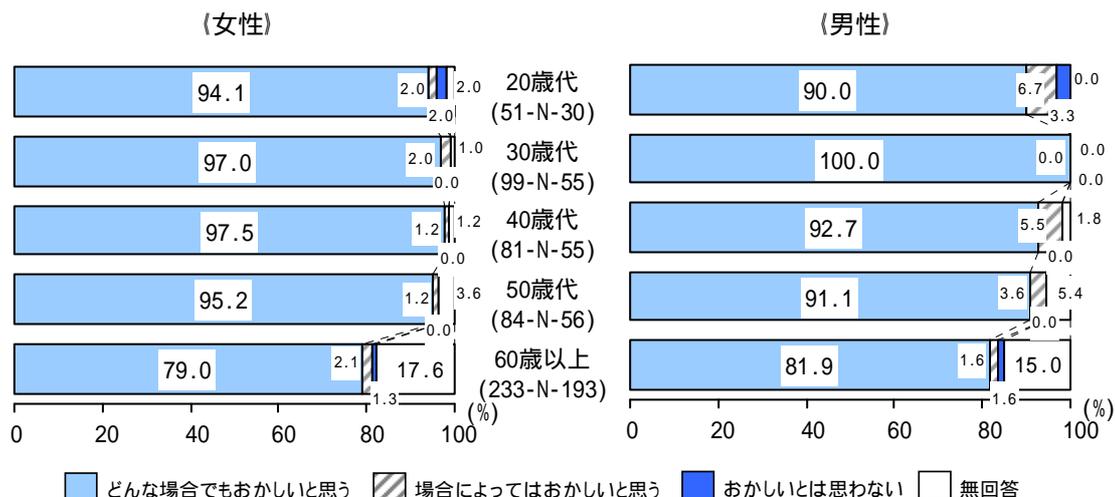
「どんな場合でもおかしいと思う」は男女ともに30～50歳代で8割を超えている。

(4) 友人との付き合いに干渉する、他の人との付き合いをさせない



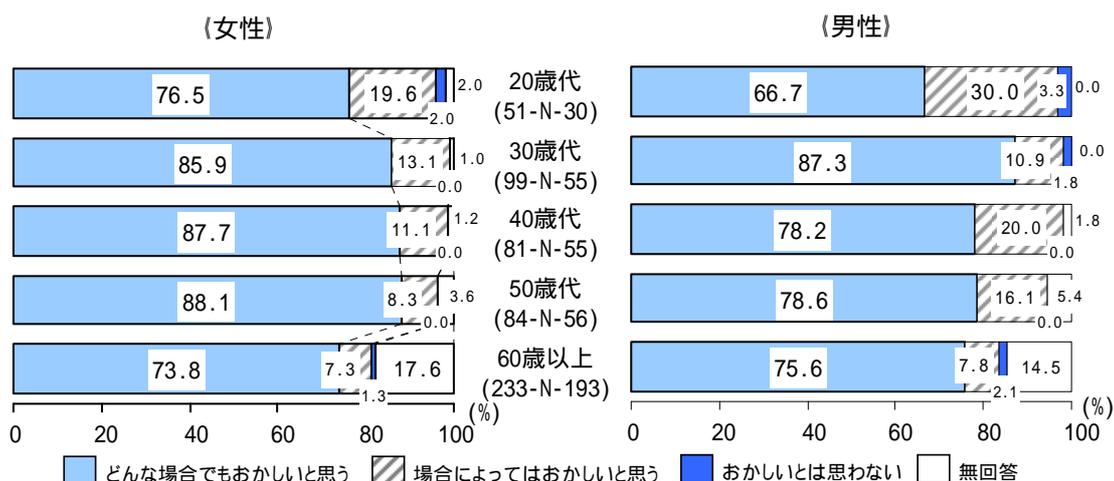
「どんな場合でもおかしいと思う」は男女ともに50歳代で若干高くなっている。

(5) なくる、ける、髪の毛を引っぱるなどする



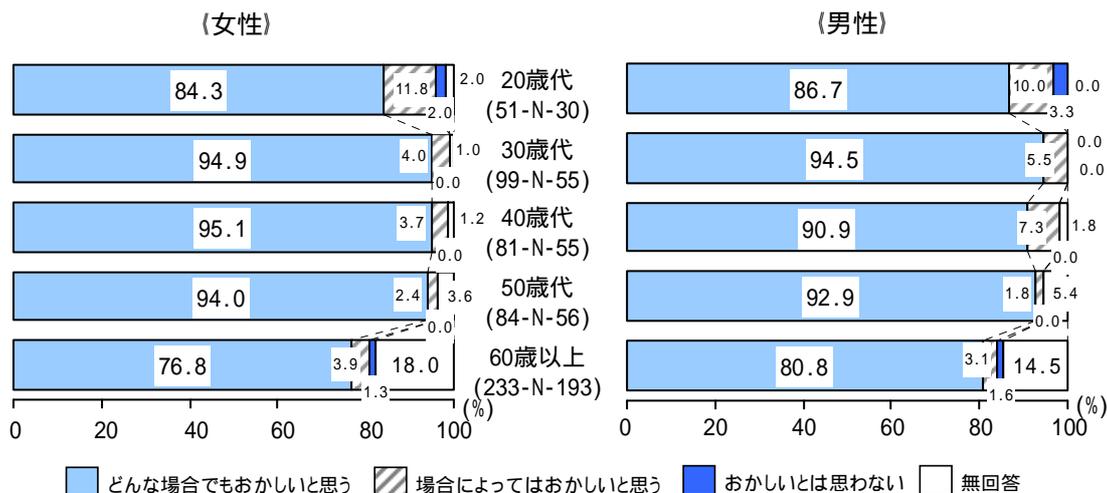
「どんな場合でもおかしいと思う」は60歳以上を除く年代で男女とも9割を超えている。

(6) 無理やりキスをしたり、体をさわってくる



「どんな場合でもおかしいと思う」は女性の30～50歳代で少し高くなっている。

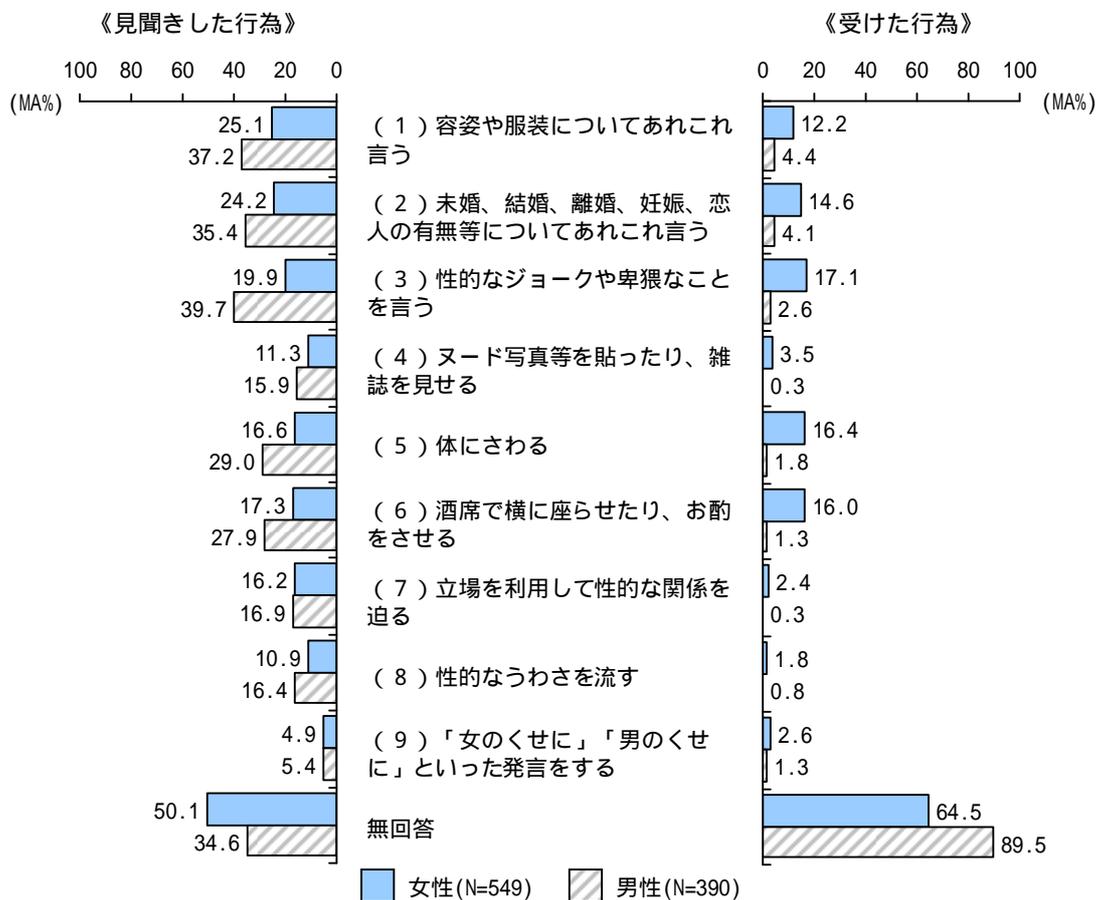
(7) 別れ話をしても、相手がしつこくつきまったり、不愉快な内容のメールや電話をしてくる



「どんな場合でもおかしいと思う」は男女ともに30～50歳代で9割以上と高くなっているが、60歳以上では若干低くなっている。

問22 あなたは、セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）を見たり聞いたり、あるいは自分自身が受けたことがありますか。（見聞きした行為、受けた行為それぞれについて、はいくつでも）

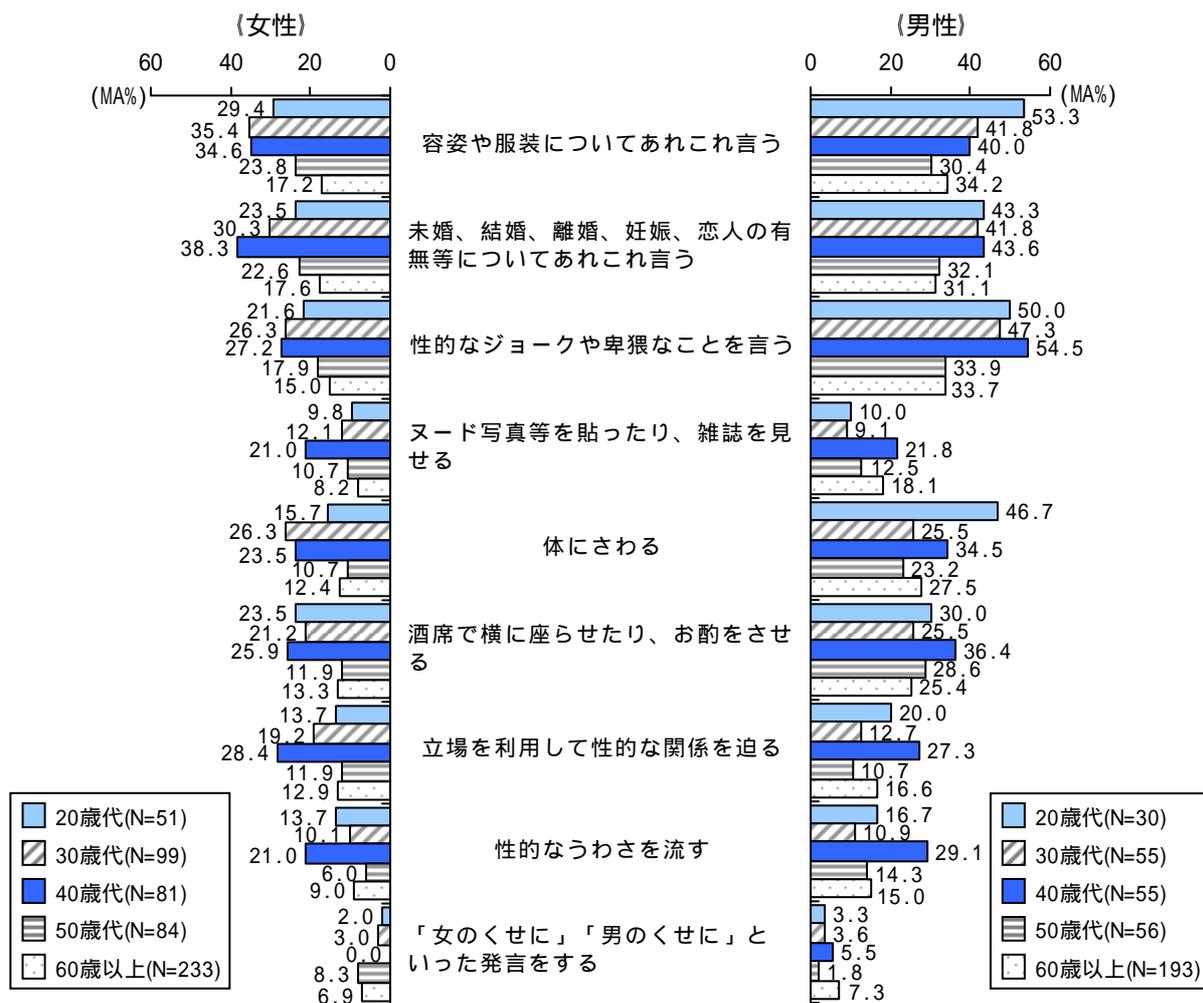
【図6 - 8 見たり聞いたりしたことがあるセクハラ行為、受けたことがあるセクハラ行為】



見たり聞いたりしたことがあるセクハラ行為は、女性では「(1)容姿や服装についてあれこれ言う」が25.1%、「(2)未婚、結婚、離婚、妊娠、恋人の有無等についてあれこれ言う」が24.2%と高くなっている。男性では「(3)性的なジョークや卑猥なことを言う」が39.7%、「(1)服装や容姿についてあれこれ言う」が37.2%、「(2)未婚、結婚、離婚、妊娠、恋人の有無等についてあれこれ言う」が35.4%と男性の方が高くなっている。

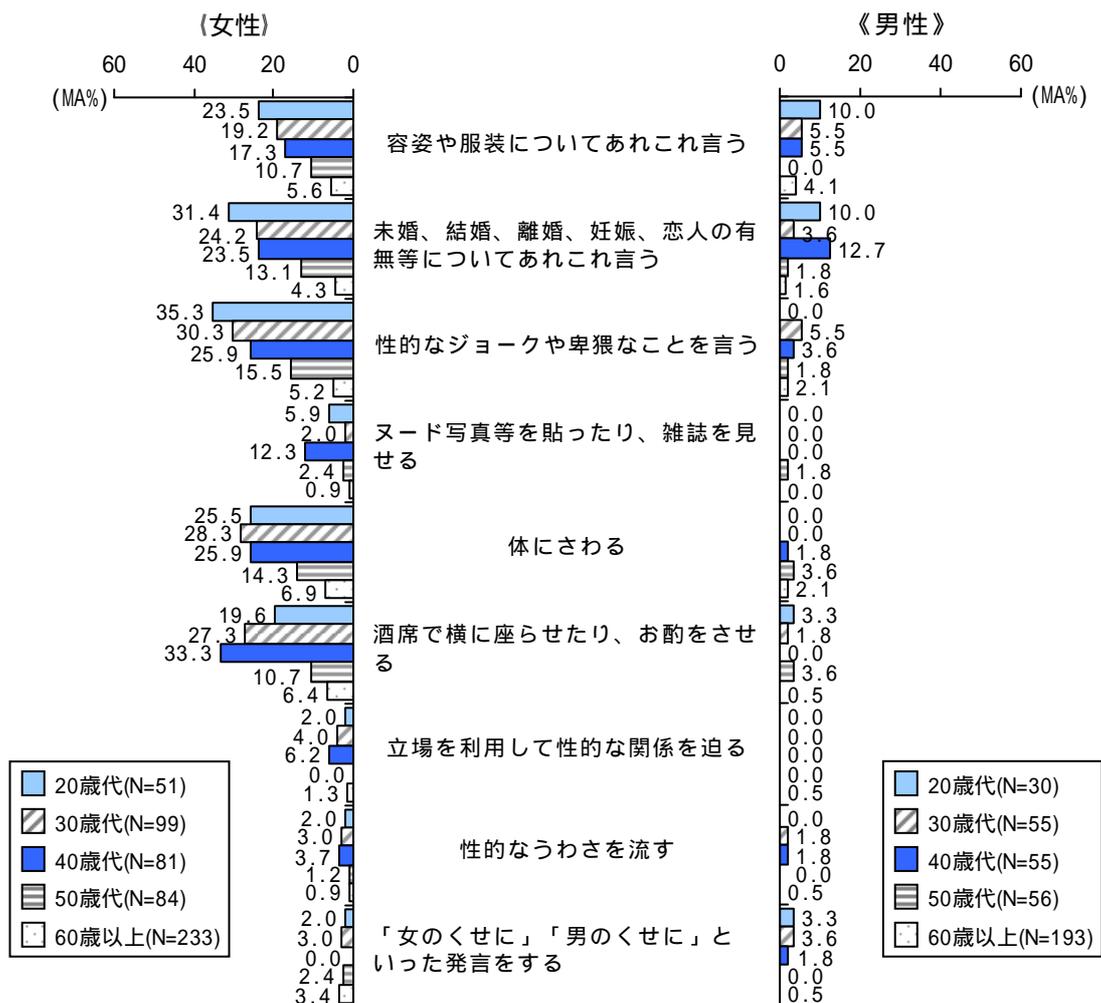
受けたことがあるセクハラ行為は、女性で「(3)性的なジョークや卑猥なことを言う」が17.1%、「(5)体にさわる」が16.4%、「(6)酒席で横に座らせたり、お酌をさせる」16.0%と高くなっている。(図6 - 8)

【年代別 見たり聞いたりしたことがあるセクハラ行為】



年代別にみると、女性では「未婚、結婚、離婚、妊娠、恋人の有無等についてあれこれ言う」は40歳代で高くなっている。男性では、「体にさわる」が20歳代で高くなっている。

【年代別 受けた事があるセクハラ行為】



年代別にみると、「容姿や服装についてあれこれ言う」、「未婚、結婚、離婚、妊娠、恋人の有無等についてあれこれ言う」、「性的なジョークや卑猥なことを言う」、「体にさわる」が女性の20～40歳代で若干高くなっている。

## 【職業別 見たり聞いたりしたことがあるセクハラ行為】

		(MA%)										
		N	容姿や服装についてあれこれ言う	未婚、結婚、離婚、妊娠、恋人の有無等についてあれこれ言う	性的なジョークや卑猥なことを言う	リード写真等を貼ったり、雑誌を見せる	体にさわる	酒席で横に座らせたり、お酌をさせる	立場を利用して性的な関係を迫る	性的なうわさを流す	「女のくせに」「男のくせに」といった発言をする	無回答
女性	勤め人(フルタイム)	112	29.5	29.5	21.4	12.5	19.6	22.3	18.8	15.2	3.6	42.0
	勤め人(パート・アルバイト)	95	28.4	26.3	21.1	14.7	17.9	17.9	24.2	9.5	7.4	41.1
	勤め人(契約・派遣社員)	11	27.3	18.2	36.4	18.2	9.1	9.1	18.2	18.2	0.0	63.6
	自営業・自由業(家族従業者を含む)	21	28.6	23.8	19.0	9.5	19.0	19.0	19.0	4.8	4.8	52.4
	主婦・主夫	198	22.7	24.7	19.2	12.1	17.7	16.7	13.6	12.1	4.0	55.1
	学生	8	12.5	0.0	25.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	50.0
	無職	91	22.0	20.9	15.4	5.5	12.1	13.2	8.8	4.4	7.7	56.0
	その他	10	30.0	0.0	30.0	10.0	10.0	20.0	40.0	30.0	0.0	40.0
男性	勤め人(フルタイム)	162	37.0	36.4	41.4	14.2	27.8	29.0	16.7	17.9	6.8	30.2
	勤め人(パート・アルバイト)	19	52.6	47.4	42.1	21.1	31.6	42.1	26.3	26.3	0.0	26.3
	勤め人(契約・派遣社員)	23	39.1	43.5	43.5	26.1	34.8	39.1	26.1	21.7	0.0	43.5
	自営業・自由業(家族従業者を含む)	33	39.4	42.4	45.5	12.1	30.3	18.2	6.1	9.1	6.1	33.3
	主婦・主夫	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	学生	8	12.5	12.5	37.5	0.0	25.0	37.5	0.0	12.5	12.5	50.0
	無職	130	35.4	31.5	37.7	19.2	30.0	25.4	19.2	14.6	4.6	37.7
	その他	12	41.7	33.3	25.0	0.0	25.0	16.7	8.3	16.7	8.3	41.7

職業別にみると、職業による特徴的な傾向はあまりみられない。

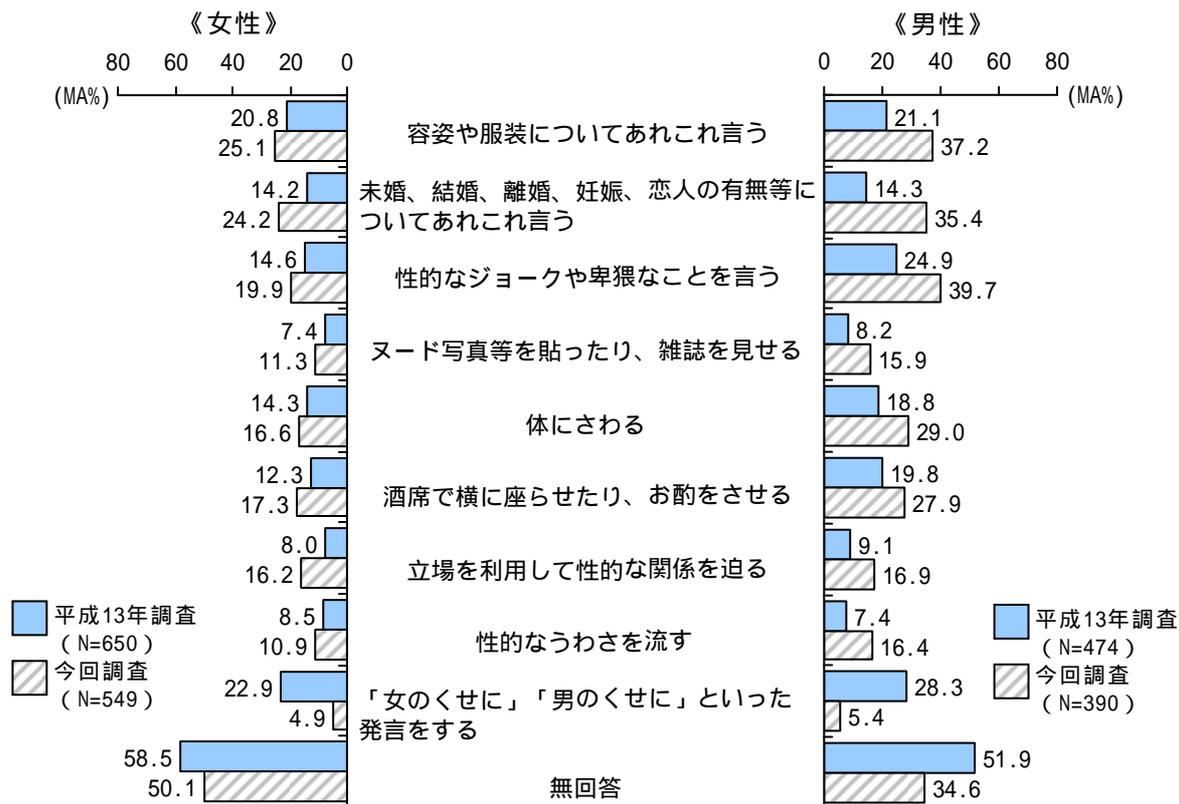
【職業別 受けたことがあるセクハラ行為】

(MA%)

	N	容姿や服装についてあれこれ言う	未婚、結婚、離婚、妊娠、恋人の有無等についてあれこれ言う	性的なジョークや卑猥なことを言う	リード写真等を貼ったり、雑誌を見せる	体にさわる	酒席で横に座らせたり、お酌をさせる	立場を利用して性的な関係を迫る	性的なうわさを流す	「女のくせに」といった発言をする	「男のくせに」といった発言をする	無回答
女性	勤め人 (フルタイム)	112	20.5	29.5	25.9	8.0	22.3	22.3	4.5	2.7	1.8	50.0
	勤め人 (パート・アルバイト)	95	15.8	13.7	25.3	6.3	25.3	23.2	2.1	3.2	5.3	55.8
	勤め人 (契約・派遣社員)	11	18.2	36.4	27.3	0.0	27.3	27.3	0.0	9.1	0.0	54.5
	自営業・自由業 (家族従業者を含む)	21	0.0	9.5	9.5	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	4.8	71.4
	主婦・主夫	198	9.1	9.1	12.1	1.0	13.1	14.6	1.5	0.0	1.5	71.2
	学生	8	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	62.5
	無職	91	6.6	8.8	11.0	2.2	7.7	5.5	3.3	3.3	2.2	76.9
	その他	10	20.0	20.0	10.0	0.0	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0	50.0
男性	勤め人 (フルタイム)	162	3.7	6.8	3.7	0.6	1.9	2.5	0.0	1.2	1.2	86.4
	勤め人 (パート・アルバイト)	19	15.8	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	5.3	73.7
	勤め人 (契約・派遣社員)	23	8.7	8.7	4.3	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	91.3
	自営業・自由業 (家族従業者を含む)	33	6.1	3.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	87.9
	主婦・主夫	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	学生	8	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0
	無職	130	2.3	0.8	1.5	0.0	1.5	0.8	0.8	0.8	0.8	95.4
	その他	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

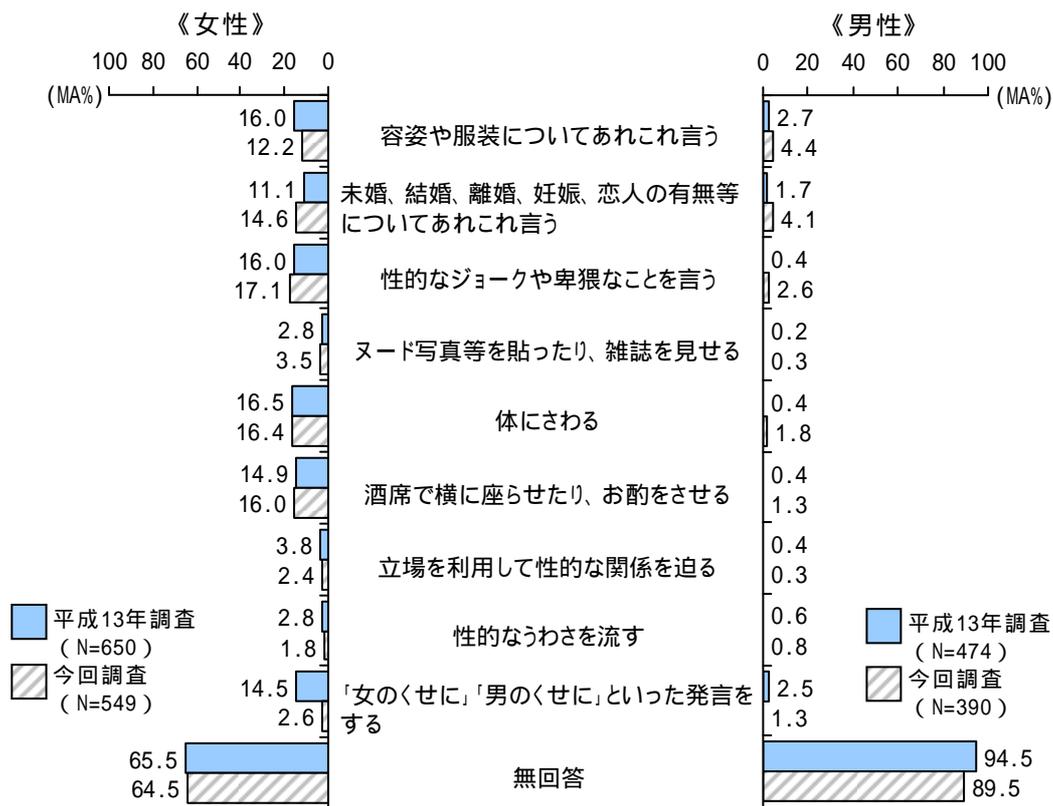
職業別にみると、「性的なジョークや卑猥なことを言う」、「体にさわる」、「酒席で横に座らせたり、お酌をさせる」は女性の「勤め人(フルタイム)」、「勤め人(パート・アルバイト)」、「勤め人(契約・派遣社員)」でいずれも2割台となっている。

【経年比較 見たり聞いたりしたことがあるセクハラ行為】



経年比較をみると、「見聞きした行為」について男女ともにほとんどの項目で割合は増加し、「未婚、結婚、離婚、妊娠、恋人の有無等についてあれこれ言う」は男性で 21.1 ポイント、「容姿や服装についてあれこれ言う」は男性で 16.1 ポイント、「性的なジョークや卑猥なことを言う」は男性で 14.8 ポイント増加している。「女のくせに」「男のくせに」といった発言をする」は女性で 18.0 ポイント、男性で 22.9 ポイント減少している。

【経年比較 受けたことがあるセクハラ行為】

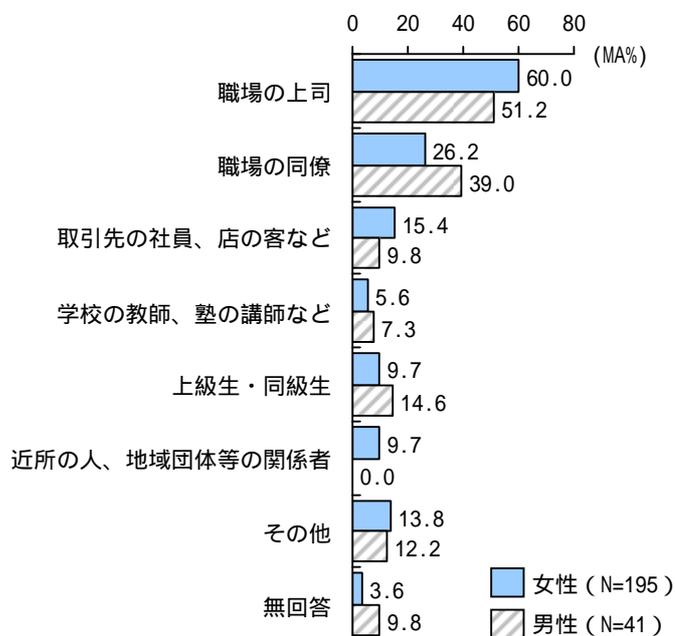


経年比較をみると、「男のくせに」「女のくせに」といった発言をする」は女性で11.9ポイントの減少となっている。

《問22で「受けたことがある行為」に1つでも をつけられた方におたずねします。》

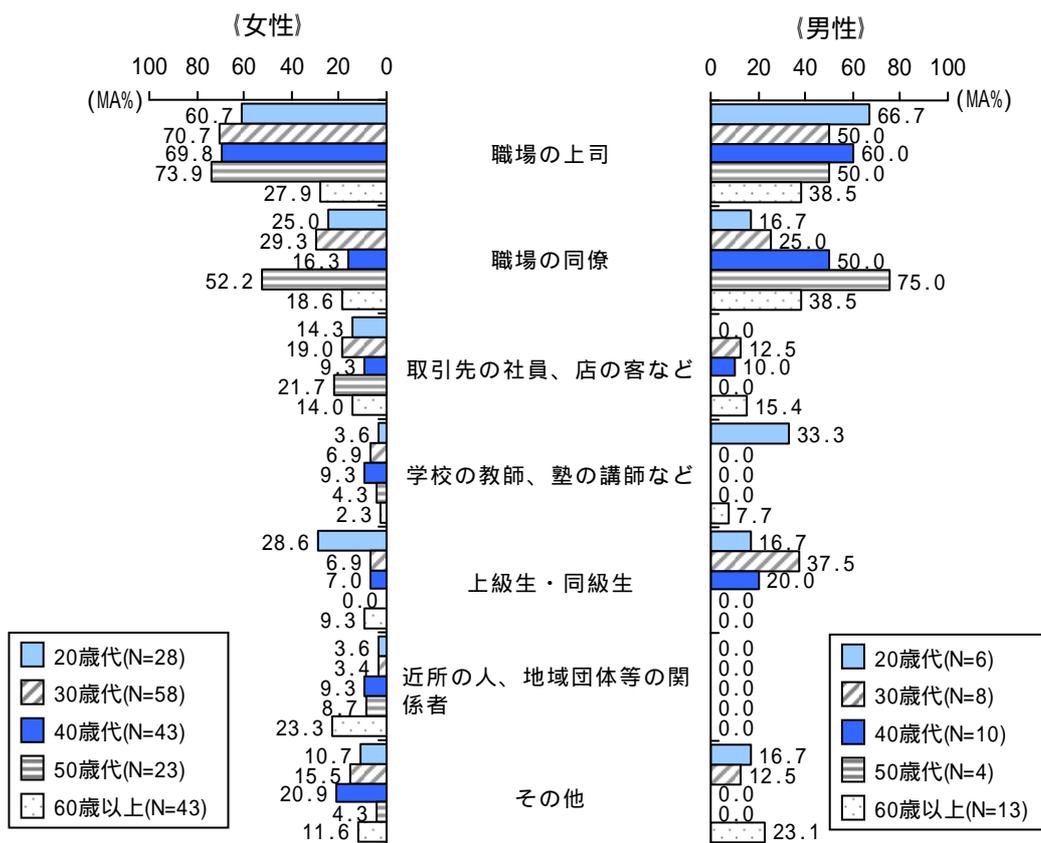
問22-1 その行為を受けたのは誰からですか。( はいくつでも )

【図6-9 セクシュアル・ハラスメントを受けた相手】



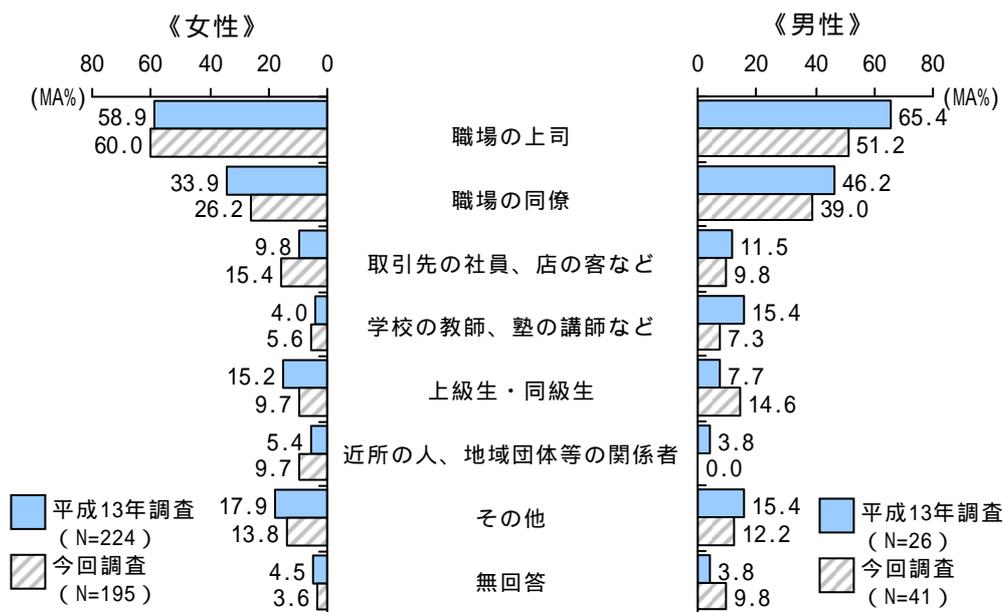
セクシュアル・ハラスメントを受けた相手は、女性では「職場の上司」が60.0%と最も高く、次いで、「職場の同僚」が26.2%となっている。男性では「職場の上司」が51.2%、「職場の同僚」が39.0%となっている。(図6-9)

【年代別 セクシュアル・ハラスメントを受けた相手】



年代別に見ると、「職場の同僚」は女性の50歳代で高くなっている。

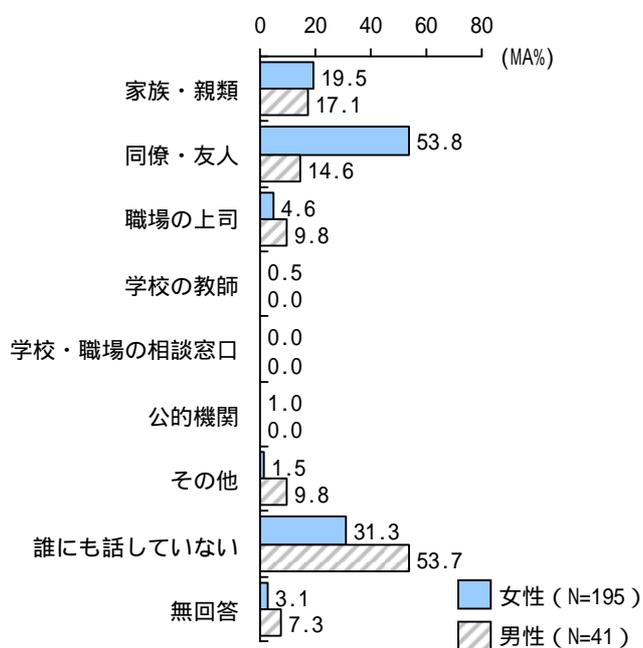
【経年比較 セクシュアル・ハラスメントを受けた相手】



経年比較をみると、大きな変化はみられない。

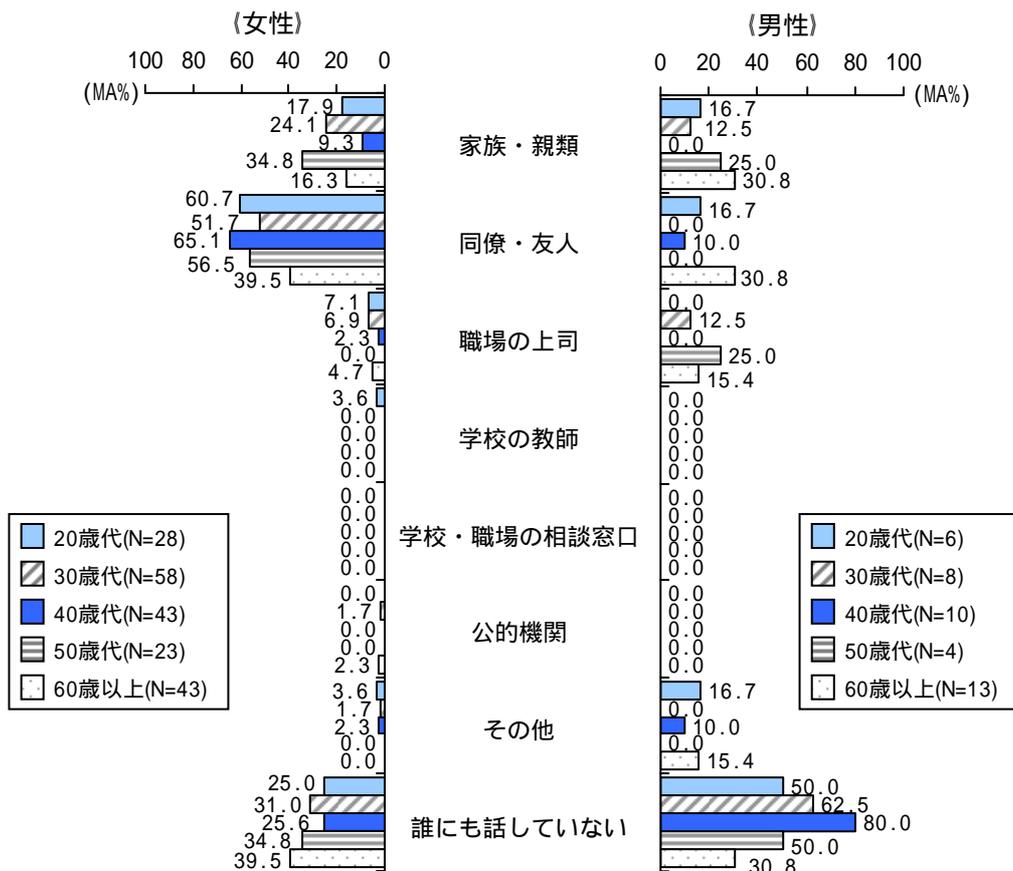
《問22で「受けたことがある行為」に1つでも をつけられた方におたずねします。》  
問22-2 あなたは、それを誰かに話したり相談したりしましたか。( はいいくつでも)

【図6 - 10 セクシュアル・ハラスメントを受けた際の相談相手】



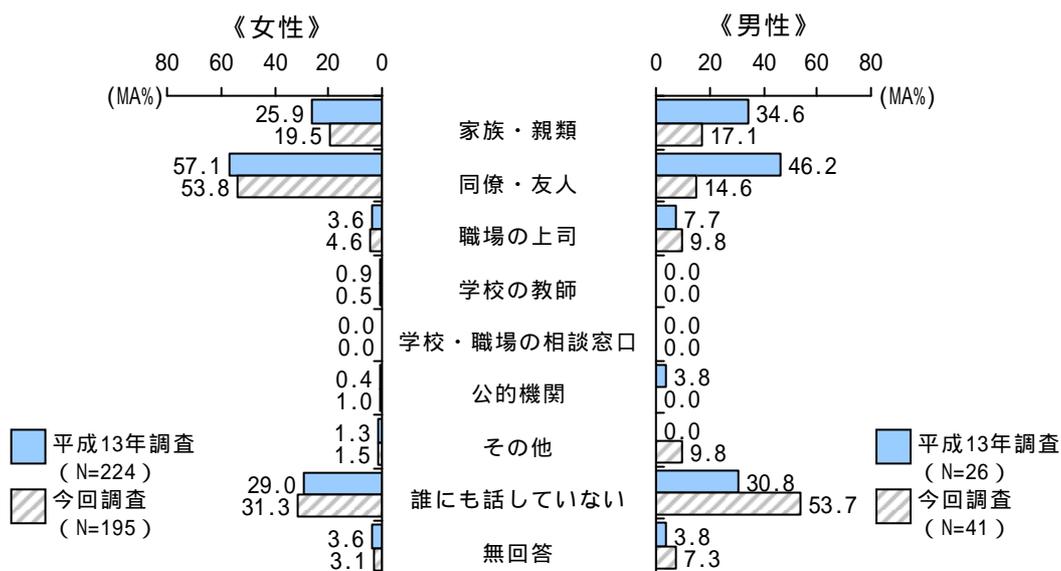
セクシュアル・ハラスメントを受けた際の相談相手は、女性では「同僚・友人」が 53.8%と最も高く、次いで、「家族・親類」が 19.5%となっている。男性では、「家族・親類」が 17.1%、次いで、「同僚・友人」が 14.6%となっている。「同僚・友人」では女性の方が 39.2 ポイント高く、男女差が大きくなっている。「誰にも話していない」は女性で 31.3%、男性で 53.7%となっている。(図6 - 10)

【年代別 セクシュアル・ハラスメントを受けた際の相談相手】



年代別にみると、「家族・親類」は50歳代女性で高くなっている。

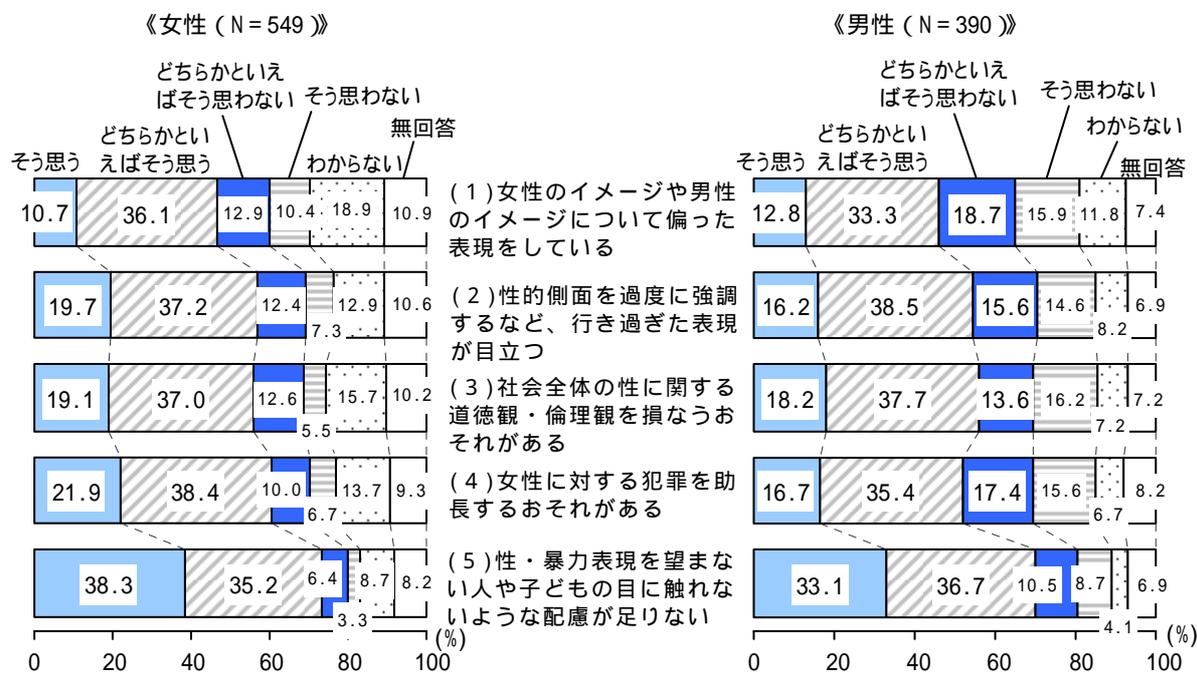
【経年比較 セクシュアル・ハラスメントを受けた際の相談相手】



経年比較をみると、男性の「同僚・友人」が31.6ポイント減少している。

問23 テレビ、新聞、雑誌、インターネットなどメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのように思いますか。( は各項目に1つ)

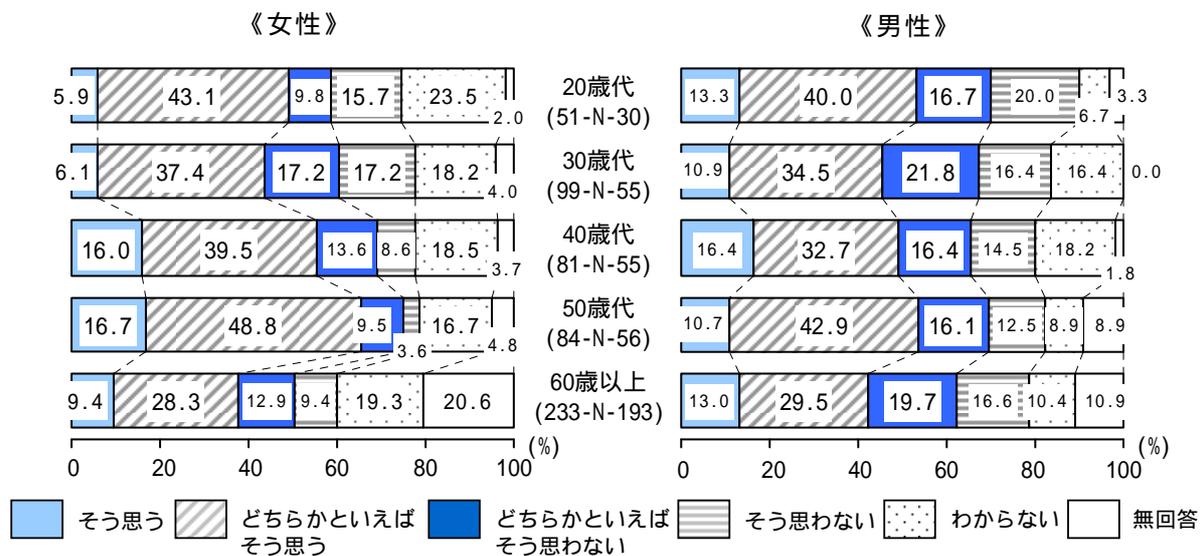
【図6-11 メディアにおける性・暴力表現についての考え】



メディアにおける性・暴力表現についての考えは、男女ともに「(5) 性・暴力表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」で『そう思う』(「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせたもの)という人が高く、女性で73.5%、男性で69.8%となっている。また、その他の項目でも「(1) 女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている」を除く全ての項目で男女とも『そう思う』は半数以上となっている。『そう思わない』(「そう思わない」と「どちらかと言えばそう思わない」を合わせたもの)という人は全ての項目で男性の方が高くなっている。(図6-11)

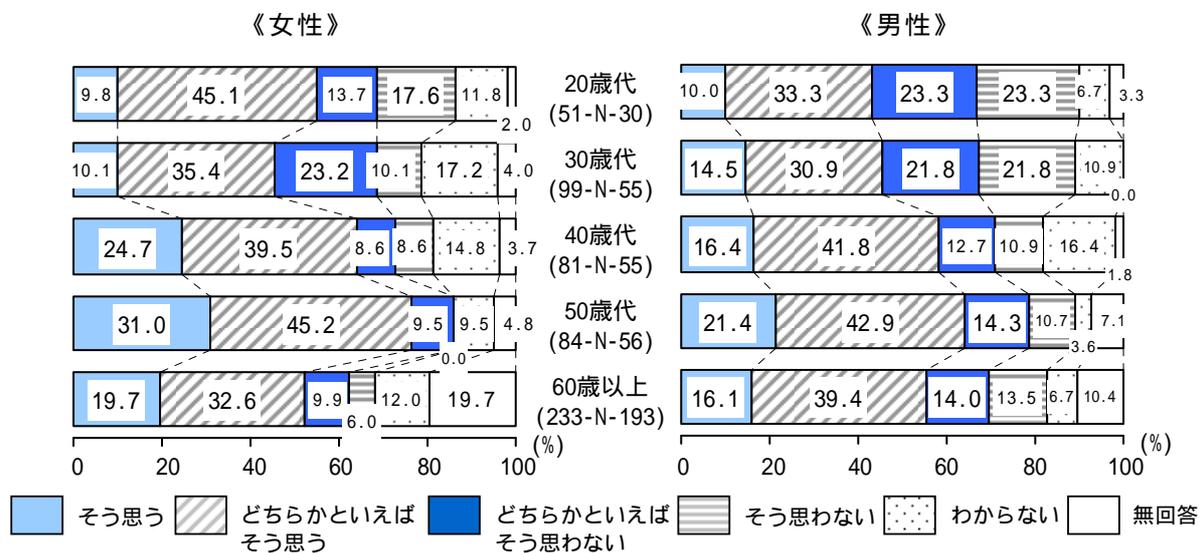
【年代別 メディアにおける性・暴力表現についての考え】

(1) 女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている



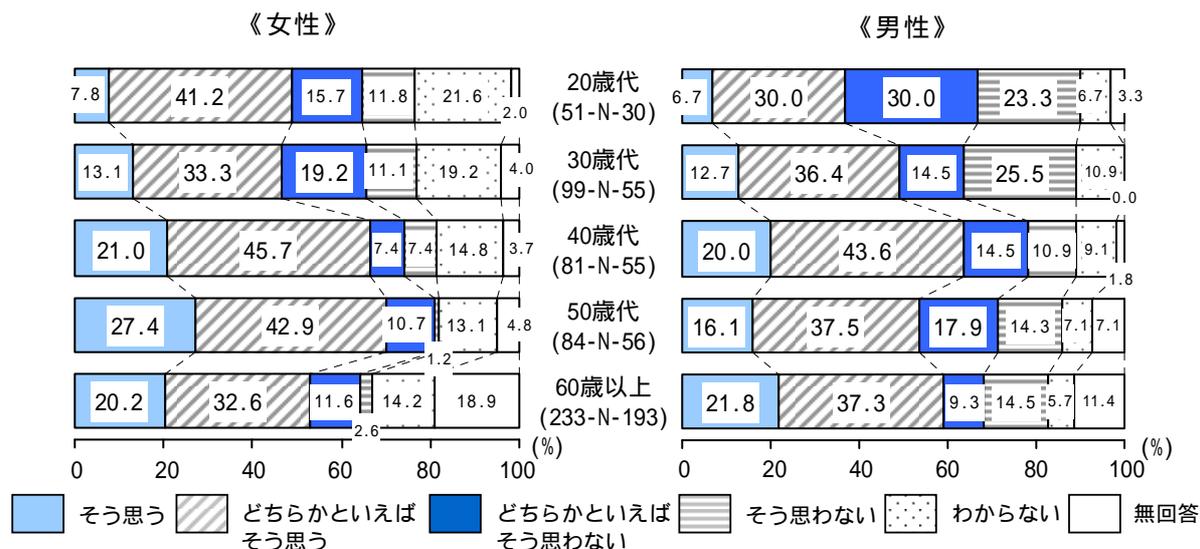
年代別にみると、『そう思う』は女性の40歳代で55.5%、50歳代で65.5%と高くなっている。

(2) 性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ



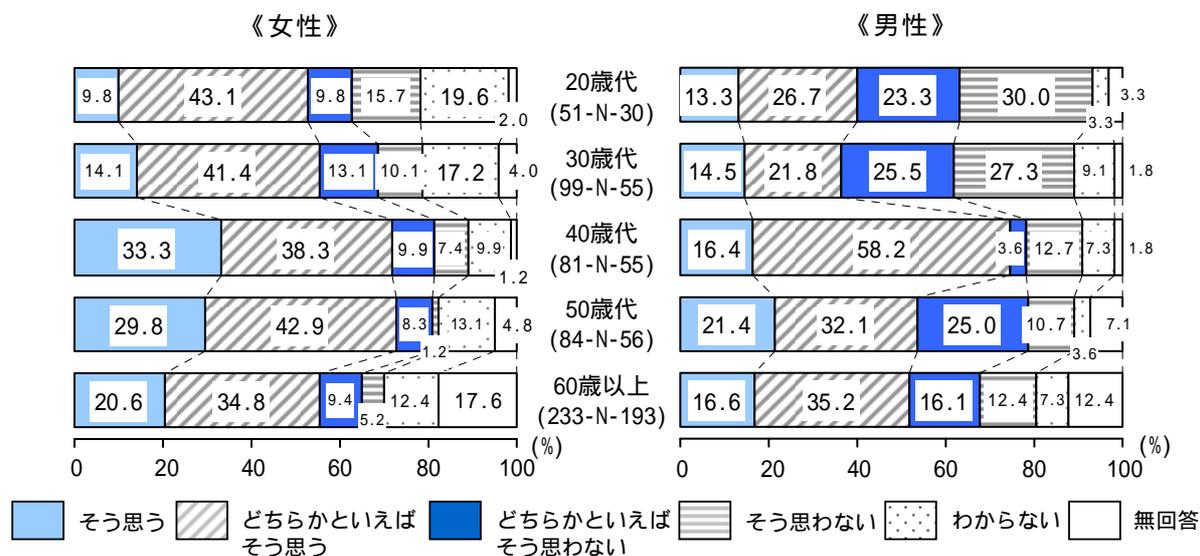
年代別にみると、『そう思う』は女性で40歳代、50歳代が高く、20歳代、30歳代で低くなっている。

(3) 社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なうおそれがある



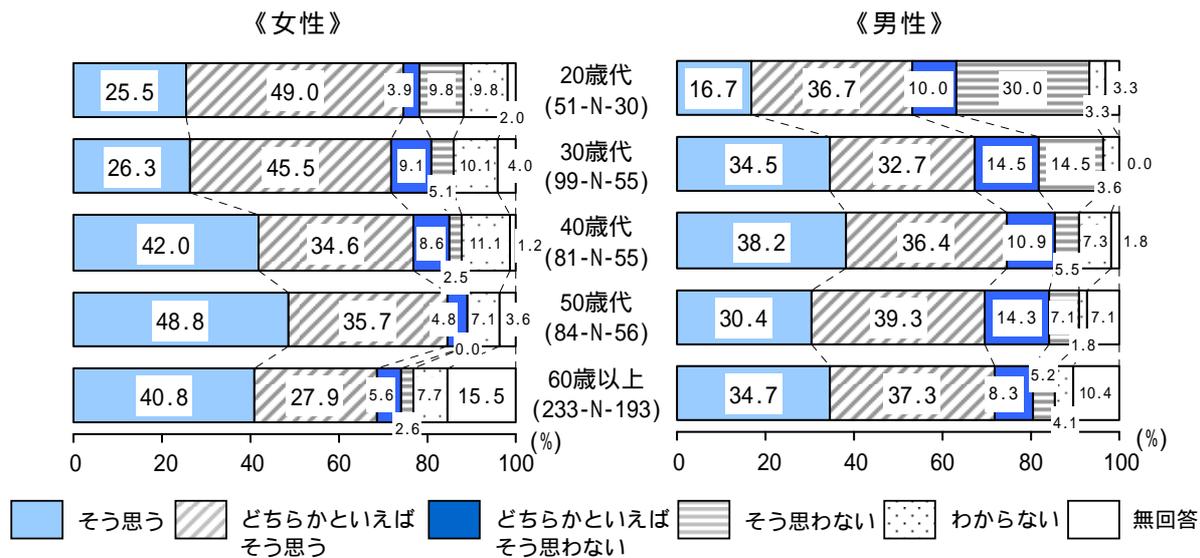
年代別にみると、『そう思う』は女性の40歳代、50歳代で高くなっている。

(4) 女性に対する犯罪を助長するおそれがある



年代別にみると、『そう思う』は女性では40～50歳代で7割台と高くなっている。男性では40歳代で74.6%と高くなっている。

(5) 性・暴力表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない



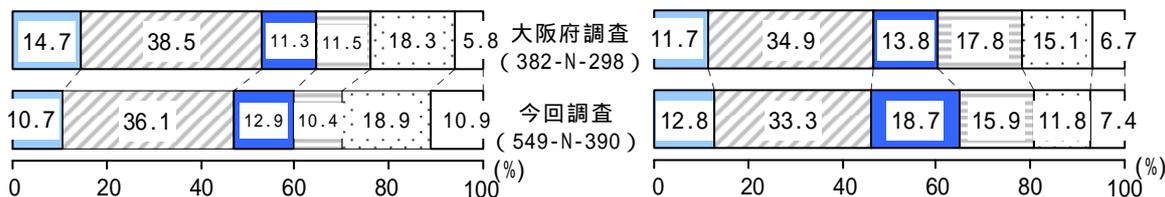
年代別にみると、年代による大きな違いはみられない。

【大阪府との比較 メディアにおける性・暴力表現についての考え】

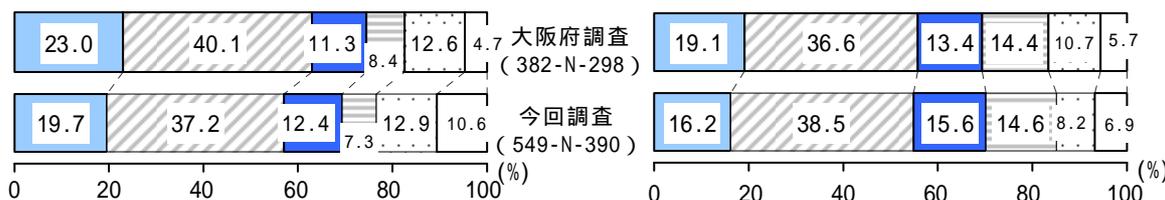
《女性》

《男性》

(1) 女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている



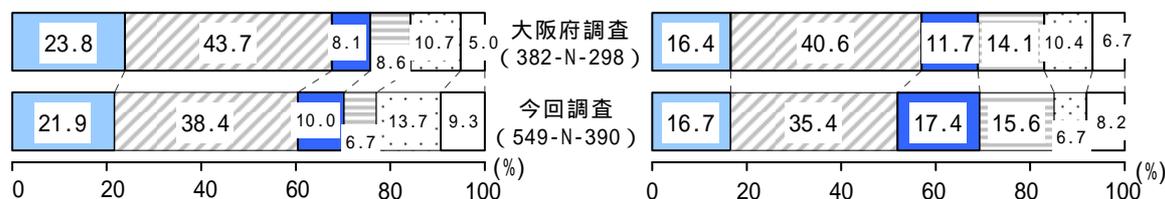
(2) 性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ



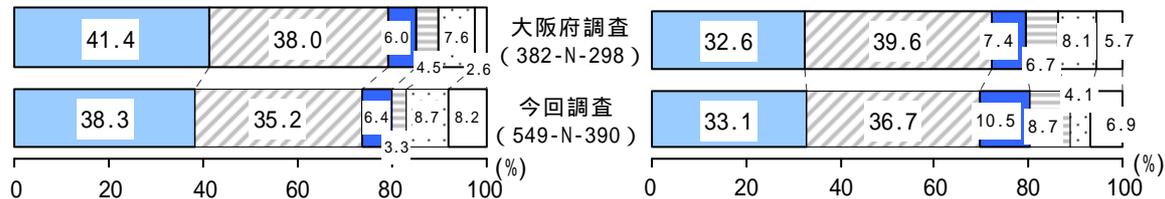
(3) 社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なうおそれがある



(4) 女性に対する犯罪を助長するおそれがある



(5) 性・暴力表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない

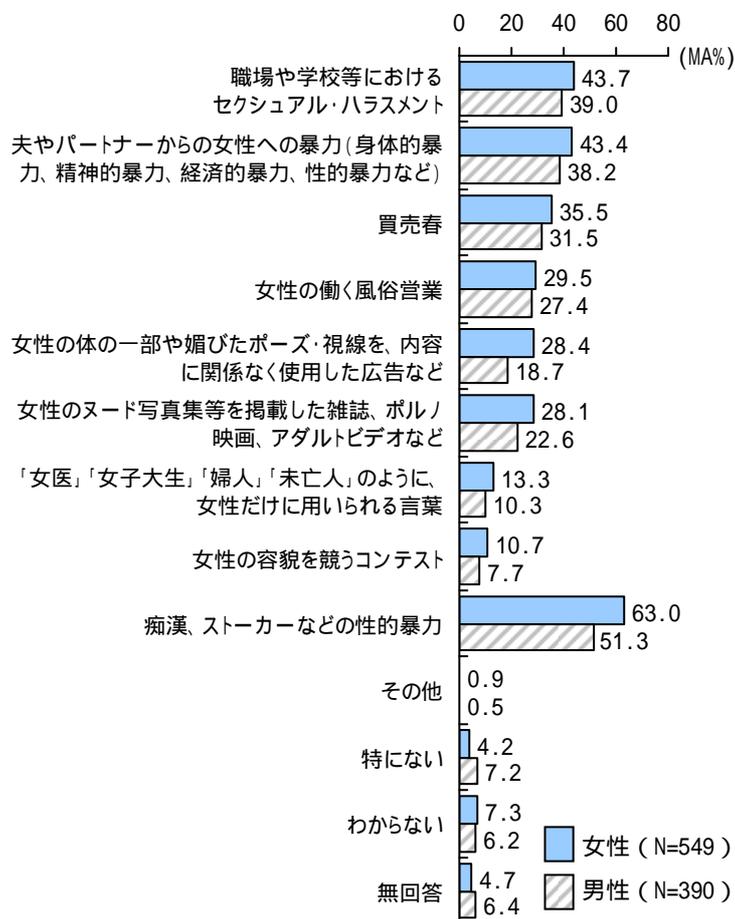


そう思う
 
 どちらかといえばそう思う
 
 どちらかといえばそう思わない
 
 そう思わない
 
 わからない
 
 無回答

大阪府との比較をみると、女性では『そう思う』は全項目で大阪府よりも高槻市の方が若干低く、「(3) 社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なうおそれがある」で 8.6 ポイント、「(4) 女性に対する犯罪を助長するおそれがある」で 7.2 ポイントの差となっている。

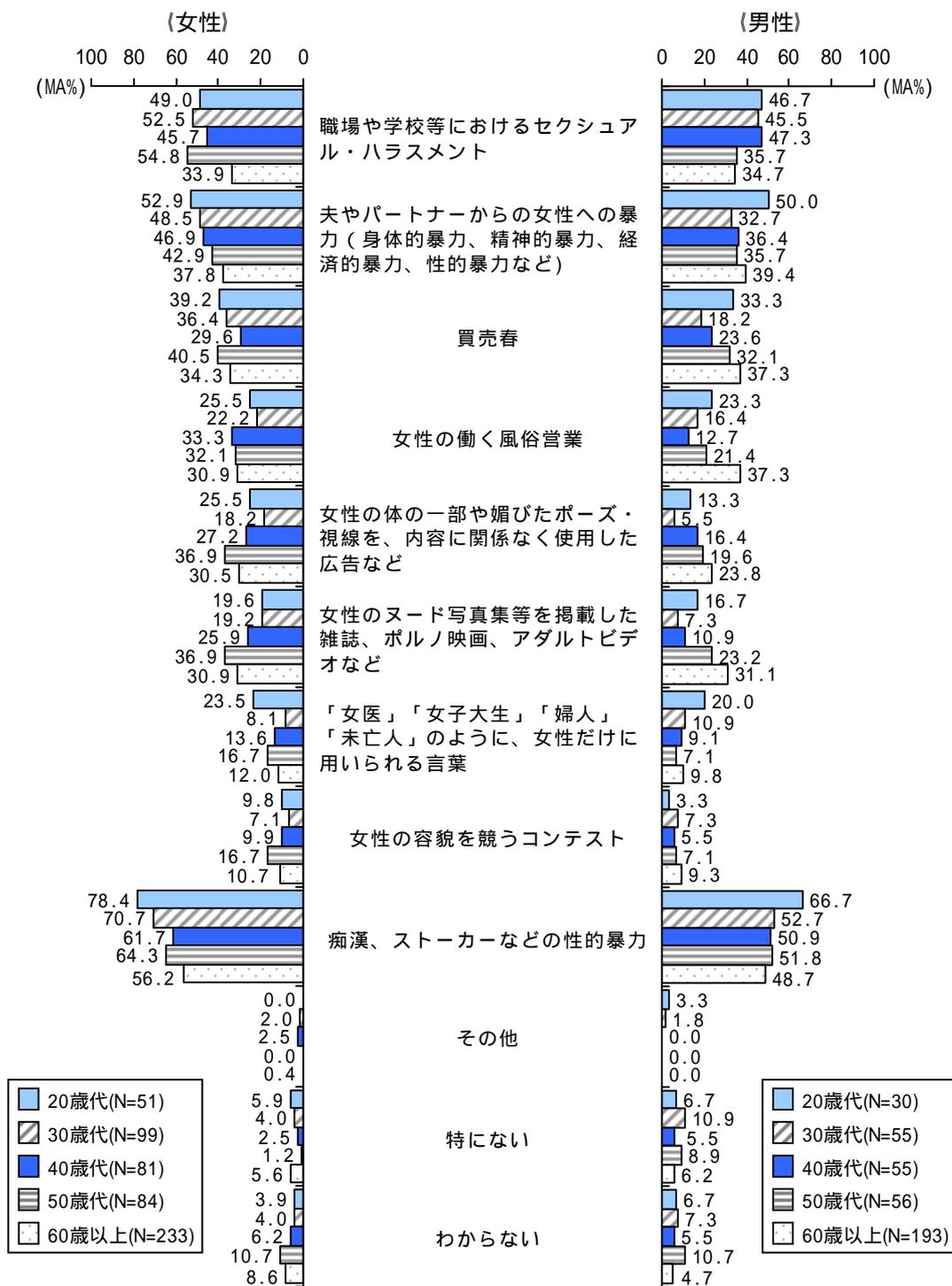
問24 女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。  
 (はいくつでも)

【図6-12 女性の人権が尊重されていないと感じること】



女性の人権が尊重されていないと感じることは、男女ともに「痴漢・ストーカーなどの性的暴力」が最も高く、女性で63.0%、男性で51.3%となっている。次いで、「職場や学校等におけるセクシュアル・ハラスメント」が女性で43.7%、男性で39.0%、「夫やパートナーからの女性への暴力(身体的暴力、精神的暴力、経済的暴力、性的暴力など)」が女性で43.4%、男性で38.2%となっている。(図6-12)

【年代別 女性の人権が尊重されていないと感じること】

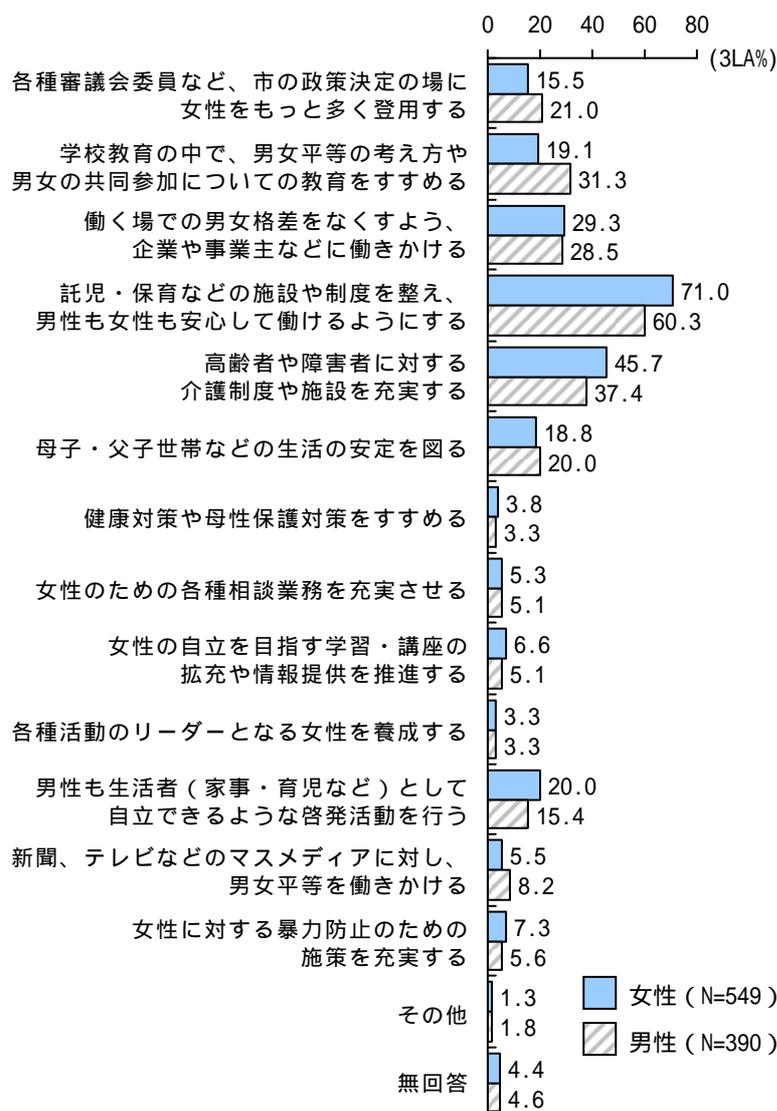


年代別にみると、「痴漢、ストーカーなどの性的暴力」は女性の 20 歳代で高くなっている。「女性の働く風俗営業」、「女性のヌード写真集等を掲載した雑誌、ポルノ映画、アダルトビデオなど」は男性の 60 歳以上で高くなっている。

## 7. 男女共同参画社会の推進に向けて

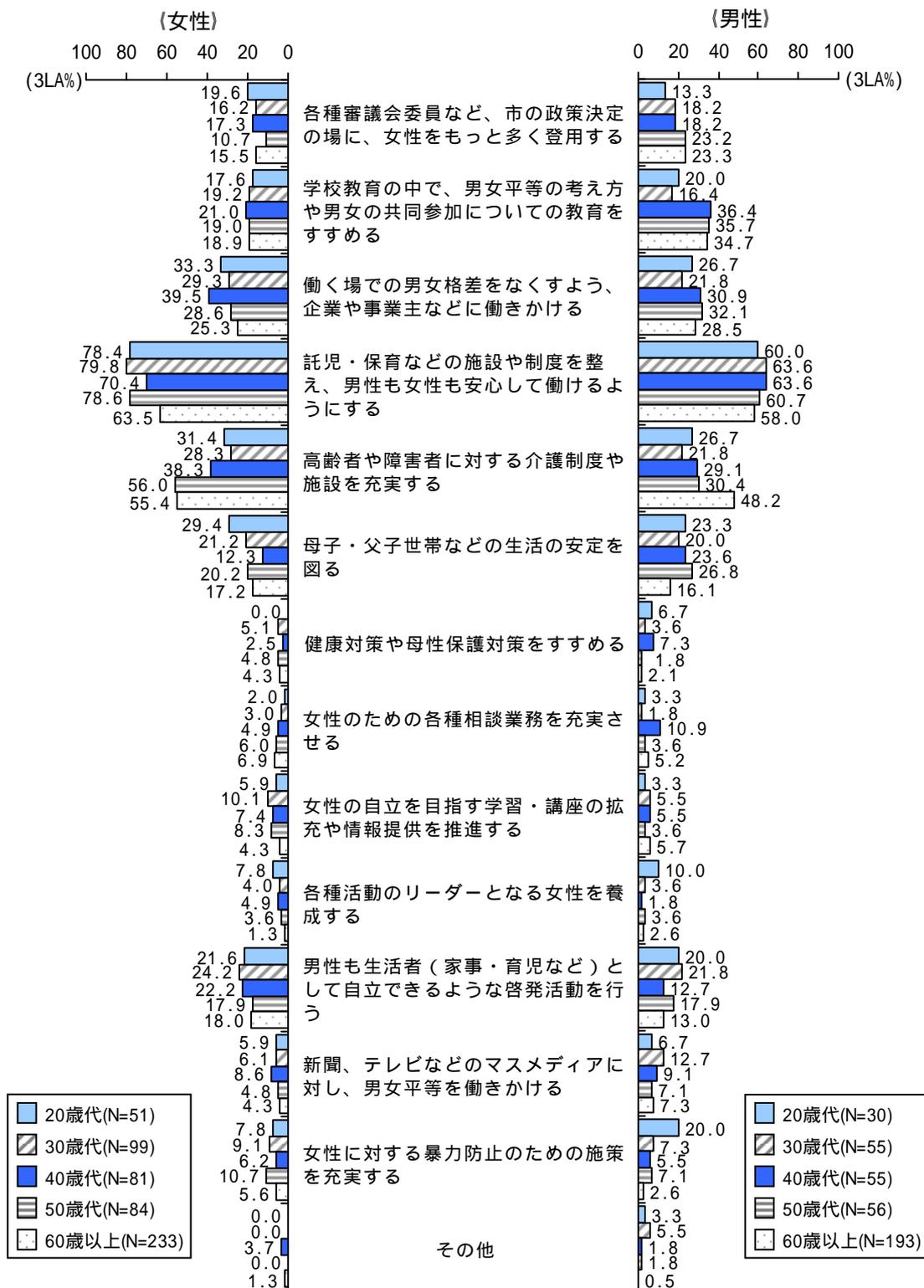
問25 市では、男女共同参画社会の形成を目指し、様々な施策に取り組んでいます。今後、どのようなことに力を入れるのがよいと思いますか。( は3つまで)

【図7 - 1 今後、市で力を入れるのがよいと思う施策】



今後、市で力を入れるのがよいと思う施策は、男女ともに「託児・保育などの施設や制度を整え、男性も女性も安心して働けるようにする」が最も高く、女性で 71.0%、男性で 60.3%となっている。次いで、「高齢者や障害者に対する介護制度や施設を充実する」が女性で 45.7%、男性で 37.4%となっている。(図7 - 1)

【年代別 今後、市で力を入れるのがよいと思う施策】



年代別にみると、「託児・保育などの施設や制度を整え、男性も女性も安心して働けるようにする」は女性では20～50歳代で7割を超えている。「高齢者や障害者に対する介護制度や施設を充実する」は男女ともに高年齢層で高くなっている。「学校教育の中で、男女平等の考え方や男女の共同参加についての教育をすすめる」は男性の40歳代以上の年代で高くなっている。

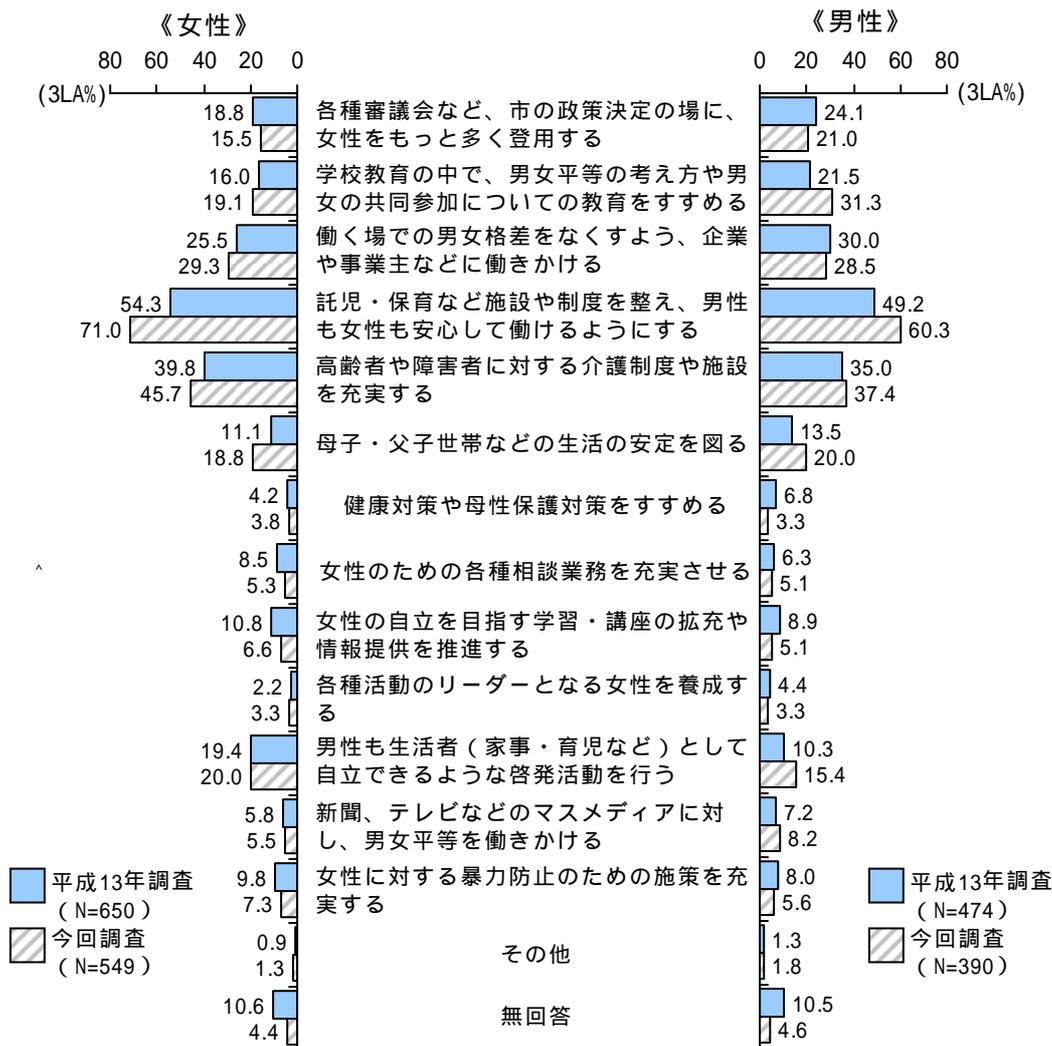
【職業別 今後、市で力を入れるのがよいと思う施策】

(31.4%)

	N	もつと多く登用する	各種審議会委員など、市の	にの考え方や男女の共同参加	学校教育の中で、男女平等	に働きかける	働く場での男女格差をなくすよう、企業や事業主などに働きかける	託児・保育などの施設や制度を整え、男性も安心して働くようにする	託児・保育などの施設や制度を整え、男性も安心して働くようにする	高齢者や障害者に対する介護制度や施設を充実する	の安定を図る	母子・父子世帯などの生活を	健康対策や母性保護対策をすすめる	女性のための各種相談業務を充実させる	女性の自立を目指す学習・講座の拡充や情報提供を推進する	女性の活動をリーダーとなる	各種活動のリーダーとなる	女性も生活者（家事・育児など）として自立できるように啓発活動を行う	男性も生活者（家事・育児など）として自立できるように啓発活動を行う	働きかける	新聞 テレビなどのマスメディアに対し、男女平等を	女性に対する暴力防止のための施策を充実する	その他	無回答
女性	勤め人 (フルタイム)	112	16.1	20.5	42.0	74.1	34.8	19.6	3.6	2.7	6.3	3.6	19.6	4.5	8.9	0.0	2.7							
	勤め人 (パート・アルバイト)	95	5.3	17.9	31.6	73.7	42.1	22.1	0.0	4.2	9.5	3.2	25.3	7.4	5.3	3.2	4.2							
	勤め人 (契約・派遣社員)	11	0.0	27.3	54.5	72.7	45.5	27.3	0.0	18.2	0.0	9.1	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0							
	自営業・自由業 (家族従業員を含む)	21	19.0	14.3	19.0	85.7	66.7	28.6	0.0	0.0	9.5	0.0	19.0	9.5	0.0	0.0	0.0							
	主婦・主夫	198	18.2	16.2	21.2	73.2	50.0	15.7	6.1	7.1	7.1	2.0	22.2	4.5	7.6	2.0	3.5							
	学生	8	50.0	0.0	25.0	75.0	12.5	37.5	0.0	0.0	0.0	25.0	12.5	0.0	12.5	0.0	12.5							
	無職	91	17.6	24.2	28.6	57.1	54.9	17.6	3.3	5.5	4.4	4.4	13.2	5.5	6.6	0.0	8.8							
	その他	10	10.0	40.0	20.0	70.0	20.0	10.0	20.0	10.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0							
	男性	勤め人 (フルタイム)	162	22.8	27.8	27.8	63.6	30.9	22.2	2.5	4.9	6.2	3.7	14.8	10.5	7.4	3.7	1.2						
勤め人 (パート・アルバイト)		19	10.5	47.4	26.3	73.7	31.6	42.1	5.3	0.0	5.3	0.0	21.1	5.3	0.0	0.0	0.0							
勤め人 (契約・派遣社員)		23	21.7	30.4	30.4	65.2	21.7	21.7	4.3	0.0	4.3	0.0	21.7	13.0	4.3	0.0	4.3							
自営業・自由業 (家族従業員を含む)		33	15.2	21.2	33.3	66.7	33.3	24.2	9.1	3.0	6.1	3.0	12.1	6.1	9.1	0.0	3.0							
主婦・主夫		1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0							
学生		8	0.0	12.5	25.0	50.0	50.0	25.0	0.0	0.0	12.5	12.5	25.0	0.0	25.0	0.0	12.5							
無職		130	23.8	36.9	28.5	53.8	47.7	13.1	3.1	8.5	3.8	3.1	13.8	6.9	3.1	0.8	7.7							
その他		2	8.3	41.7	25.0	50.0	66.7	8.3	0.0	0.0	0.0	8.3	25.0	0.0	0.0	0.0	16.7							

職業別にみると、「勤め人（フルタイム）」の女性で、「働く場での男女格差をなくすよう、企業や事業主などに働きかける」が42.0%と高くなっている。

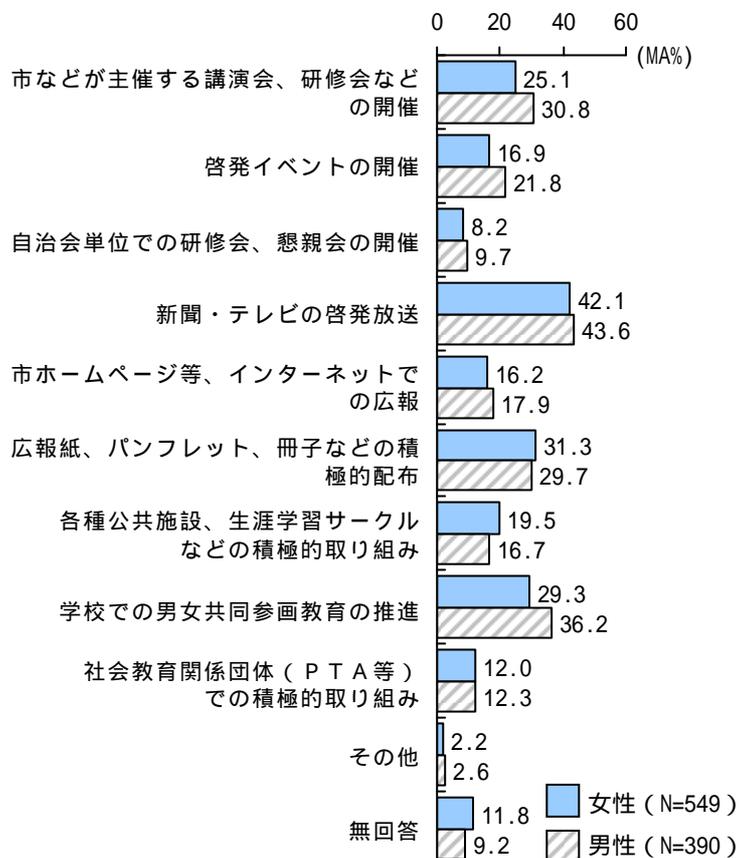
【経年比較 今後、市で力を入れるのがよいと思う施策】



経年比較をみると、「託児・保育など施設や制度を整え、男性も女性も安心して働けるようにする」は男女ともに増加しており、女性で 16.7 ポイント、男性で 11.1 ポイントの増加となっている。「母子・父子世帯などの生活の安定を図る」でも女性で 7.7 ポイント、男性で 6.5 ポイントの増加となっている。

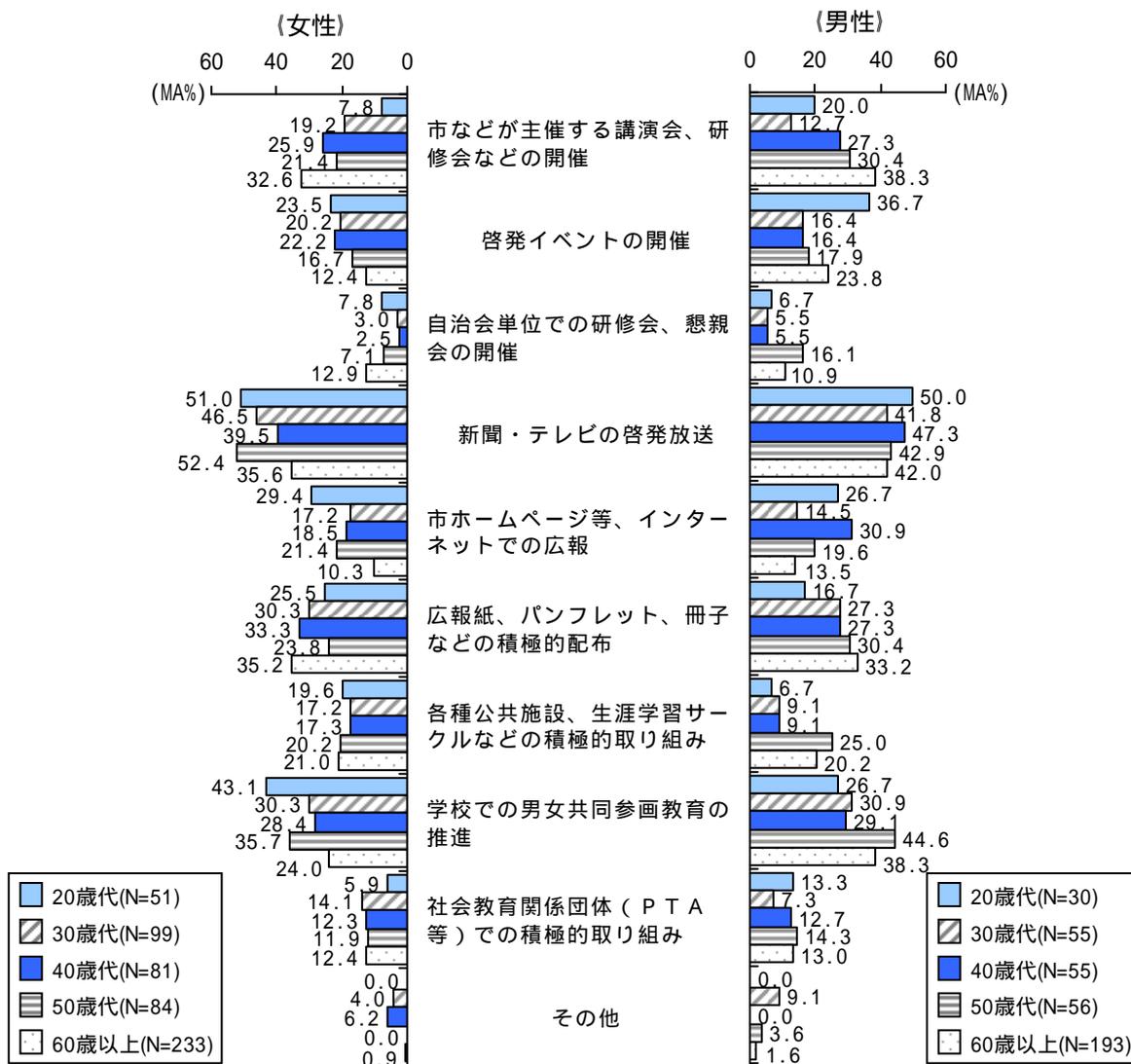
問26 男女共同参画社会を推進していくために、今後の啓発方法として、効果的だと思うものにをつけてください。(はいくつでも)

【図7-2 今後の啓発方法として効果的だと思うもの】



今後の啓発方法として効果的だと思うものは、男女ともに「新聞・テレビの啓発放送」が最も高く、女性で42.1%、男性で43.6%となっている。次いで、女性では「広報紙、パンフレット、冊子などの積極的配布」が31.3%、「学校での男女共同参画教育の推進」が29.3%となっている。男性では「学校での男女共同参画教育の推進」が36.2%、「市などが主催する講演会、研修会などの開催」が30.8%、「広報紙、パンフレット、冊子などの積極的配布」が29.7%となっている。(図7-2)

【年代別 今後の啓発方法として効果的だと思うもの】



年代別にみると、「市などが主催する講演会、研修会などの開催」は男女とも高年齢層で高く、「啓発イベントの開催」は男性の20歳代で高くなっている。